以テ不取敢最近便ア

次第内外ノ形勢ニ通スル外務ノ先輩

夕自分等ノ働ク時アルヘシト申シタリニ乗リタル「イージー、メン」ナリト揶揄サルルカ然シ復ご乗リタル「イージー、メン」ナリト揶揄サルルカ然シ復立・リー、シック」ト申シ又自分等ハ同僚ヨリ日本側ノ手で調節ニハ熱心ナリシタケ失望シ居リ月曜ニ帰ルヘキモウニがリ典味ヲ惹起セサリキ又話ノ間ニ「ハル」ハ日米国同氏ハ日本ハ西比利亜進駐ヲ用意シツツアルニアラスヤト

通りナリト申セシカ本使ノ観ル所ニテハ米国ハ第一ニ経済 ヲ以テ東部戦線片付クモ当分大活動ヲ為シ難カル 独軍ハ人員、物資ノ損失多大油モ欠乏シツツアル模様ナル プキンス」カ語レリト云ハルル程楽観的ノコトハ言ハス唯 昨日新聞記者ニ語リ或ハ今莫斯科ニ在ル大統領ノ腹心「ホ シツツアリト認ム独逸ノ対蘇戦予期サレタルヨリモ長引ク シ英国及蘭印ハ素ヨリ支那蘇連邦ヲモ同調協力セシメント 日本ノ政策ニ対スル対抗手段ナリト申シ又同時ニ武力衝突 戦ヲ以テ日本ノ進出ヲ抑制セントシツツアルカ当局ハ皆之 同氏ハ又大統領ハ戦争ヲ欲セサルコト コトハ大ニ米国ノ好材料トナリ居ルカ此ノ閣僚ハ大統領カ ノ場合ニ備へツツアルハ御承知ノ通リナリ且此ノ目的ニ対 二米国生産モ長足ノ進歩ヲ為シ有利ナリトシ飽迄数年ニ ハ貴大使モ御承 ヘク其 知

# 二 日米首脳会談の申入れ

124 昭和16年8月4日 豊田外務大臣宛(電報)

## 来栖大使の派遣方要請

ワシントン 8月4日後発

本 省 8月5日後着

第六四六号(外機密、館長符号)

此ノ際違算アツテハ真ニ申訳ナク且ハ微力ニモ限リアルヲス強硬ナルカ然シ尚門戸ハ全部閉鎖セルモノニアラサル意向ヲを断シ難シ若杉岩畔ノ帰朝報告ヲ為スアルモ何分ニモ形勢トナリ居ル有様ナリ日ヲ経ルニ従ヒ多少緩和スルコトモ期トナリ居ル有様ナリ日ヲ経ルニ従ヒ多少緩和スルコトモ期とアリ現在ノ所米独ノ問題ヨリモ日米関係ハ輿論ノ焦点数ナルカ然シ尚門戸ハ全部閉鎖セルモノニアラサル意向ヲシがシ難シ若杉岩畔ノ帰朝報告ヲ為スアルモ何分ニモ形勢・大りの道域を対している。

特ニ御詮議ノ上速カニ御実行相成様致度シ知ル由ナク当方ニ於テモ手ノ下シ様モナキ次第ナルヲ以テ様御取計ヒ相成度シ何分政府御方針ノ機微ニ触レタル所ヲ(例ヘハ来栖大使)ヲ一時出張セシメ本使ニ協力セシムル

125 昭和16年8月5日 豊田外務大臣宛(電報)

## 欧州戦後の日米関係について若杉公使と米国

## 国務次官会談要旨報告

ワシントン 8月5日後発

省 8月6日後着

本

第六五二号(極秘、館長符号扱)

若杉ヨリ政府へ報告ノ為メ帰朝ニ際シ米国政府ノ意向ヲ明見交換ヲ為シタルカ其ノ要点電報ス四日若杉「ウェルズ」次官訪問一時間半ニ亘リ会談左記意

確ニ承知シ置ク必要アリ又米国政府ヨリ帝国政府ニ対シ伝

190

亘ル長期戦ノ必要ヲ信シ居リタリ

近ノ小国ヲ順次

ニ保護国ト為スコト

(若杉ヨリ仏印

25

モ米国ノ重キヲ置

如キ強国カ「ヒットラー」主義ト同様武力ニ依リ

|クハ武力ヲ用フルコトニ反対ナル

点ナリ 然レト

付

特権ノ如キハ何時ニテモ之ヲ放棄スルノ用意アリ

ルカ米国ノ行動ハ之ニ基クモノニ非ス現ニ是等

年ニ過キサ

注意セル

「ヴィシー ノ協約ニ依

一政府ニハ自 反 駁セ

八合意ニ

スシテ強制

二依

ルモノ

リ) ヲ容認ス 由意志無ク右

n 時

ハ 世界 国政

府ト

り平和

的基礎ニ基ク行動ナラ

ス 進

7 駐

ŀ

テーツマンシップ」(武力ニ依ラサルノ意) ヲ発揮スル 遇セルコトナシ今日残サレタル最後ノ仕事ハ両国カ ション」ヲ有シ居ルニ拘ラス今日ノ如ク険悪ナル事態ニ遭 五年前日本在勤当時以来日本ニ対スル異常ナル「アド 欲シ素ヨリ日本ニ対シ「アグレッシヴ」又ハ圧迫ヲ加 及「ハル」長官カ日米間ノ友好関係ヲ熱望シツツアル 建設二付意見ヲ交換シタキ旨ヲ述ヘタル処 ニ付米国ノ対日要望ノ限度第二欧州戦争後世界ノ平和機構 達サレタキ用件モアラハ承リタク其ノ上ニテ第一日米関係 ハ衝突シ居り相当危殆ニ瀕シ居ルハ事実ニシテ自分ハ二十 カ如キ意図ハ毛頭無之モ現在ニ於テハ如何セン両国ノ政策 ル所ナルヲ以テ米国政府ハ何トカシテ之ヲ維持センコト 二亘り啻二平和ノミナラス其ノ友好関係ハ国際史上稀ニ見 屢々大使ニ述ヘラレタル通りニシテ日米間 縷々述へタルヲ以テ 「ウ」ハ大統領 ノ関係ハ長年 「ス レー ラル コト = ラ P

若(2)リトョ 何ナル ル侵略的態勢及近来経済的圧迫ニ対シ極東ノ重鎮トシテ膨 カ充分ニ理解シオラサルハ西洋列国ノ極東植民地ニ於ケナル「ステーツマンシップ」アリヤ日本ノ行動ニ付欧米 リ今日ノ事態ハ当ニ其ノ通リナル 処米国側ニ於テ如

> 問題トハ同日ノ論ニアラスト説明セル処「ウ」ハ日 若杉ノ求メニ応シ右提案ヲ左ノ通リ説明セリ 領カ大使ニ対シ提議セル案モ此ノ見地ニ基クモ 以テ之カーヲ得ントスル点ニ異議アル次第ニシテ過日大統(「聶トササ) スピレー 張性ヲ有スル日本民族ノ有スル ト日本ノ生存ニ関スル「ナショナル・セキュリ ション」ハ良ク了解シ得ル所ナルモ日本カ武力ヲ 「フュウ」ナル ノナリ 理想上ノ政 本ノ「ア チー」ノ トテ

> > 192

即チ日本ノ仏印進駐ハーハ英支連合(多分米ヲモ シス」)ニ於テ日本ノ要望ニ応セシムルノ覚悟アリ 獲得ニ付テハ仏印ノ物資ヲ以テ日本ノ需要ヲ満シ得ヘシト 加セルコトハ過日大使ニ通シ置ケル通リナリ又原料資源ノ 脅威ヲ及ホササル協定ヲ為シ同地ヲ中立トスル ヲ獲得スル為ナル由ナルヲ以テ大統領ハ日本カ撤兵ス ナラント付言ス)ノ脅威ニ対スル防衛ト称シニハ ハ信セサル (蘭支ヲ含ムト云フ)ヲシテ均等ノ基礎(「イクォ 第一理由ハ満足セラル ニ於テハ日米英支(予メ蘭ヲ加へ)ニ於テ各国共仏 ノ提案ニ対シ日本側ノ回答ヲ期待シ居ル旨述ヘタリ モ右ノ協定可能ナラハ大統領ニ於テ関係 へク尚右中立地域ニ「タイ」ヲ追 時ハ日 ール・ベ 原料 加 ト明言シ  $\sim$ 之三 諸国 1本側 印二 資源

世界各国ノ現在ノ状態殊ニ米国ノ 網羅スル連盟(従来ノ国際連盟ト異リ国際的 尚戦後ノ平和機構ニサゼ ヽ, \~‐‐‐・・・・ 富強トナルコト確実ナリト信スルモノナリトテハ富強トナルコト確実ナリト信スルモノナリト 更ニ「タイ」ニ南進セントスル報道アリ事態ハ更ニ悪化セ 主張スル時ハ結局武力衝突ヲ免レサルヲ以テ之ヲ避ケント 場ト政策ヲ異ニスル日米両国カ各自ノ理論ト野望ヲ極端ニ キ多クハ武力ノ成果ニ非スヤ之カ維持ヲ以テ現状維持 ン」主義ヲ批判シ米国ハ武力ニ依 キモ資源ノ均分ヲ決セスシテ軍縮ヲ語ルハ「ヂスイ ル)ヲ組織スヘシトノ二点ヲ強調シ軍縮問題ハ当然残ル 各国間ニ原料資源ノ均等獲得ノ原則及或ル形 ンコトヲ憂フト語リ米国ハ日本カ平和政策ヲ遂行スルニ於 セハ双方ニ於テ其ノ行動ヲ地理的又ハ方法ニ於テ局限 スモ歴史眼ヨ ノ主張スル限度如何ト問 平和ト秩序ハ到底望ムヘカラスト云ヘリ若杉ヨリ 戦後ノ平和機構ニ付述ヘタル演説ノ趣旨ヲ敷衍シテ世界 他無キ処之ニ関シ米国ノ日本ニ要求スル限度及米国自身 ン」ナリト云ヘリ若杉ヨリ満州事変ノ際ノ「ス 1) 観レ ٧, 単二時間 ヘル処「ウ」ハ明答ヲ避ケ日 問題ニ過キサ 「カリビアン」 ル成果ヲ認 武力統制 X ノ世界全体ヲ スト云フモ ル -縷述セリ 政 = 策ノ チムソ 本ハ 以スル 二依 1 ス ル 1  $\sim$ 

米国ノ極東ニ於ケル特権(主トシテ支那ト云フ)ハ五、六十洋人ニ委ヌルノ考トナラサルヤト質問セル処「ウ」ハ成程

根拠ニ乏シク何故米国ハ西半球タケニ其ノ勢カヲ局限シ東警察権ヲ行使セントスル意図アルカ如ク見エ此ノ正当ナル

ヲ口実トシテ東洋ノ事態ニ迄モ関与スル

ハ米国カ世界

Ĵ

保シ乍ラ更ニ五、六十年ニ過キサル極東ニ於ケル権益特権

ティ」ノ国策ニ依り西半球ヲ自国ノ利益ノ為ニ覇権ヲ

更ニ若杉ヨリ米国ハ「ウエスタン・ヘミスフィルヤト反腊セルター・」

ヤ

ソリ

確ダ

|本ノ要求ハ交渉又ハ右列国ノ会談ニテ周施シ度キ意図ナパシ若杉ヨリ如上ノ御説明ニ依り米側ハ武力ヲ用ヒサレハ

セリ其ノ他ハ略ス八人類ノ進歩ナシトテ時代ニ依リ政策ノ進化スル旨ヲ縷述ハ人類ノ進歩ナシトテ時代ニ依リ政策ノ進化スル旨ヲ縷述後其ノ過誤ノ是正ニ努メ来レリ歴史ヲ繰返スノミニテハ自分ニ於テモ非難セル点鮮カナラス之カ為ニ米国ハ其ノト述へタルニ対シ「ウ」ハ過去ニ於ケル米国ノ行動ニ付テト述へタルニ対シ「ウ」ハ過去ニ於ケル米国ノ行動ニ付テト述へタルニ対シ「ウ」ハ過去ニ於ケル米国ノ行動ニ付テト述へタルニ対シ「ウ」の過去ニ於ケル米国ノ行動ニ付テト述へタルニ対シ「ウ」の過去ニ於ケル米国ノ行動ニ付テト述へタルニ対シ「ウ」の過去ニがケル米国ノ行動ニ付テト述への対している。

昭和16年8月5日 在米国野村大使宛(雷

126

## 答提示方訓令米国大統領の仏印中立化案に対する我が方回

宛第四四八号 宛第四四八号 八月五日付豊田外務大臣より在米国野村大使

トー 省 3月5日8南西太平洋の平和に関する我が方提案

本 省 8月5日後発

### 第四四七号

ル限り冷静理解アル対日態度ニ出テツツアル趣ナルモ我統領国務長官モ亦時ニ米輿論ノ動向如何ニ拘ラス出来得米国交ニ処シツツアル処貴大使屢次ノ報告ニ依レハ米大一、帝国政府ハ随時各種ノ内政上ノ障害ヲモ克復シ以テ日

ホンツツアリ ホンツツアリ ホンツツアリ 大統領ハ各種石油製品ノ対日輸出停止又ハ極端ナル制 限ヲ発令シ其ノ為発給済ミノ一切ノ許可取消サレタリト 限ヲ発令シ其ノ為発給済ミノ一切ノ許可取消サレタリト 限ヲ発令シ其ノ為発給済ミノ一切ノ許可取消サレタリト 強調スルモノ少カラス例へハ二日華府発読売特電ハ一日 が調スルモノ少カラス例へハ二日華府発読売特電ハー日 が調え、ルモノルカラス例への二日華の発読売特電ハー日

- キハ前記ノ例ニ照ラスモ明カナリ一、所謂対日包囲陣ノ強化又ハ経済的圧迫ニ依り我国論ヲ一、所謂対日包囲陣ノ強化又ハ経済的圧迫ニ依り我国論ヲ
- 調整カ出来得ル限リ友好且冷静ナル雰囲気裡ニ行ハレ且、一大の大きの二重慶市街ノ爆撃一時中止方断行ニモ表ハレタル我を的二重慶市街ノ爆撃一時中止方断行ニモ表ハレタル我の大きの二重慶市街ノ爆撃一時中止方断行ニモ表ハレタル我の大きの大きのでは、今や日米国交の最も重大且機微ナル時機ニ逢著セリト

先般ノ我カ大蔵大臣ノ声明ニヨリテ明カナリニ応シ我方ニ於テモ「レシプロケート」スル用意アルハニ応シ我方ニ於テモ「レシプロケート」スル用意アルハモ国ノ内外ニ招カサラムカ為差当リ対日経済圧迫ト目セ我方カラノ圧迫下ニ交渉ヲ行ヒタリ等ノ誤解ヲ万カーニ我方カラノ圧迫下ニ交渉ヲ行ヒタリ等ノ誤解ヲ万カーニ

互ノ立場ニ十二分ノ考量ヲ加へ慎重熟慮ノ結果得タルモ右ハ二十四日ノ米大統領提案ニ対スル回答トシテ日米相望ニ基キ別電ノ提案ヲナサムトス四、帝国政府ハソノ前内閣以来抱懐スル日米国交調整ノ希

性ニ充分ナル注意ヲ惹カレタシ統領、国務卿等ニ強ク「イムプレス」セシメ事柄ノ重要統領、国務卿等ニ強ク「イムプレス」セシメ事柄ノ重大ノナリ此ノ点先ツ貴大使ニ於テ篤ト銘記セラレ其ノ旨大互ノ立場ニ十二分ノ考量ヲ加へ慎重熟慮ノ結果得タルモ

第ト了解シ遅滞ナク別電ヲ申入レラレタシ集停頓ノ形トナリオル日米交渉ヲ之ニヨリ続行ノ端緒タノ我方修正案ノ提出遅滞其ノ中行ハレタル仏印進駐ノ結関ノ通リナルカ行ク行クハ懸案中ノ日米国交調整ノ全機顕ノ通リナルカ行ク行クハ懸案中ノ日米国交調整ノ全機顕ノ通リナルカ行ク行クハ懸案中ノ日米国交調整ノ全機

(別電)

本 省 8月5日後発

## 第四四八号

一、説明 置ニヨリ以上ノ対外強硬論ノ爆発ヲ抑制シ延イテハ太平 説明ニ尽クルモ之ヲ要約スレハ第三国ノ容喙ノ要ナキ平 ストスルモー応肯カルルニ付左ノ提案ヲナサントス而シ リ尤モ米政府トシテ右説明ニ拘ラス不安ノ念ヲ一掃シ得 洋ノ平和破綻ノ防止ノ為ニモ必要已ムヲ得サルノ措置タ 日動向ニヨリ惹起セラレタル日本興論ノ現状ニ鑑ミ該措 和的且自衛的措置タルノミナラス頃来ノ英米蘭印等ノ対 仏印共同防衛措置ノ意義性質ハ本大臣及在米帝国大使ノ シ来レル ノ商議ヲ行ヒ右ニ関シ合意ニ達セル時ハ之ヲ先般来継続 テ右提案ニ付テハ時局ニ鑑ミ速カニ機密「オフ・レコード」 日米国交調整案中ニ適宜組ミ入レラルル (口頭ヲ以テシ書面ニヨラサル Ŧ ラト モノト

般ノ原因ニ付相互ノ立場ニ対スル理解的精神及冷静サヲ何レニセヨ合衆国政府ハ両国間ノ緊張状態ヲ招来セル各

ナリトノ日本政府ノ見解ニ同意ナリ キ事態若クハ原因ノ除去若クハ緩和ニ努ムヘキコト肝要 以テ検討ヲ行ヒ軍事的経済的及政治的不安定ヲ誘発スへ ト確信ス

- 日本政府カ左ヲ確約 z
- テ仏印以外ノ地ニ進駐セシメサルヘク又仏印ニ於ケ ル日本軍隊ハ支那事変解決セハ直ニ之ヲ撤退ス へキ原因除去ノ為メ其ノ軍隊ヲ南西太平洋地域ニ於 極東ニ於ケル米国領土ニ対スル軍事的脅威 トナ ル
- ロ、比島ニ対シテハ軍事的及政治的脅威ノ原因除去ノ 為メ適当ノ時期ニ其ノ中立ヲ保障ス但帝国政府及臣 民ハ合衆国ヲ含ム一切ノ国ト同等ノ待遇ヲ受クルモ
- ハ、東亜ニ於ケル両国間 力ス 為メ合衆国ノ必要トスル天然資源ノ生産及獲得ニ協 ノ経済的不安定ノ原因除去ノ
- 合衆国政府ハ左ヲ確約 ス
- 事的脅威トナルヘキ原因除去ノ為メ南西太平洋地域 直接日本国ニ対シ日本国ノ海外物資輸送ニ対シ軍

及蘭印両政府ニ対シ同様ノ措置ニ出ツヘキコトヲ ニ於ケル軍事的措置ヲ中止ス又本協定成立ノ際 ス 英 勧 196

- ロ、両国間ニ於ケル軍事的政治的及経済的紛争原因除 要トスル天然資源ノ生産及獲得並ニ日本蘭印間懸案 去ノ為メ南西太平洋地域特ニ蘭印ニ於テ日本国 ノ解決ニ付日本ト協力ス フ必
- ル通商関係恢復ノ為ニ必要ナル措置 右ト関連シ日本国ト合衆国トノ間ニ従 ヲ速カニ採 前 ノ正常ナ ル Ŧ
- 二、日本国政府カ厂ノイニ約セル所ニ鑑ミ合衆国政府 政権トノ間ニ直接商議開始ノ橋渡シ (good offices) ヲナスモノトス又合衆国政府ハ撤兵後ニ於テモ仏印 ニ於ケル帝国ノ特殊地位ヲ容認ス ハ速カニ支那事変解決ノ目的ヲ以テ日本国政府ト蔣
- (三) 本件商議ハ前顕ノ通り機密ニ行フモノナルモ一定ノ時 機ニ其ノ一部分又ハ全部ヲ公表スルコト大局上好マシ 認メラルルニ於テハ予メ両国ノ合意ニヨリ時期内容 公表(商議ノ劈頭口頭ヲ以テ念ヲ押シ置クモノトス)

体様等一切ニ付決定ヲ見タル際初メテ之ヲ行フモノト

和16年8月6日 豊田外務大臣宛在米国野村大使力

127

# 我が方提案手交に際しての米国国務長官との

について

電 宛第六六〇号 八月六日付在米国野村大使より豊田外務大臣

我が方提案要旨

ワシントン 8月6日後発

8月7日後着

第六五九号(至急、外機密、 館長符号)

貴電第四四七号ニ関シ

興味ヲ示サス右提案ヲ離レ且自分丈ノ感ヲ申上クル次第ナ 分研究ノ上何分ノ御返事ヲ申上クヘシトテ差当リ左シタル 第六六○号ノ通リ)コレニ対シ「ハル」ハ御提案ハ後刻充 第四四八号ノ二ノ提案ヲ為セリ(書キ物トシテ手交ス別電 旨ヲ体シ貴電第四四八号ノ一ノ説明ヲ詳細行ヒタル上貴電 六日夕「ハル」長官ヲ往訪冒頭ノ貴電其他累次ノ貴電ノ趣

> 本日得タル印象ヨリ察スルニ最早殆ト如何ナル説明ヲ以テ 自衛ト称シテ其ノ行方ニ邪魔ニナルモノニ対シ悉ク之ヲタ you) 吾人ハ平和且安穏ニ生活セントスルニ 「ヒトラー」 ハ 日本政府当局カ米国ノ為スコトヲ包囲政策ト呼フ限リ日本 本ノ次々ノ行動ヲ見ルニ及ンテ深ク失望セサルヲ得ス日本 タルカ其ノ要旨ハ本使ト同長官トノ関係ハ別トシ其ノ後日 ナルカ如ク且米国政府ハ如何ナル事態ニモ対処スル腹ヲ極 スルモ帝国ノ意図ハ米国当路ノ者ニ通セシムルコト不可能 キ口吻ヲ洩ラシタリ タキ潰スカ如キ遺り方ニシテ恰モ日本モ其ノ類ナルカノ如 ニ期待ヲ懸ケル何物モナシ(I can expect カ腕力ニヨル征服ノ政策ヲ捨テサル以上話ヲスル余地ナク カト断リタル上縷々現下ノ日米関係ニ関スル所感ヲ述 nothing from

別

メ居ルコト間違ナク観取セラレ

タリ

8月6日後発

省 8月7日後着

- (A) that, in order to remove such causes as might constitute a menace of a military character to the United States, it will not further station its troops in the Southwestern Pacific areas except French Indo-China and that the Japanese troops now stationed in French Indo-China will be withdrawn forthwith on the settlement of the China Incident, and
- (B) that, in order to remove such causes as might constitute a menace of political and military character to the Philippine Islands, the Japanese Government will guarantee the neutrality of the islands at an opportune time on the condition that Japan and Japanese subjects will not be placed in any discriminatory positions as compared with other countries and their nationals including the United States and its nationals, and
- (C) that, in order to remove such causes as might be responsible for the instability of the economic relations between Japan and the United States in East Asia, the

Japanese Government will cooperate with the Government of the United States in the production and procurement of such natural resources as are required by the United States.

- 2. The Government of the United States undertakes:—
- (A) that, in order to remove such causes as might constitute a direct menace of military character of Japan or to her international communication, the Government of the United States will suspend its military measures in the South Pacific areas, and also that, upon a successful conclusion of the present conversations, it will advise the Governments of Great Britain and of the Netherlands to take similar steps, and
- (B) that, in order to remove such causes as might be responsible for military, political and economic friction between Japan and the United States, the Government of the United States will cooperate with the Japanese Government in the production and procurement of

natural resources as are required by Japan in the Southwestern Pacific areas, especially in the Netherlands East Indies, and

- (C) that, in conjunction with the measures as set forth in (B) above, the Government of the United States will take steps necessary for restoring the noramal relations of trade and commerce which have hitherto existed between Japan and the United States, and
- (D) that, in view of the undertaking by the Japanese Government as set forth in 1. (A) above, the Government of the United States will use its good offices for the initiation of direct negotiations between the Japanese Government and the Chiang Kai-shek regime for the purpose of a speedy settlement of the China incidents, and that the Government of the United States will recognize a special status of Japan in French Indo-China even after the withdrawal of the Japanese troops from that area.

128 昭和16年8月6日 在米国野村大使宛 (電報

## 我が方提案提示方再訓念

本 省 8月6日 発

第四五〇号(至急、外機密、館長符号)

- 二、往電第四四七号申進ノ申入ハ遅滞ナク実施スへキ旨訓接セサル処此ノ種訓令ニハ直ニ電報スへキモノナリー、往電第三九七号ノ三ノ措置振ニ関シ未タ何等ノ報告ニ
- 令アリ今回ハ直ニ其ノ日取電報サレタシー、往電第四四七号申進ノ申入ハ遅滞ナク実施スへキ旨

昭和16年8月7日 在米国野村大使宛(電報)

129

日米関係打開のための両国首脳会談提議方訓令

8 月 7

日

発

第四五二号(機械、館長符号)

ニヨリ異常ナル緊張ヲ示シ此ノ儘時局ノ推移ニ委ネ置ク右我方ノ決意ニ拘ラス両国間ノ誤解又ハ第三国ノ策動等ハ屢次ノ電報ニテ御承知ノ通リナル処日米国交ノ現状ハー、日米関係ノ整調ニ近衛内閣カ前内閣以来熱意ヲ有スル

199

以テ時局救済ノ可能性ヲ検討スルニアリト信ス 一ノ途ハ此ノ際日米責任者直接会見シ亙ニ真意ヲ披攊シ コト不可能ナルヲ思ハシム右危険ナル状態ヲ打破スル 唯

於テ同意ナルニ於テハ近衛総理自ラ「ホノルル」へ出張 ル希望ニ基クモノナルコトヲ強調シ先方ノ意向ヲ直ニハ貴大使ハ右ハ我方ノ太平洋平和保持ノ為ニスル真摯ナ コル 「サウンド」セラレタシ 右見解ニ基キ第一次米提案中ニ該当事項モアリ ーズヴェルト」大統領ト親シク会談致シ度キニ付テ 米側二

三、尤モ先方ニ於テ仏印進駐ノ事実及北方兵力ノ強化 ノ和平保持ニ努メサレハ国民ニ対スル義務ニ欠ク所アル前例ナキ重大決意ヲ為セルコト卬有凡努力ヲ尽シ太平洋 (貴電第六四九号ニ照ラシ此ノ惧ハ絶無ニハ非サルヘニ基キ右我方ノ申出ニ対シ万一躊躇ノ色ヲ示ス際ニハ、尤モ先方ニ於テ仏印進駐ノ事実及北方兵力ノ強化ノ報 シ)//時局/重大ナルカ故ニ我方モ総理自身/出張テフ ヘキヲ力説セラルヘシ

キ日取リヲ御問合セ至急回電アリタク時局柄右会談ノ可、右会談自体ニ付合意ナラハ直ニ米大統領ニ於テ都合ヨ 成早キ時期ニ行フコト必要ト思考セラル尚議題等ハ追テ

> 大ナラサルモノト致シ度キ当方意向ナリ 国交調整交渉ノ「ライン」ニテ大局的会談ヲ行ヒ総理、 大統領共二極メテ繁忙ノ身ナレハ会談期間ハ数日ニテ足 必要ニ応シ協議スヘキモ当方トシテハ大体懸案中ノ日米 ル様取計ヒタク又日米代表部ノ陣容モ実質的考慮ヨリ 膨

五、本件ハ事柄重大ナルニ鑑ミ会談方決定迄極秘ヲ 他ニ付予メ協議ノ上之ヲ行ヒ度ク此ノ点適宜打合セヲ遂 公表スルコト適当ナリト思考セラルルニ付更メテ日取其 ニ付貴大使自ラ大統領又ハ国務長官ニ申入レラル ケラレ度シ尚本件漏洩防止ノ必要ヲモ考慮シ在京大使ニ トス尤モ一度決定ノ上ハ大統領ニ於テ異議ナクハ速カニ 当分之ヲ通報セサル心組ミナリ右御含ミ迄 ルモノ 要ス

昭和16年8月7日 豊在 田 外国 務野 大臣宛

130

日米交渉打切りの他なしとの米国側態度につい

7

ワシントン 省 8月7日後着 8月7日前発

第六六二号(外機密、 館長符号)

十五日若杉「ハミルトン」会談等累次電報ノ通り トスル米側態度ハ七月二十一日若杉「ウェルズ」会談同二 本件交渉ハ仏印進駐ニ依ル事態ノ変更ニ伴ヒ打切ノ外ナシ 貴電第四五○号一(日米交渉再開促進方照会ノ件)ニ関シ

昭和16年8月7 Ė 豊田外務-大臣宛

131

最近の米国対日政策に関する報告

ワシントン 8月7日後発

省

8

月

78日後着

館長符号) 本

日米関係ハ極端ニ行キ第六六三号(外機密、 所ニシテ政府ニ於テ大局上採ラル 米関係ハ極端ニ行キ詰ルニ至リシカ之レ概ネ予期 次第ト認ム ル政策ノ結果已ムヲ得サンシカ之レ概ネ予期サレシ

貴大臣ハ御就任日浅キコト ナル故ニ重複ヲ厭 ハス当国近状

、元来米国政府ハ枢軸同盟ハ ヲ征服セントスルモノ り東西相呼応シテ西ニ於テハ独伊東ニ於テハ日本ハ列強 ト認メ此ノ政策ヲト 文面以上ニ緊密ナル関係ア ル国ト 八到底

> 右ニ対シ日本ハ八紘一宇ノ大精神ヲ持ツコト枢軸同 非公式ノ話合トナリタリ 昔ノ日英同盟ノ如ク制限的同盟ナルヲ説キ彼等モ納得 話合ヲ為スヲ得ストノ態度ニ在リタリ

「ハル」ノ親友「ウォーカー」共ニ苦シキ立場ニ在ルコ交調節ニ熱心ナリシ丈ケ失望シ閣内ニ於テモ「ハル」及 失望ヲ洩ラシ又郵務長官ノ話ニ依ルモ国務長官ハ日米国 右ニ対スル裏書ハ之ヲ実証シ昨夜長官ハ本使ニ対シ痛ク 中止スルト共ニ日本ニ対シテハ最初ノ考ニ復帰スルニ至 「ハル」ノ親友「ウォーカー」共ニ苦シキ立場ニ在 レリ「ウェルズ」国務長官代理ノ声明及「ハ 然ル処国務長官静養中仏印進駐アリ彼等ハ之ヲ以テ日本 ノ南進ハ平和的ト云フ点ト相容レサルモノトナシ話合ヲ ハ既報ノ通リナリ ル」長官ノ

リ泰国ニ対シテハ「ハル」「イ ツアリ即チ仏印進駐ニ対シテハ凍結令及禁輸令ヲ以テ当 ニアラサルモ日本ノ政策ニヨリ対抗策ヲ取ラサ ト申シ居り日本ノ南進又ハ北進ニ対シ対抗策ヲ実行シツ 米国ノ対日政策ハ要スルニ米国ハ日本ニ対シ非友好 種々ノ手ヲ打チ居リ我方ノ進行次第ニ依リテハ更ニ何 ーデン」相次テノ警告モア ルヲ得ス 的

云為シテ国防ノ充実兵役期限ノ延長増税ヲ説明シツツアル

ト申シオキタリ要スルニ先方ノ主張ハ日本ニシテ武力行 同シク日本ハ今日ノ危険ニ対シ国民警醒ノ為ニモ必要ナ

ムルニ於テ始メテ話合ヲ為スヘシト云フニ在リ其ノ

ハ決シテ退却スルコトナク我政策ニ変化ナキ限リ最早話

本使ハ米国ハ国防上極メテ安全ナルニ拘ラス色々ノ危険ヲ

リト申セシコトアリ)ト云ヒ不平ノ言葉ヲ洩シタルヲ以テ 二二度之ヲ繰返ヘシ「ウェルズ」ハ此レ独逸ノロ調ニ似タ 方ハ頻リニ包囲政策ヲ云為スルカ夫レハ当ラス(長官ハ既 ルコトト太平洋ノ平和ヲ維持スル政策トハ両立セス日本ノ 其ノ意向ヲ確メシメタル処同シコトヲ繰返シ武力ヲ行使ス

使ヲ止 点

シテ退却スルコトナシト認ム 最近大統領ハ陸海軍首脳部ヲ帯同「チャーチル」ト会見 シツツアルニ鑑ミ米国ハ決シテ傍観スルコトナカル 至ル惧アリ又我北進ニ対シテハ米「ソ」ノ関係急ニ接近 等カノ強硬手段ニ出ツルニ相違ナク事態収拾ノ途無キニ ノ噂モアリ要スルニ我ノ出方次第次キ次キト手ヲ打チ決

ヘク

三、独逸政府ハ米国ニ対シテハ飽ク迄モ慎重ノ態度ヲ採 従ツテ欧州ノ形成如何ニ依リテハ太平洋ハ一層活気ヲ呈 極度ニ忍耐スルト共ニ和平工作等ヲヤリ人心ノ緩和ニ努 スルコトトナル様痛感スル次第ナリ メツツアルヲ以テ此ノ頃太平洋ハ興論注視ノ焦点ト ナリ 1)

本使ノ愚見ハ既ニ御報告セシ通リナルカ何卒国家安危ノ ル所飽ク迄御熟慮ノ上御断行ノ程切望ニ堪へス

132 和16年8月7 H 在米国野村大使宛豊田外務大臣より (電報

## 日米首脳会談提議につき督促方再訓令

8月7日 後

第四五六号(大至急、 機械、 館長符号)

往電第四五二号ニ関シ

布セラレ居ル処右ニシテ事実ナラハ冒頭電ノ措置モ殆ト採 最近「ハル」ノ辞任説及石油ノ対日全面的禁輸説本邦ニ流 ルニ由ナキ仕儀トナル惧レモアルニ付至急申入レノ上結果

回電アリ度ク重ネテ訓令ス

昭 和16年8月8日 豊在 田米 外国 務大臣宛野村大使

133

八月六日付我が方提案に対する米国回答につい

τ

電 八月八日付在米国野村大使より豊田外務大臣 宛第六七二号

太平洋の平和に関する米国回答

付 記 右別電訳文

シ ント ン 8 月 8 日後

本 省 8月 日後着

第六七一号 (外機密、 館長符号)

往電第六五九号ニ関シ

八日午後国務長官ヨリ六日ノ我方提案ニ対シ別電第六七二 号ノ返答ニ接セリ之レ大統領ノ申セシ通リニシテ 一歩モ

カシムルコト ヲ進ムル余地ナキヲ以テ必要ニ応シ モ御考慮相成度シ 「グル 一」ヲシテ取

(別

ル処長官ハ

尚貴電第四五二号及四五六号ニ関シ御訓電ノ趣旨ヲ強ク述

タル上「ハワイ」ニ於ケル両国首脳部ノ会談方提議シタ

「ホワイト・サルファー」療養中日本政府ハ武

譲歩セス

ン 8月8日後

8月9 Ħ

第六七二号(至急、館長符号

合ヒツツアリタル所ト矛盾シ其ノ政策ニ変更ナキ限リ話合 其ノ通り実現シツツアル次第ニシテ其ノコトハ貴大使ト話 力行使ノコトニ決定シタル旨報告ニ接シタルカ其ノ後著々

ノ根拠ナシト云フ尚同席ノ「バランタイン」ニ付念ノ為メ

Strictly Confidential

United States would of course itself give, a binding and Government, do everything in his power to obtain from the Chinese set in, would withdraw such forces, the President would forces, or, in case such steps had already actually been or establishing bases there with its military and naval Government would refrain from occupying Indo-China Netherlands m The President's proposal was that, if the Japanese Government, and the the British Government Government of August 8 and

10.00

solemn declaration, provided the Japanese Government would make the same commitment, to regard French Indo-China as a "neutralized" country in the same to a broad understanding which would be calculated to establish and maintain peace in the Pacific area to the benefit of each and every country concerned in that area have been made abundantly clear by various official utterances and acts and in the course of the long series of conversations way in which Switzerland had up to now been regarded by the Powers as a neutralized country;

contemplated French the exercise of any military and that each of those Governments would refrain from that none of these Governments would undertake any part of each of the Governments mentioned would imply  $^{(2)}$  That such a binding and solemn declaration on the act of aggression against French Indo-China Indo-China. further that the The President's control within or over Governments proposal of the

> guarantee with regard to Thailand concerning French Indo-China the same declaration and which were mentioned in connection with his proposal President would request of the other present course with regard to French Indo-China, the accept the proposal of the President and abandon its include Thailand as well, and the Japanese Governments with regard to French Indo-China was extended Indo-China. undisturbed in control local French Authorities in Indo-China would remain that, so long as the present emergency continues, the Britain and the other interested Powers a guarantee United States would endeavor to obtain from Great informed that, should the Japanese Government Subsequently, the President's of the territory Governments of proposal

> > 204

The Government of the United States feels that its views in regard which the Secretary of State has had during recent months with the Japanese Ambassador.

It feels that the Japanese Government is well aware

of its attitude of what it is able and willing to do, and of what it cannot do. It, therefore, feels that the proposals advanced in the document handed to the Secretary by the Japanese Ambassador on August 6 are lacking in responsiveness to the suggestion made by the President, the specifications of which have been for convenience of reference reiterated above.

#### (付記)

#### 厳秘

ノ拘束力アリ且厳粛ナル宣言ヲナサシムル為メ (合衆国政人拘束力アリ且厳粛ナル宣言ヲナサシムル為メ (合衆国政統領ハ支那国、英国及和蘭国政府ヲシテ日本国政府カ同ーノ約束ヲ為スコトヲ条件トシテ瑞西国カ現在ニ到ルマテ列統領ハ支那国、英国及和蘭国政府ヲシテ日本国政府カ同ーノ約束ヲ為スコトヲ条件トシテ瑞西国ニ基地 (複数)ヲ設定に領印度支那ヲ占領スルコ大統領ノ提議ハ若シモ日本国政府カ印度支那ヲ占領スルコ大統領ノ提議ハ若シモ日本国政府カ印度支那ヲ占領スルコ

図シ居リタリ次イテ仏領印度支那二関スル大統領ノ提議ハ 仏領印度支那領土ノ支配的地位ニ引続キ存留スヘキ旨ノ保 カ存続スル限り印度支那ニ於ケル仏国地方官憲カ支障ナク フニ在リ大統領ノ提議ハ更ニ合衆国政府ハ現在ノ非常事態 テ何等軍事的支配権ノ行使ヲ避止スヘキコトヲ意味スト謂 之等諸政府ノ何レモ仏領印度支那領土内若クハ領空上ニ於 印度支那ニ対シ何等侵略的軍事行動ヲ為ササルヘキコト及 斯ル拘束力アリ且厳粛ナル宣言ハ之等諸政府ノ何レモ仏領 努力ヲ為ス意向ナルコト並ニ前記諸政府ノ各々カ為スヘキ 府カ自身之ヲ為スコト勿論ナリ)大統領ノ権能内 同一ノ宣言及保障ヲ要請スヘキ旨日本国政府ニ通報セラレ 議ニ関連シテ言及セラレ居ル他ノ諸政府ニ対シ泰国ニ関シ 棄スルカ如キ場合大統領ハ仏領印度支那ニ関スル大統領提 泰国ヲモ包含スル様拡張セラレ且日本国政府カ若シ大統領 障ヲ英国及其他ノ関係列国ヨリ得ル様努力スヘキコトヲ意 ノ提議ヲ受諾シ仏領印度支那ニ関スル其ノ現在ノ方針ヲ放

域ニ平和ヲ樹立シ且保持スルコトヲ目的トスル広汎ナル諒合衆国政府ハ太平洋地域ニ在ル関係各国ノ利益ノ為メ同地

136

ル長期ノ連続的会談中ニ充分ニ明瞭ナラシメラレタルモノ 二最近数箇月間ニ亘り国務長官カ日本国大使トノ間ニ行 解ニ関スル同政府ノ見解ハ各種ノ公的言明及行動ニヨリ並 ト思考ス  $\sim$ 

繰返シ述ヘラレタル次第ナリ ルモノナリ尚右提議ノ要点ハ参照ノ便宜ノ為メ前記 ス同政府ハ従ツテ八月六日日本国大使ヨリ長官ニ手交セラ 付テノ合衆国政府ノ態度ヲ充分知悉セラレ居ルモノ シ得又ハ為ス用意アリヤ及如何ナルコトハ為シ得サル 同政府ハ日本国政府カ合衆国政府ニ於テ如何ナルコト レタル書キ物ノ内ニ記述セラレ居ル提案ハ大統領ニ依り為 レタル提議ニ対スル応答タルニ於テ不充分ナリト思考ス ト思考 ヤニ - ハ 為

豊田外務大臣宛在米国野村大使 (電報)

134

和16年8月9日

## 米英首脳会談の真意について

ワシント 8月9日後発

省 8月10日後着

第六七三号(極秘、 館長符号)

> 総ユル場合彼等ハ共同動作及併行動作ニ出ツルニ相違ナク 問題ハ北ニ於テモ南ニ於テモ総テ右諸邦ノ間ノ問題トナリ アリ且米英ト「ソ」連トノ関係益々密接ナルニ鑑ミ極東ノ 首脳ハ参加シアル噂アリ且極東問題ニ対シ共同声明ノ噂モ 支那及蘭印モ同様ト認メラルルニ付重複ヲ厭ハ 一昨日往電第六六三号ヲ以テ申進シタル「ル 「チャーチル」会見ノ真相ハ未タ捕捉シ難キモ当地陸海 ーズベル ス申進 1

135 昭和16年8月9日 豊田外務大臣宛在米国野村大使 (電報)

## 日米首脳会談提議のみでは局面打開し得ず

ワシント

8月10日後着 8月9日後発

第六七四号(外機密、 館長符号)

貴電第四六五号ニ関シ

大統領ノ帰還ヲ俟チ(何日ナルヤ 貴電ノ御趣旨徹底ニ最善ノ努力ヲ致スヘシ但シ累次ノ往電 ニテ当国ノ情勢申進ノ通り日本カ現在ノ政策ニテ進ム限リ 八不明) 会見ノ機ヲ得テ

動カスコトトハナラスト推察ス セラルトノコトノミヲ以テシテハ真ニ乍遺憾左シテ先方ヲ 六日及八日ノ会見ニテ明カナリ)ニ鑑ミ単ニ総理自ラ出馬 ニシテ之ヲ区別スルハ誤リナルヘク先方ノ毅然タル態度ハ ル米国政府ノ態度(此ノ点ハ大統領モ国務長官モ異体同心 駐ハ日本ノ政策方向ヲ決定的ナラシメタルモノト看做シ居 米国ノ政策モー貫シテ進メラルヘク而シテ日本ノ南仏印進

コトヲ惧 更セシムルカ如キ何等カノ手段ヲ御考究相成ルニアラサレ 右ノ通リニシテ従ツテ此ノ際政府トシテハ米国ノ政策ヲ変 来ルヘキ本使ト大統領トノ会見ニ殆ト期待ヲ懸ケ難キコト 局面打開シ難シト信ス僻遠ノ地ニ在リテ世界全局ニ暗キ ルルモ乍僭越卑見トシテ申添フ

八月二日付在米国野村大使より豊田外務大臣宛館長

符号電報 (省略) にて補塡

和16 年8月9 H 在豐 米国野務 対大使宛然大臣より (電報)

豊田外務大臣の三国同盟発言に関する報道に

つき釈明方訓令

8月9日後7 - 時45分

第四六三号 (館長符号)

ニセントスル宣伝ナルニ付国務長官等ト ヲ強調セル旨」ヲ報道シ居ル処右ハ事実ヲ歪曲シ一部ノ為 及日本ハ太平洋ニ於ケル如何ナル威嚇ニモ対処スヘキコト 国ハ前途ニ横ハル一切ノ障害ヲ排除スル為協力スヘキコト 国通信員トノ七日ノ「インタービュー」ニ於テ ヲ捉ラへ可然是正シ置カレタシ 九日ノ倫敦「ビー・ビー・シー 」放送ハ本大臣カ在京枢軸 ノ会談ニ際シ機会 「日独伊三

英ニ転電アリ度シ

137 昭 和16年8月9日 在米国野村大使宛豊田外務大臣より (電報)

# 米国大統領に日米首脳会談至急申入れ方訓令

8月9日後7時30分発

第四六四号(至急、 館長符号、

貴電第六七一号ニ関シ

往電第四五二号ノ内容ハ是非共至急「ルーズヴェルト」ノ 耳ニ入ル必要アルモ貴電ニテハ此ノ点明瞭ナラサ ルニ付右

N 二付此

ノ点誤解ナキ様米側

ニ申入レラレ度シ

至急取計 ハレ度為念

在米国野村大使宛豊田外務大臣より

138

和 16

年8月

9

H

(電報)

## 日米首脳会談の実現方に関し訓令

省 8月9日後9時10 分発

第四六五号(館長符号、 機械)

往電第四六四号ニ関シ

ル意義並ニ其ノ齎ラシ得ヘキ効果等ニ関シ充分御説明相成 大統領ノ華府帰還ヲ待チ直ニ往訪セラレ本件会談 リ是非右会談ノ実現ニ努メラレタシ 以ノ重要ナ

和16年8月 12 H 事宛(電報)在ロス・アンジェルス仲内(憲治)豊田外務大臣より 領

139

新聞記者等へ の 応接振りにつき若杉公使へ 注

8月12日後9時 発

第七九号(大至急、 外機密、 館長符号扱)

若杉公使へ左ノ通り

難ナラシムルコト大ナリ仍テ外務大臣ニ対スル帰朝報告済 タービュー」ノ如キハ内政的ニ利用セラレ政府ノ立場ヲ困 リ貴公使カ之ヲ携ヘ帰朝セリ等ノ印象ヲ与ヘサルヲ要ス ヘラレサル様セラレ度ク尚米ヨリ我方ニ何等カ重大提案ア ム迄ハ内外新聞記者等ニ対シ日米問題ニ関シー切見解ヲ述 日米問題カ現下帝国ノ内政外交上最モ機微ナル問題タル ハ想像二難カラサルへク貴官ノ東日トノ国際電話「イ ン コ 208

140 昭 和16年8月12 H 豊田外務大臣宛在ロス・アンジェ (電報)

### 若杉公使の 1 ンタビュ 記事につき釈明

ロス・ アンジェルス 8月12日後 日後着 発

第一五〇号(至急、 外機密、 館長符号扱) 省 8月 13

貴電第七九号ニ関シ(若杉公使へ注意ノ件)

若杉公使ヨリ

ビュー 立場ヲ困難ナラシメタル趣恐縮ニ堪へス唯右「イ 貴電ノ趣拝承本使ノ東日ト ハ目下日米関係最モ危機ナル際寧ロ事実ヲ率直 「インタービュウ」カ政府ノ ンター

ニ付御諒承ヲ請フ 闡明スル方国家ノ為有益ナリト信シタルニ外ナラサル 次第

尚本使ニ於テ米側提案ヲ携行スルカ如キ印象ヲ与ヘタル シ右ハ本使華府出発前ヨリ米人記者中ニ行ハレ居タル 憶 事

測ニ過キス

昭 和16年8月12日 在豐 米国野村大使宛田外務大臣より (電報)

日米首脳会談は大局的見地より行いたき旨米

141

国側へ申入れ方訓令

省 8月12日後8時30分発

第四七〇号(大至急、 館長符号、 機械)

往電第四五二号ニ関シ

最終的ナルモノト推シ居ルカ如キモ右ハ必スシモ然ラス 米側ハ二十四日大統領提案ニ対スル我方対案ヲ「リヂッド」 総理ハ右ノ案ソノモノニトラハ 地ヨリ大統領ト 膝ヲ交ヘテ局面ノ打開ニ当ラントスルモ レス世界平和保持ノ大局的

> 142 昭和16年8月 12日

## 幹部会における寺崎アメリカ局長の日米交渉

## 経緯に関する説明

来タレリ依テ即夜第一回ノ連絡会議ヲ首相官邸ニ開催セ 結論ニ至ラス散会セリ リ然レ共説明電報解読手間取リタルタメ午後十一時何等 四月十七日在米大使ヨリ日米了解案及同説明ヲ打電シ

二、四月二十一日第二回連絡会議開催一応我方修正案ヲ採 択セリ

首相自ラ又ハ使者派遣 尚同日恰モ外務大臣欧州旅行ヨリ ジ譲アリ 夕 íL 大連著二付同地迄近衛 モ沙汰 止 + ij 9

三、四月二十三日外相帰京即夜連絡会議開催 ヲ発シタリ右ニ対シ在米大使ヨリ回電アリタリ

尚同日ノ会議ノ結果三国条約ト

関係其他二関

照会電

事重大ナルヲ以テ慎重研究スル ナク散会セリ コト シ何等纒マ 11 1  $\supset$ 

月一日接到ス四、四月三十日英文「テキスト」電報方在米大使宛訓令五四、四月三十日英文「テキスト」電報方在米大使宛訓令五

五、五月三日大本営連絡懇談会開催

米中立条約締結ノ用意アル旨提案スルコトニ決定セリチ本件了解案ト併行シテ別ニ日蘇中立条約ニ倣ヒタル日外相ノミニ伝達ノコト)及我方修正案ヲ提示スルニ先立外相、「リッペン」外相、「ムッソリーニ」首相、「チアノ」絵案文修正ノ外在京独伊大使ニ内示(但シ「ヒトラー」総

(第一九〇号往電参照)

同夜七時外相参内上奏セリ

発電報第二七三号)
六、在米大使ハ五月七日我方対案提示方督促シ来タレリ(米ス五月四日欧亜局長ハ在京独伊大使ヲ往訪シテ内談セリ

日又ハ十日中ニ発電ノ運トナルへキ旨ノ中間電報ヲ発セ然レ共同日モ在米大使宛訓令発電ノ運ヒニ至ラス単ニ九要アルヲ陸海軍両大臣ヨリ閣議ニテ発言アリタル趣ナリ日米関係ノ緊迫セル現状ニ鑑ミ本件話合ヲ継続セシムル

!此ノ間五月七、八、九及十日ニ亘リ米国上層部ニ於テ

呼出シ両者間二親シク連絡ヲトラレタリ野村大使ヲ電話ニ呼出シ又同日午後八時大使ヨリ大臣ヲ使ヲ通シ督促セル旨電報アリタリ八日午前七時外相ヨリ案ニ対スル我方ノ意向何レナリトモ承知シタキ旨在米大ハ「コンヴォイ」実施論ト共ニ対日強硬論モ出テ本了解ハ「コンヴォイ」実施論ト共ニ対日強硬論モ出テ本了解

訓シ越セリ野村大使ヨリ情勢逼迫セルニ付至急交渉開始ノ訓電方請野村大使ヨリ情勢逼迫セルニ付至急交渉開始ノ訓電方請五月十日大臣ヨリ更ニ返電遅延ノ電報ヲ発セリ同十一日

言セリ発電セリ但シ之ニ基ク交渉開始ノ時期ハ追電スヘシト付発電セリ但シ之ニ基ク交渉開始ノ時期ハ追電スヘシト付、五月十一日(日曜日)夜外相熱海ヨリ帰京後修正案ヲ

セル次第ナリ〕 ・ (我方ハ独伊政府ノ意思表示ヲ待チ居リタルカ五月十四 (我方ハ独伊政府ノ意思表示ヲ待チ居リタルカ五月十四 ・ (我方ハ独伊政府ノ意思表示ヲ待チ居リタルカ五月十四 ・ (我方ハ独伊政府ノ意思表示ヲ待チ居リタルカ五月十四

五月十二日我方修正案ヲ申入レ交渉開始方野村大使ニ

報告越セリ電セリ大使ハ同日夜「ハル」長官ニ申入レタル旨十三日

ア、五月十三日前記回訓内容ヲ在京独伊大使ニ内示セリ然ス、五月十三日前記回訓内容ヲ在京独伊大使ニ内示セリ然、五月十三日前記回訓内容ヲ在京独伊大使ニ内示セリ然スル希望条項ヲ述フルト共ニ我方カ独逸側ノ見解接到対スル希望条項ヲ述フルト共ニ我方カ独逸側ノ見解接到が、五月十三日前記回訓内容ヲ在京独伊大使ニ内示セリ然ルル所アリタリ

九、五月十六日朝寺崎局長、野村大使卜電話連絡

ヘラルド」紙ニ寄稿セル誹謗的記事ヲ華府同盟特派員カビューン」華府特派員「ヘニング」カ華府「タイムス・ニ於テ日本ニ言及セサリシ理由ナリトシテ市俄古「トリー〇、五月二十七日 「ルーズヴェルト」大統領カ炉辺閑話

リトノ趣旨ノ談話ヲ新聞ニ発表セリ国新聞ノ「デマ」粉砕ノ形式ニテ我カ枢軸外交ハ不変ナ五月三十一日外相ハ参内右ニ関シ上奏報告スルト共ニ米

一一、五月二十九日連絡懇談会ノ席上陸海軍大臣ヨリ本件

層ノ厳重自戒方申出アリタリ列国ノ謀略懸念セラルルニ付機密保持ニ関シ関係官庁一工作カ外部ニ漏洩スルトキハ国内ノ対立抗争ヲ惹起シ且

ヲ以テ本案ハ審議ノ対象トセス近ク取次クヘキ案ニ依ラリ非公式試案ノ提示アリ大使ヨリ電報シ来レルモ三国同其他ト十数次ノ会談ヲ重ネタル結果五月三十一日米側ヨーニ、我方第一次修正案ニ付野村大使ニ於テ「ハル」長官

セリ
「オーラル・ステートメント」ヲ取次キタル電報ヲ接到一三、六月二十四日野村大使ヨリ六月二十一日付修正案及

レタキ旨電報越セリ

重熟議ノ結果七月十四日我方第二次修正案ヲ電報セリ一四、七月十日及十二日ノ二回ニ亘リ連絡懇談会ヲ開キ慎

第二次修正案ヲ内示セリー五、七月十五日午後五時阪本局長独伊大使ノ来訪ヲ求,

円満取計ヒ済ミナル旨電報アリタリ(特に米側ニテハ右ノ六月二十一日付「オーラル・ステートメント」返付方一六、七月十九日野村大使ハ我方訓令ニ基キ「ハル」長官

中

Z

カ英米海軍ヲ

デ

ル」シテ必要ノ兵力ヲ太平

次テ本使ヨリ新聞ニハ米国艦隊ハ太平洋ヲ受持チ全力ヲ集

非サルコトヲ明言セル由)「ステートメント」ハ帝国ノ内閣改造ヲ要請セルモノニ

七月六日「グルーー大使ハ独蘇戦争ニ日本カ参戦セン七、「ルーズヴェルト」大統領「メッセーヂ」問題非サルコトヲ明言セル由)

同七日右ニ対シ回答ヲ発出スルト共ニ米国カ欧州戦争ニ相宛「メッセーヂ」ヲ同首相ニ伝達セリ依テ当方ヨリハスルヤノ噂ニ関シ帝国ノ態度ヲ照会セル大統領ノ近衛首七月六日「グルー」大使ハ独蘇戦争ニ日本カ参戦セント

,, ネテ大橋次官ヨリ「グルー」大使ニ対シロ頭申入ヲ為シ 十六日「グルー」大使ヨリロ頭回答ニ接シタリ十七日重

参戦スル意図ナリヤヲ反問セリ

一八、現内閣トナリテモ兎モ角本件交渉継続ノ方針ニハ変 一八、現内閣トナリテモ兎モ角本件交渉継続ノ方針ニハ変 一八、現内閣トナリテモ兎モ角本件交渉継続ノ方針ニハ変 一八、現内閣トナリテモ兎モ角本件交渉継続ノ方針ニハ変 一八、現内閣トナリテモ兎モ角本件交渉継続ノ方針ニハ変 一八、現内閣トナリテモ兎モ角本件交渉継続ノ方針ニハ変

ニ至レリ

### 九、今後ノ見透

モノト考へラル地二陥レル趣ナリ従ツテ今後本件交渉ハ益々困難トナル引掛リタリトノ非難政府内外ニ起リタル為メ非常ナル窮「ハル」長官、「ウォーカー」郵務長官等ハ日本ノ謀略ニ仏印南部進駐ニ依リ米側特ニ本件交渉ニ熱心ニ当リタル

勢整備ニ努ムヘキハ外交ノ任務ナルニ鑑ミ言葉ハ悪イ ラモ必要物資ヲ米国、中南米、蘭印等ヨリ入手シ得ル態 スル場合ハ対日強硬政策ヲ再ヒ一時修正スル必要ニ迫ラ 陸作戦ノ成功乃至対英逆封鎖ノ効果増大等ノ情勢ヲ予見 尤モ他方米側トシテモ独「ソ」 事情アリトスレハ右南進実現ノ時機ニ至ル迄ノ間細 南進ヲ不可能又ハ不利トスル軍事的、 ルルコトナキヤ保シ難カルヘク又日本側ヨリスレハ即時 「謀略」ノ見地ヨリ シ スルモ本件会談続行ニ努ムへキ 戦ノ結果独逸ノ英本土上 物資的乃至社会的 々乍 当 カ

昭和16年8月3日 豊田外務大臣宛(電報)

143

## 国閣僚との会談について仏印進駐および日米首脳会談などに関する米

ワシントン 8月13日後発

本 省 8月14日後着

第六八四号(極秘、館長符号)

> 本日午 圧迫ハ有害ニシテ却テ反動ヲ来シ時局ヲ紛糾セシムルニ至 致ヲ見易キ旨語ルモノ二三ニ止マラサル旨申セシ処敢テ否 本ニ対シ注意カ集中セラレ此ノ方カ議会方面ニ於テ意見一 洋ニ送ルヘシ等ノ記事アリ且此 自ラヲ「アジャスト」 ル大ナル政治的考慮ヲ以テノソメハ日本人ノ常識 ルニアラサルモ今ハ何ヲオイテモ「ヒトラー」ヲ破ル為之 コトハ多分ノ「トラブル」ヲ醸シ得ヘシト申シ尚又米国ハ 定セサルモ日本海軍ハ ト協力セサルヲ得サル次第ヲ語リタリ本使ヨリ日本ニ対シ 「ソ」連ヲ好ムニアラス且将来ノ厄介ナル事態ヲ予期セサ -後四時 一ハ スルニ至ルヘキ旨ヲ申述へ置 精鋭ニシテ独逸ト策応シテ行動スル ノ求ニ依り会見 ノ頃独逸ニ対シテヨリ ハ自然ニ ーキタリ

144 昭和16年8月15日 在米国野村大使宛 (電報

# 実現に善処方再訓令平沼国務相の遭難にかかわらず日米首脳会談

第四八○号(至急、館長符号、機械) 本 省 8月15日後9時30分発

第六八九号(極秘、館長符号)

電第四七〇号ノ趣旨ヲ体シ本件実現方ニ善処セラレ大局的 ク当ラス公正ナル日本興論ハ妥当ナル国交ノ調整ハ相手国 積極的行動ヲ以テスル抗議ナリト解スルモノアルモ右ハ全 平沼国務相ノ遭難ニ付対英米協調主義ニ対スル日本国民 方ノ判断ニヨリ随時在京大使トモ連絡スヘシ 妥結ヲ目シ全面的破綻ヲ避止致シ度シ追テ御来示ニ従ヒ当 政府ハ屢次申進メノ通リ真摯ナル態度ニ渝ルコトナシ就テ ノ如何ヲ問ハス之ヲ是認スルモノニシテ今次遭難ニ拘ラス ハ貴電第六七四号ノ次第ハアルモ大統領ニ対シ速ヤ カニ往

付シ右ハ資金凍結令トハ関係ナキ主トシテ個人ニ関スルモ

シタル処長官ハ本邦及我占拠地域ニ於ケル米国権益ノ侵害 往電第六八四号二関シー三日午後四時本使国務長官ト会見

ノ最近ノ事例ヲ列挙シタル別電第六九○号ノ如キ書面ヲ交

昭 和16 年8月15 H 豊田外務: 3大臣宛(電報)1村大使より

> カラセハ相対的トナリツツアルカ斯ル「ピンプリッキング」、、、 ニ付テハ米国ト併行動作ヲ取リツツアリ個人ニ対スルイヤ、、 十数万二達スト云ヒタルニ依り本使ハ日本ハ凍結令ノ運用 シ在本邦米国人ハ其数々百人ニ過キサルカ在米ノ日本人ハ ノナルカ此ハ新聞等ニ洩ラシ輿論ヲ刺激スルカ如キ意思ナ

ハ大局ニ影響ナク道徳的ニ面白カラサル次第ナルヲ以テ相

ハス

145

## 米国国務長官との会談について 在日資金凍結令および重慶爆撃などに関する

八月一三日付在米国野村大使より豊田外務大 臣宛第六九〇号

米国国務長官より手交された米国の権益侵害

象ヲ得タリ

ナリト答へタルカ其ノ頃或ハ米側ヨリ何等申出アルヤノ 貴使ハ本週末華府ニオラルヘキヤト尋ネタルニ付其ツモリ ト申シタルモノナリト説明シオキタリ尚其ノ際「ハル」ハ 話アリタルニ付右爆撃ハ当分ノ間市街地域ノミニ付行 互ニ中止スへキナリト挨拶セリ長官ヨリ次テ重慶爆撃ニ付

に関する書面

(別

雪

ワシ ン ン 8月13日後発

本 省 8月14日後着

第六九〇号 (館長符号)

and interests in Japan and in Japanese-occupied areas of Recent cases of interference with American right

authorities have recently undertaken widespread and in Japanese-occupied areas of China indicates that American official establishments expanding from American diplomatic and consular offices in Japan Japanese authorities and Japanese-sponsored Information received by the Department of State activities of arbitrary nature against and

interests American officials and American rights and

North China the travel of Americans, including

permits or delay in their issuance up by the Japanese military authorities and by refusal of restricted, or delayed by a system of travel permits set American consular officers, is being stopped, severely

requirements are in force at Tientsin and Tsingtao.) one week to obtain. the Japanese naval authorities which requires at least travel to Chinwangtao but also a landing permit from Shanghai are required not only to have a permit for rail Αt Chinwangtao, (It is assumed that similar Americans embarking for

and checking baggage of Americans to the railway stations forbidden and other foreigners pass the summer, transportion of the At Peitaiho, where a large number of Americans railway refuses to receive

to the United States have been unable to proceed Shanghai to obtain available accommodations for travel restricted Travel of American Citizens in Japan has been SO that American desiring to proceed to

215

At Tsingtao the mail of American Citizens, including the official mail of the American Consulate is apparently being held up and censored, American firms are being prohibited from moving their stocks and carrying on business and are not permit to draw funds Japanese banks to pay their staff salaries.

The premises of the Standard-Vacuum and Texas
Oil Companies and of the Universal Leaf Tobacco
Company have been occupied by Japanese gendarmes.

Protest against the smoking of cigarettes by Japanses sentries in the oil installations of American Companies have been without avail.

Garages have been forbidden to furnish taxi cabs to American Citizens, including the American Consul, or to do automotive repair work for American Citizens.

It is reported on good authority that the restrictions imposed by the Japanses Authorities on Americans there include, in addition to some of those listed above, a prohibition of coal deliveries to American Citizens and

the withholding of American Red Cross famine relief wheat from distribution to refugees by the International Relief Association.

Chineses have been intimidated and instructed not to sell food products to or engage in other transactions with Americans if the products exceed in value, or the transactions involve more than, twenty local dollars, and orders have been issued for the cancellation of American insurance policies.

Yokohama Specie Bank to meet their pay rolls. proceeds must be handed over to the Japanese; and mission; sales may only Company and the Texas Company have been placed Consulate has shown evidence of having been opened by held up and registered mail received by the American firms cannot withdraw funds from At Chefoo mail addressed to Americans is being the control of the Japanese The stocks of the made Standard-Vacuum bу special permit and the American military 0:1

At Hwanghsien, Shantung, the Baptist Mission is being picketed, no American is allowed to move his personal effects, the American members of the Mission are restricted to the immediate vicinity of the compound and are prohibited from using their automobiles, as well as being prevented from traveling to Chefoo.

At Tientsin, American firms are unable to make rail shipments and the post office in one instance refused to accept a registered letter addressed by an American firm to the United States.

missionary institutions police with more success against American firms policemen departed upon being asked to do so by Authorities to see that "nothing passed in or out" and stating that they had been instructed by the Japanese At Foochow, two policemen visited the Consulate to Similar be given quarters in activities were the Consulate undertaken bу (the and the the

日米首脳会談の申入れ

At Hsinan, a virtual blockade of Cheeloo University

(Anglo-American) and Cheeloo Hospital (American) has been established, no foods or other articles being allowed to enter those two missionary institutions.

At Kobe, the telephone service of the Standard Oil Company was cut off because the Company was unable to draw funds to pay the telephone bill.

At Swatow, unwarranted interference by the Japanese with Amrican firms engaged in the linen drawn work trade has occurred and shipments has been obstructed.

offices. which is essential Diplomatic and Consular offices English In Japan, by the restrictions on the language to the over the proper telephone, are denied a facility functioning use American of of the

At Mukden, control over the movements and activities of Americans has been rigid.

American Cathoric Mission sisters at Fushun were permitted by police to visit the Consulate for passport

且此

処置ナル

由

(ノ度ノ英米声明ニ対シテモ東京新聞ハ辛辣ナル批評

加

へ居り空気極メテ悪シ此ノ際何ト

カシテ此

Ĭ

誤解ラ

第七〇五号

(極秘、

館長符号)

of the Consul untenable. the legitimates of, the American Consulates seem to Dairen Authorities toward, and their interference care taken for scrutiny, and in general the conduct of the stopped by police and the mail and telegrams in their by police and questioned, the Consulate's messengers are persons entering and leaving the Consulate are stopped surveillance and are followed in all their movements, At Dairen, by those authorities to make the position Consular officials are under police

146 昭和16年8月16 H 豊田外務大臣宛(電報)在米国野村大使より

218

## 日米首脳会談に関する見通しについて

ワシントン 8月16日 発

省

第七〇三号

貴電第四八〇号ニ関 シ

国論一致スルニ至ラス大統領モ腐(心)シツツアル モ望ム所ナリトノコトナリ 消息通ノ云フ所ニ依レハ夫レハ英国モ賛成シ支那モ独逸 ルカ之ニ反シ極東ニ対スル強硬論ニ対シテハ興論一致シ 両国人一般ノ見解ナリ既報ノ通リ米国ハ欧州参戦ハ未タ 駐ヲ見ルニ於テモ形勢ノ急変ヲ見ルナラントハ殆ト日米 所ニ到著シ日本ノ次ノ動キニ依り急転スル 累次御報告致セシ通り日米関係ニシテ真ニ危機 ノ惧アリ 趣ナ 泰進 発ノ

国ハ米国ヲシテ「バックドア」ニ於テ日米戦争ヲ為サシ 故極端ノ所迄容易ニ動クコトナカルヘシト認ムル 唯大統領モ海軍首脳モ太平洋戦争ノ大事業タル ハ惹イテ米国ヲ欧州戦争ニ引込ム見込アリ ヲ知ル 一面英 カ

支那ヨリノ撤兵通商ノ無差別主義ノ三点ニ付テハ少クト スルニハ相当ノ考慮ト地均シ工作ノ必要ヲ痛感スル 二国務長官ヨリ拒否セラレアル今日御訓令ノ趣旨ヲ達成 モ或程度ノ言質位ハ要望スルニ相違ナシト愚考ス旁々既 ク従ツテ先般来ノ話合ニ於ケル難点タリシ自衛権ノ問題 一国ノ元首カ成功ノ見込アルニアラサレ 一掃スルニアラサレ ハ目的ヲ達シ難シ尚又政治的ニ考 ハ出馬スル筈ナ 次第

大統領ハー 分御指示アラハ 両日 速カ 中ニ帰ル由ナルニ付 二電報ヲ請 右諸点御考慮ノ

取次ヲ請ハサルヲ得ス而シテ国務長官ノ答ハ既報ノ通リ

当国ノ情勢右ノ如キ時御訓令ノ会談ニ付テ

ハ国務省ニ

カサ

否定ナル

勢ニ髣髴タリ

ト考へ居り勝利

ノ信念昻

7

1} " ッ

ァ

ル

ノ情

期ノ目的ヲ達成シ得ヘク今日ハ概ネ一九一三年初頭 水艦戦モ英米ノ為メ有利ニ展開シ長期戦ヲヤル間ニハ所 ナキモ速戦速決ノ域ヲ脱シ漸ク消耗線トナリ大西洋ノ潜 尚当方面ノ見ル所ニテハ独逸ハ

「ソ」連邦ニ勝ツニ相違

ナリ

昭 和16年8月17 H 豊在 田米国 **7務大臣宛(電報野村大使より** 

日米首脳会談に関する米国国務長官との 会談

モノ

について

25

記 英米共同宣言(大西洋憲章)

ワシントン 8 月 17 日 前発

本 8月17日後着

出テ居り本使ノ如キハ東京ヨリ「フウ 的調整ニアラス唯米国ニ対シ「アピーズメント」戦略ニ 国務長官臨席スルヲ例トス大統領ハ會テ両国首脳会談ノ 考アリシモ仏印進駐以来日本ノ志ス所ハ日米国交ノ根本 ントシタルモ同氏ハ余リ乗気ノ様子ナク而シテ会談ニハ ト考へ出シタル趣ニシテ過般本使ヲ特ニ引見シタ ヲ以テ其ノ後長官ノ反省ニ関シ一閣僚ヲ動 ル」サレ居ル in

147

モ多ク油断スヘカラスト申セシ処長官ハ共鳴ノ態度ニテ第 従スヘキニアラス況ンヤ此ノ戦争ハ第三国ヨリノ教唆勧誘 ニアラス数年ニ亘ル消耗戦トモナリ両国何ノ得ル所モナカ ウダイ)ニシテ米国カ富ミ日本カ貧ナルカ故ニ勝敗決スル ル如キ簡単ナルモノニアラス歴史上ノ先例ナキ大部隊(マ シテハ前途知ルヘキノミト述へ太平洋戦争ハ巷間カ想像ス ヲ見ルニ至レリト云ヘルヲ以テ本使ハ然ラハ此ノ儘ニ放置 ヲ計ルニ在リシカ「ミリタリー・ドミネーション」ノ実行 来ノ応酬ヲ繰返ヘシ貴使トノ間ニハ平和ノ方法ヲ以テ妥結 御訓令ノ趣旨ヲ体シ国交調整ノ必要ヲ述ヘタル処長官ハ従 手ヲ打チ置クヲ必要ト認メ今日午後国務長官ヲ往訪段々ノ 熟議ノ上大統領帰華ニ先立チ我方ヨリ何トカ米政府ニ対シ シ米ハ英ノ戦争目標ヲ明ラカナラシメ其ノ野望ヲ抑制 ル対日不安ハ主トシテ米国ヲ利用スルコトニ依リ之ニ対応 英米両巨頭会談ニ関シ英ハ米ヲ引込ムニ努力シ極東ニ於ケ ノニシテ英ノ不利トスル所ナリトノ情報ニ接シタルヲ以テ ヘシ両国政治家ハ夫々自国ノ「ホットヘッド」ノ説ニ盲 シタルモノニシテ共同声明ハ正ニ米ノ希望ヲ盛リタルモ ノ運動ヲ肯定シ貴国ニモアランカ当国ニモアリ ト云ヒ セン

タル説迄モアリト云ヒタリ「ヒトラー」ハ「スターリン」ノ意向ヲ諜知シ戦争ヲ始メ

成立ヲ異ニス東亜共栄圏ト云フモ決シテ征服ヲ企 申シタリ ハ総テノ国ニ対シ平等ノ地位ヲ認メ決シテ武 ニアラスト申セシ処長官ハ多少首肯スルモノノ如 ラス善隣友好共存共栄ナリ貴国ノ善隣政策ト多ク異ルモノ 駁シ日本ハ皇室ヲ中心トスル悠久二千六百年ノ国家ナリ彼 ノ一代ノ改革家カ国家国民ノ生存ヲ一挙ニ賭スル 「ミリタリ ・ドミネーション」ニ関シテハ本使 力ヲ用 イク尚米国 エツルニア (八強 1 国 ヒスト ク反 1 **/** \

スト云ヒタル処同感ノ様子アリタリへキモ然ラサル場合ハ日本人ノ常識ハ自ラ調整ノ途ヲ見出本使ヨリ外部ヨリ圧力ヲ加フル場合日本ハ益々反撥硬化ス

二於テハ依然不可能ト認メラルル次第ナリヤト問ヒタル処の等カノ途アルカニ感ス日本政府ニ於テ首脳出馬ノ決意アルモノ多ク寧ロ「エンカレヂ」サレタル心地シ国交調整モハ項目ニハ近衛声明等ニ於テ発表セラレタルモノト一致ス 両国首脳ノ会談ニ関シテハ自分一個ノ意見トシテハ今度ノ

電一閣僚トノ話ノ結果カトモ推察ス) 次クモ可ナリト申シ前ト異リタル返答ヲ為セリ(此ノ点既テ充分ノ見込ヲ持タルルナラハ「ホワイト・ハウス」ニ取長官ハ之ハ未タ自分ノ所迄ニテ上ニ報告シアラス貴使ニ於

ミ迄ニ御通知願ヒ度シニ対スル我方態度ニ付当地ニ於テハ「アラーミング・ニュー追テ南進ノ限度ニ関シテハ御意向ヲ承知シアル処西伯利亜テ此ノ儘ニ放任セハ危険ナリト感スト返答シ置キタリ更ニ現在ノ状況ヲ如何ニ見ラルルヤト質問シ来リタルヲ以更ニ現在ノ状況ヲ如何ニ見ラルルヤト質問シ来リタルヲ以

#### (付 記)

# ANGLO-AMERICAN JOINT DECLARATION

Signed somewhere on the Atlantic, on a certain day of August 14, 1941. Announced on August 14, 1941

日米首脳会談の申入れ

The President of the United States of America and the Prime Minister, Mr. Churchill, representing His

Majesty's Government in the United Kingdom, being met together, deem it right to make known certain common principles in the national policies of their respective countries on which they base their hopes for a better future for the world.

- 1. Their countries seek no aggrandizement, territorial or other.
- 2. They desire to see no territorial changes that do not accord with the freely expressed wishes of the peoples concerned.
- 3. They respect the rights of all peoples to choose the form of government under which they will live; and they wish to see sovereign rights and self-government restored to those who have been forcibly deprived of them.
- 4. They will endeavor, with due respect for their existing obligations, to further the enjoyment by all states, great or small, victor or vanquished, of access on equal terms to the trade and raw

ラルルコトヲ希望ス

222

- labour standards, economic advancement and field with the object of securing for all improved collaboration between all nations in the economic They desire to bring about the fullest
- 6. After the final destruction of the Nazi tyranny out their lives in freedom from fear and want. afford assurance that all men in all lands may live safety within their own boundaries and which will afford to all nations the means of dwelling in they hope to see established a peace which will
- 7. Such peace should enable all men to traverse the high seas and oceans without hindrance.
- 8. They believe that all nations of the world, for realistic as well as spiritual reasons, must come to future peace can be maintained if land, sea or air the abandonment of the use of force. Since no

burden of armaments. nations is essential. of general security, that the disarmament of such establishment of a wider and permanent system outside their frontiers, they believe, pending the which threaten or may threaten aggression armaments continue to be employed by nations will lighten for peace-loving peoples the crushing encourage all other practicable measures which They will likewise aid and

Signed: WINSTON CHURCHILL Signed: Franklin D. ROOSEVELT

(右訳文)

英米共同宣言

礎ヲ成ス両国国策ノ共通原則ヲ公ニスルヲ以テ正シト思考 スルモノナリ 両国が世界ノ為一層良キ将来ヲ求メントスル其ノ希望ノ基 府ヲ代表スル 「チャーチル」総理大臣ハ会合ヲ為シタル後 「アメリカ」合衆国大統領及連合国ニ於ケル皇帝陛下ノ政

一、両国ハ領土的其ノ他ノ増大ヲ求メズ

二、両国ハ関係国民ノ自由ニ表明セル希望ト一致セザル 土的変更ノ行ハルルコトヲ欲セズ 領

三、両国ハ一切ノ国民ガ其ノ下ニ生活セントスル政体ヲ選 択スルノ権利ヲ尊重ス両国ハ主権及自治ヲ強奪セラレ ル者ニ主権及自治が返還セラルルコトヲ希望ス タ

於ケル利用ヲ享有スルコトヲ促進スルニ努ムベシ ルト又戦勝国タルト敗戦国タルトヲ問ハズ一切ノ国ガ其 ノ経済的繁栄ニ必要ナル世界ノ通商及原料ノ均等条件ニ 両国ハ其ノ現存義務ヲ適法ニ尊重シ大国タルト小国タ

六、「ナチ」ノ暴虐ノ最終的破壊ノ後両国ハー切ノ国民ニ対 切ノ国ノ一切ノ人類ガ恐怖及欠乏ヨリ解放セラレ其ノ生 シ其ノ国境内ニ於テ安全ニ居住スルノ手段ヲ供与シ且一 安全ヲ一切ノ国ノ為ニ確保スル為右一切ノ国ノ間ニ経済 ヲ全フスルヲ得ルコトヲ確実ナラシムベキ平和ガ確立セ 的分野ニ於テ完全ナル協力ヲ生ゼシメンコトヲ欲ス 両国ハ改善セラレタル労働基準、経済的向上及社会的

海洋ヲ航行スルコトヲ得シムベシ 右平和ハー切ノ人類ヲシテ妨碍ヲ受クル コトナク公ノ

> 八、両国ハ世界ノ一切ノ国民ハ実在論的理由ニ依ルト精神 ナリ 的理由ニ依ルトヲ問ハズ強力ノ使用ヲ抛棄スルニ至ルコ 備ヲ軽減スベキ他ノ一切ノ実行可能ノ措置ヲ援助シ及助 制度ノ確立ニ至ル迄ハ斯ル国ノ武装解除ハ不可欠ノモノ ザルガ故ニ両国ハー層広汎ニシテ永久的ナル一般的安全 使用セラルルトキハ将来ノ平和ハ維持セラル 略ノ脅威ヲ与ヘ又ハ与フルコトアルベキ国ニ依リ引続キ トヲ要スト信ズ陸、海又ハ空ノ軍備ガ自国国境外ヘノ侵 ト信ズ両国ハ又平和ヲ愛好スル国民ノ為ニ圧倒的軍 ルコトヲ得

フランクリン、 インストン、 ディ チャーチル <u>П</u> -ズヴェ

148 昭 和16年8月18日 豊田外務大臣宛(電報)在米国野村大使より

告および日米首脳会談に関する文書について 米国大統領との会談の際手交された武力進出警

八月一八日付在米国野村大使より豊田外務

大臣宛第七〇七号

日米首脳会談提案に対する米国回答

記 右別電一訳文

付

右別電二訳文

ワシント ン 8 月 18 日 前発

本 省 8 月 18 日 後着

第七○六号(極秘、 館長符号)

本日会見ノ参考資料トシテ国務省ヲシテ用意セシメタ 請アリタリ尚右書物ハ 第七○八号(両国首脳部会見ニ付テハ先日本政府ノ政 ナル且一切ノ措置ヲ即時執ラサルヲ得スト結論ス)及別電 米国民ノ権益擁護並米国ノ安全保障ノ為必要ト認ムル如何 求メニ依り往訪 (「ハル」長官同席) セル処別電第七○七号 策闡明ヲ求ムル趣旨)書物ヲ読上ケ右東京政府ニ伝達方要 (日本カ之以上武力進出ヲ行フニ於テハ米国政府ハ米国及 七日午後日曜ニモ拘ラス今朝帰朝早々ノ大統領ノ至急ノ ニスキスト云へル カ本使限リノ参考迄貰ヒ受ケタリ 口上書トモ言フヘキモノニアラス唯 ル モ

and

similar declaration and would be further disposed to terms. Government of Japan would be disposed to make a intentions with regard to Indo-China and that they of the Netherlands and of China that they make binding withdraw would be willing to join, upon the understanding that the undertake this declaration, in which the United States willing to suggest to the powers mentioned that they Indo-China should be available to all powers on equal would agree that the markets and raw materials of and solemn declaration that they had no aggressive willing to suggest to the Governments of Great Britain, Japanese informed The President stated further that he would be Ambassador its military the Japanese in Washington that he and naval forces Government through from was the

disposals of armed forces at various points in the Far Japan has continued its military Notwithstanding these efforts, the Government activities and its of

日米首脳会談の申入れ

会談ノ内容及意見追電スへキモ不取敢

別 電こ

ワシント ン 8月18日前 発

省 8月18日後 着

第七○七号(館長符号)

of peace with order and justice in the Pacific. between the two countries relative to the maintenance the possibility of reaching a sound basis for negotiations in protracted conversations directed toward exploring the Japanese Ambassador in Washington, have engaged States and of Japan, through the Secretary of State conversations precluded pursuit by either Government objective During past months the Governments of the United of policies which were expansion by force underlying or bу threat of and

July 24 last the President of the United States

and naval forces. East and has occupied Indo-China with its military, air

our two countries. for amicable and mutually profitable relations Government that there should be provided a fresh basis sympathy with the desire expressed by The Government of the United States the Si Japanese between

moment tend to further the objectives sought. which come to it from many sources, can do its part. stage that nothing short of the most complete (basis?) recent months. time and again during recent years and especially during basis for such an understanding has been demonstrated This Government's patience seeking an acceptable This Government feels at the present In the light of evidence and indications it will at this

pursuance of a policy or program of military domination Japanese necessary to say to the Government of Japan that if the Such being the case, this Government now finds it Government takes any further steps Ħ.

by force or threat of force of neighboring countries, the Government of the United States will be compelled to take immediately any and all steps which it may deem necessary toward safeguarding the legitimate rights and interest of the United States and American nationals and toward insuring the safety and security of the United States.

(別 電二)

ワシントン 8月18日前発

本 省 8月18日後着

第七〇八号 (館長符号)

Stricty Confidential

Reference is made to the question which the Japanese Ambassador raised on August 8 during a conversation with the Secretary of State whether it might not be possible for the responsible heads of the Japanese Government and the Government of the United

States to meet with a view to discussing means whereby an adjustment in relations between the United States and Japan might be brought about. The thought of Prince Konoe and of the Japanese Government in offering this suggestion is appreciated.

Reference is made also to the desire expressed by the Japanese Ambassador during a call on the Secretary of State on August 16th that there be resumed the informal conversations which had been in progress between the two Governments toward ascertaining whether there existed a basis for negotiations relative to a peaceful settlement covering the entire Pacific situation.

When the Japanese Ambassador brought up these suggestions, the Secretary of State reminded the Ambassador that the Government of the United States had shown great patience and had been prepared to continue in that course of patience so long as the Japanese Government manifested a desire to follow

public opinion. instructions from the Secretary of State, called on the officers campaign against the United States. endeavoring to Japanese press contended that the United States was discussed while Japanese offcial spokesmen and the Governments could usefully be pursued or proposals be that he did not see how conversations between the two being officially inspired in ways calculated to inflame encirclement of Japan by the United States and was press was being constantly stimulated predicated. Ambassador and the Secretary of those on which the recent conversations between the Government was adopting courses directly the opposite had received reports indicating clearly that the Japanese that while proceeding along this course this Government courses of peace. of the It was pointed out also that the Japanese The Secretary of State made Department of State, encircle It was pointed out to the Ambassador Japan and of State had been On two occasions carried to speak of pursuant it clear on to а

peace of the Pacific, including the Philippine Islands. Japan's part was prejudicial to the procurement by Secretary pointed out further that this new move on conquest preparatory to embarking on further movements of States that Japan had taken by forceful means naval bases in that area constituted notice to the United French Indo-China or the acquisition of military and could only assume that the occupation by Japan of pointed out that the Government of the United States Japan's intentions with regard to French Indo-China and and with the Japanese Ambassador the questions of Secretary of State raised with the Japanese Minister Subsequently, on of force military and naval bases in French Indo-China. reports that Japan intended to acquire by force or threat Japanese Ambassdor to indicate concern over the United States of essential raw materials and in the South July 21 and Pacific July area. 23 the The

The Government of the United States accordingly

had no alternative but to inform the Japanese Ambassador that, in the opinion of this Government, the measures then being taken by Japanese Government had served to remove the basis for further conversations relative to a peaceful settlement in the Pacific area.

privileges of either the United States or Japan would be long been committed with the basic principle to which the United States has considered except as the right there being in conformity peaceful methods. covering the entire Pacific situation would naturally basis for negotiations relative to a peaceful settlement directed toward ascertaining whether there exists a Government and the Government of the United States Informal the working 01. suggestions discussions It goes without out of affecting between the Japanese program attainable the rights saying that and no bу

The program envisaged in such informal discussions would involve the application in the entire Pacific area

continue to be followed by this Government and this policy of aiding nations resisting aggression countries or areas within the Pacific were menaced, the adopted for the Pacific and if thereafter any of the peaceable and maintenance of peace. living, and to the nations and peoples concerned, to raise standards of regions where productive capacity can be improved. only their own economies but also the economic leadership for the purpose of building up not resources and peaceful basis toward utilizing all available cooperation by all nations of the Pacific on a voluntary commodities. Such a all countries to raw materials and to all other essential and treatment. of the principle of equality of commerical opportunity The result would be to increase the purchasing power of of capital, technical skill, and progressive create It would thus make possible access by constructive If such a program based upon conditions conductive to the program would principles were economies of envisage would

Government would cooperate with other nations in extending assistance of any country threatened.

fair price. distribution of the products of such monopolies and see that all countries are given a fair share of the of the United States would expect to use its influence to commodities are vested in monopolies, the Government monopolistic or preferential character. other peoples or to obtain economic rights of a definitely country to extend its military or political control over States, attain all the objectives which Japan affirms that would, in the opinion of the Government of the United Under such a program for the Pacific area Japan production and This program would not enable distribution of essential In those cases at a any

If the Japanese Government is seeking what it affirms to be its objectives, the Government of the United States feels that the program above outlined is one that can be counted upon to assure Japan

satisfaction of its economic needs and legitimate aspirations with much greater certainty than could any other program.

In case the Japanese Government feels that Japan desires and is in position to suspend its expansionist activities, to readjust its position, and to embark upon a peaseful program for the Pacific along the lines of the program and principles to which the United States is committed, the Government of the United States would be prepared to consider resumption of the informal exploratory discussions which were interrupted in July and would be glad to endeavor to arrange a suitable time and place to exchange views.

The Government of the United States, however, feels that, in view of the circumstances attending the interruption of the informal conversations between the two Governments, it would be helpful to both Governments, before undertaking a resumption of such conversations or proceeding with plans for a meeting, if

the Japanese Government would be so good as to furnish a clearer statement that has yet been furnished as to its present attitude and plans, just as this Government has repeatedly outlined to the Japanese Government its attitude and plans.

### (付 証一)

#### E L

ルモノナリルモノナリーの場合を関及日本国両政府ハ国務長官及在華過去数ケ月ニ亘り合衆国及日本国両政府ハ国務長官及在華過去数ケ月ニ亘り合衆国及日本国両政府ハ国務長官及在華過去数ケ月ニ亘り合衆国及日本国両政府ハ国務長官及在華過去数ケ月ニ亘り合衆国及日本国両政府ハ国務長官及在華

市場及原料ハ均等ナル条件ニテー切ノ国家ニ利用セラルへ有セサル旨ノ拘束力アル厳粛ナル宣言ヲ為シ且印度支那ノ和蘭及支那政府ニ対シ之等諸国カ仏印ニ関シ侵略的意図ヲ去ル七月二十四日合衆国大統領ハ「グレート・ブリテン」

考ス

シ日本国政府ニ通報セリ大統領ハ更ニ前記諸国ニ対シ日本国政府カ同様ノ宣言ヲ為シ且更ニ印度支那ヨリ其ノを海軍兵力ヲ撤退スルノ意向ヲ有ストノ了解ノ下ニ前記宣言ノ履行ヲ保障スル様提言スルノ用意アル旨言明セリ合衆国ハ右宣言ニ参加スル用意アリ之等ノ努力ニ拘ラス日本国政府ハ其ノ軍事行動及極東各地点ニ於ケル武力ノ配置ヲ継、シ田本国政府カ同様ノ宣言ヲ為シ且更ニ印度支那ヨリ其ノキコトニ同意スル様提言スル用意アル旨華府駐在日本国大キコトニ同意スル様提言スル用意アル旨華府駐在日本国大

ニ依り表明セラレタル希望ニ対シ充分ナル同情ヲ有スタメノ新タナル基礎カ供与セラルヘキコトニ付日本国政府合衆国政府ハ日米両国間ノ友好的且相互ニ利益アル関係ノ

二達セサル何物モ其ノ役割ヲ果ササルモノナリ(脱)ト思セラレタリ本政府ハ現状ニ於テハ最モ完全ナル基礎(脱)府ノ忍耐ハ最近数年間殊ニ最近数ケ月間ニー再ナラス立証斯カル了解ノタメ受諾シ得ヘキ基礎ヲ見出サントスル本政

テハ(最モ完全ナル基礎ニ非サレハ?)追及スル目的ヲ促多数ノ筋ヨリ本政府ニ到達スル証拠及指示ニ鑑ミ現在ニ於

ヲ移サス合衆国及米国民ノ合法的ナル権利及利益防衛ノ為 武力的威嚇ニ依ル軍事的支配ノ政策若ハ 日本国政府ニ対シ若シ日本国政府カ隣接諸国ヲ武力若ク コト必要ナリ 及合衆国ノ安全及保障ヲ確保スル為メ同政府カ必要ト スル ルー切ノ手段ヲ講ス ノ為メ更ニ何等カノ措置ヲ執ルニ於テハ合衆国政府ハ時 二役立タサルヘシ実情右ノ如キヲ以テ本政府ハ ト思考ス ルヲ余儀ナクセラル 「プログラム」遂 へキ旨言明 スル 今 認

### (付記二)

#### 極秘」

本国政 題即チ合衆国及日本国間ノ関係調整ヲ招来スル方法ヲ討 日本国大使カ八月八日国務長官トノ会談ニ於テ提起セル セラレタル太平洋ノ全局ニ関スル平和的解決ニ関連スル会 カ会見スルコト可能ナラスヤニ言及セラレタリ近衛公及 スル意図ヲ以テ日本国政府及合衆国政府ノ責任アル 本国大使カ八月十六日国務長官ヲ来訪セラレタル際表明 為 府ノ右提議ヲ為サ 基礎カ存スル ヤ否ヤヲ確カムル ルル著想ヲ多トスルモ 目的ニテ両政 フナリ 首脳者 府間 議問 日

) ニ進行中ナリシ非公式会談再開ノ希望ニモ亦言及セラレ

Z

続スル用意ヲセシコトヲ想起セシメタリ的方策ヲ追及スヘキ意図ヲ表明スル限リ右忍耐ノ方針ヲ継め合衆国政府ハ既ニ大ナル忍耐ヲ示シ且日本国政府カ平和日本国大使カ之等提議ヲ提起セル際国務長官ハ同大使ニ対

(複数)及日本新聞カ合衆国カ日本ヲ包囲スルニ努メツツア 旨同大使ニ指摘セリ又日本ノ新聞ハ合衆国ニ依ル 方策ヲ採リツツアルコトヲ明瞭ニ指示スル情報ヲ接到セ 官間ニ於ケル最近ノ会談ノ基調ヲ為セル 右方針続行中ニ於テ米国政府ハ日本国政府カ大使及国務長 二旦リ ヲ明瞭ナラシメタリ国務省官吏ハ国務長官ノ命ヲ奉シ二回 ラレ又ハ提案カ討議 ツアルニ際シ両政府間ノ会談カ如何ニシテ友好的 セリ国務長官ハ一方ニ於テ日本ノ公ノ「スポー ニ付論議スル様絶へス刺激セラレ且輿論ヲ煽動 コトヲ主張シ且合衆国攻撃ノ「キャンペー 的トスル方法ニ付公式ニ指導セラレツツアル 日本国大使ヲ往訪シ日本ハ武力又ハ武力ノ威嚇ニ セラルヘキヤ理由 ヲ発見シ得サ 方策ト -ン」ヲ行 クスマン」 事 スルコト ハ 日本包囲 三継 実ヲ指摘 ル ピーツ コ セ F

リ有害ナルコトヲ指摘セリ ヲ指摘セリ国務長官代理ハ更ニ日本ノ此ノ新行動ハ合衆国 武力的手段ニ依り踏ミ出シタルモノト推定スル外ナキコト 洋地域ニ於ケルヨリ以上ノ征服運動ニ乗出ス準備的一歩ヲ 印占領乃至同地域ニ於ケル陸海軍基地取得ハ日本カ南太平 日本ノ意図ノ問題ヲ提起シ且合衆国政府トシテハ日本ノ仏 三日国務長官代理ハ日本国公使及大使ニ対シ仏印ニ関スル ノ必需原料品ノ取得及比律賓群島ヲ含ム太平洋 二関スル不安ノ念ヲ表明セリ次イテ七月二十一日及二十 仏領印度支那ニ於テ陸海軍基地獲得ヲ企図シ在リ :ノ平和 ニト

ハ当時日本国政府カ採リツツアリタル措置ハ太平洋地域ニ従ツテ合衆国政府ハ日本国大使ニ対シ本政府ノ意見ニ依レ 従ツテ合衆国政府ハ日本国大使ニ対シ本政府 ケル平和的解決ニ関連セル会談ヲ此ノ上続行スル基礎ヲ ムル コトトナリタル旨通報スルノ外ナカリシ次第ナ コトヲ目的トスル日本国政府及合衆国政!スル平和的解決ニ関連セル会商ノ基礎存

府間ノ非公式討議ハ当然平和的手段ニ依り達成シ得 スルヤヲ確定スル 太平洋ノ全局ニ関スル平和的 「プログラム」ノ立案ヲ予見スルモノナリ合衆国若クハ ヘキ 日

> 以外考慮セラレサルコト勿論ナリ ハ合衆国カ従来長ク誓約シ来レル基本原則ニ適合スル 本国孰レカノ権利及特権ニ関連セル何等カノ提案若 八示唆 モ

的ナル原則ニ基ケル斯ル「プログラム」ニシテ太平洋 持ニ誘導スへキ諸条件ヲ創造スルニ在ルヘシ平和的且建設 及諸民族ノ購買力ヲ増加シ生活基準ヲ向上セシメ又平和維 資源活用ノ為メ之等諸国民ニ依ル自発的且平和的基礎 術的才能及進歩的ナル経済的指導力ノ利用シ得へキー切ノ 改善ノ余地ナル諸地域ノ経済ニモ建設スルカ為メ資本、 包含スヘシ右ハ斯テー切ノ国家ニヨル原料品及其他ノー切 洋全地域ニ経済的機会及待遇ノ平等原則ヲ適用スル 斯ル非公式討議ニ於テ予見セラル ク本政府ハ脅威セラルル ニ採択セラレ右採択後太平洋内ノ諸国家若クハ ケル協力ヲ予見スルモノトス其ノ結果(?)ハ関係諸国民 ハ太平洋ニ在ル一切ノ国民自身ノ経済ノミナラス生産能力 ノ必需物資ノ入手ヲ可能ナラシムヘシ斯ル「プログラム」 ル諸国民援助ノ政策ハ本政府ニ依リテ依然遵奉セラル カカ脅威セラル ルカ如キ場合ニ於テハ侵略ニ抵 何レ ノ国家へノ援助ヲ拡張ス ル 「プログラ 諸地域 抗 コ シッ こ基 トヲ 太平 ル 1 ノ為 ツ

国家カ斯ル独占的生産品ノ分配ニ付公正ナル分前ヲ且公正 ニ帰属シ居ルカ如キ場合ニ関シテハ合衆国政府 サラシムルモノナリ必需物資ノ生産及分配カ独占 ニ独占的若クハ優先的性質ヲ有スル経済的権利ヲ獲得シ得 国民ニ対スル軍事的若クハ政治的支配ヲ意図シ又ハ確定的 'n コトトスへシ 達成スヘシ右「プログラム」ハ如何ナル国家ヲシテモ他本ハ同国カ欲求シツツアリト確言シ居ル所ノ一切ノ目的 「プログラム」ノ下ニ於テハ合衆国政府ノ見解ニ依レ ニ付他国民(複数)ト協力スペシ太平洋地域ニ於 価格ニ於テ与ヘラレシム ル為メ 一同政府 ノ勢力ヲ行 ハー切ノ (複数) ケル ハ斯 ス

層確実ニ保証スルモノト信頼シ得ラルヘキモノナ 若シ日本国政府カ同政府カ其ノ目的ナリト確信スル ノヲ追求シツツアルニ於テハ合衆国政府ハ右ニ略述 「プログラム」ハ日本ニ対シ其ノ経済的要望及合法的ナ 二関スル満足ヲ他ノ如何ナル「プログラム」ヨリ 1) ト思惟 所 モー セ 1 iv iv モ

調整シ且合衆国カ誓約 日本国政府カ日本ハ其ノ膨張主義活動ヲ停止シ其ノ立場ヲ シ居ル 「プログラ 1 及原則二從 E

第七○九号

(極秘、

館長符号)

更ニ明瞭ナル 政府ノ現在ノ態度及計画ニ関シ従来提示セラレ 返シ其ノ態度及計画ヲ日 連セル事情ニ鑑ミ右会談ヲ再開スルニ先立チ若ク 欣然意見交換ノ為メ適当ナル時期及場所ノ斡旋ニ努力 ラレタル非公式予備的討議ノ再開ヲ考慮スルノ用意アリ且 望ヲ有シ且実行シ得ルニ於テハ合衆国政府ハ七月ニ中 ハ両国政府ニトリ有益ナルヘシト思惟 タメノ諸計画ニ著手スルニ先立チ日本国政府カ本政府カ繰 シ然レ共合衆国政府ハ両国政府間ノ非公式会談ノ中絶 テ太平洋ニ関スル平和的「プログラム」ニ乗出 「ステー トメント」ヲ提示 本国政府ニ対シ略述セル ス セラル ス ル 9 ハ会見ノ ルヨリ カ如 コト  $\supset$ つ同 二関 えへ 絶 ヲ

昭和16年8月18 H 豊在 田米 国 務野 大村臣大 宛使

149

### 日米首脳会談に関 ゚する 米国大統領との会談に

つ

い τ

ワシント 8 月 18 Н 後発

本 8月 19 H 前 着 ス

卑見別ニ具

申

交文書ニアラス「エイド・メ ジャ モ蓋シ 論者多キ如キ言ヒ振リナルヲ以テ本使ハ第三国中ニ太平洋 次イテ用 同席)大統領ハ過日来ノ海上生活ヲ話シ気候良ロシク霧ニ会 上ノ慣例ニ副ハサル 務長官モ貴使モ皆外交官出身ニアラサル モノアリ太平洋ニ軍艦ヲ持タサル国ナリト云ヒ「アワー 戦争ヲ熱望スルモノ多々アリト申セシ処直ニ肯定シ米モ ニテ軍艦ニ移り会合点ハ「メイン」州沖合ナリシ模様ナリ ントスル 七日(日)午後四時半内密ニ大統領ニ面会ス 七〇七号ノ書物ヲ明晰ナル ーマ 申シタクナキモト云ヒツツハツキリシテオク方宜 トノ意向ヲ示セリ本使ヨリ累次御電訓 「ソ」連邦モ太平洋平和ヲ望ムカ他ニ之ヲ欲セサ :ノ平和ニ恋々タルカ他ハ然ラスト云ヒ如何ニモ主戦 トモ少ク極メテ順調ニ進ミタルコト常用 日米国交調整ニ真摯ナルコト、 コトヲ書キタル迄ノモノナリト特ニ念ヲ入 ン・フレンド」ノ言葉アリタリ 談トナリ書物ヲ手ニシテ自分モ国務長官モ コトアル ・モアー へキ意味ヲ示シタル上之ハ外 発音ヲ以テ読ミタル後斯ル ル 大統領ハ ニモアラス唯話サ コトヲ云 貴大統領ハ ノ趣旨ヲ体シ日 (国務長官 ムヒテ外交の自分モ国 近衛公 ノレ往電 貴使モ " シ 1 ル 英 カ  $\supset$ 

ヒタル 聴シ往電第七○八号ノ書物ヲ手ニシ「ホノルル」ニ行 衛公ハ世界平和ノ見地ヨリ大局的ニ意見交換ノ用意ア テハ既ニ国務長官ニ日本政府ノ所見ヲ申入レア ト会談 之ヲ読上ケタル H シップ」ニ依リ決セラルルコトナリ ル旨ヲ述ヘタル上要スルニ万事貴大統領ノ「ステーツマ ト、米国政府ヨリ高度ノ「ステーツマンシップ」ヲ ケ月間ノ非公式会談ノ線ニテ実行スルコト、 ト云フヲ以テ十日間位ナラント答へ十月中旬 大統領カ会見スルコト 右ノ次第ニテ自分ハ今此ノ書物ニ多少手ヲ入 本ノ総理ハ桑港へモ「シアトル」 ハ地理的ニ困難ナリ自分ハ飛行機ヲ禁セラレ居レ ト云フヲ以テ其ノ頃迄ハ良ロシカランカト応酬 カ日本ニモ之ヲ「レシプロケー タルハ全ク地理的困難ニ依ル ハ「ジュノア」(「アラスカ」ニ在リ「シト 様記憶スルモハツキリセス) セラルヘキヤ否ヤヲ承知シタキコ 上自分 ニ書キアリ (大統領) - ト」スル用意アリ ハ決シテ今日 コトヲ前置キニ説明シテ シ原文中大統領ノ文字ヲ ヘモ来ル ハ如何日本ヨリ何日位 ト申セシ処大統領 仏印 レ 頃ノ気候ハ コ カ タリ } ル 八過去数 シタ 困難 コ ヲモ云 ト 信 期 ト申シ 1) 発ナラ í) 六 待 ル = 2 如 コ 傾 ン ス ス  $\supset$ 

十四ケ条ハ米国単独ノ声明ナリシカ今度ハ米ノ主張ニ英 終始極メテ慇懃懇切真ニ如オナキ態度ヲ以テ応対シ ハ日本ノ順番ナリト申シ且仏印ノ話ヲ為シタル後ニ於テ 「チャ シ已ムナクヤリ居ル訳ナレハ之ヲ開クハーニアリ 別レノ際何時テモ来ラレヨト云ヒタル ノ直後トテ特ニ上機嫌ニ見受ケラレ ドア」ヲ歓迎 ーチル」ト スル次第ニアラス然シ日本 ノ会談ノ成功 ・ター ム」トナリタリ之ニ対 (脱) 「ウイルソン」 カ支那問 タリ)又国 ム水上 大統領 ラ行 (過 今

務長官ハ 日来ノ シカ氏 生活十数日 スル国民ノ共鳴ニ快感ヲ持ツニ相違ナク且ハ其ノ好 ヲ引付ケ英米共同ノ「ピース 国務長官代理ヨリ泰国ヲ追加シアル旨ヲモ述ヘタリ 尚話ノ間 別個ノ 実現ニ付テモ或 日 問題トシテ今日 ニ大統領ハ郵政長官 米親善二断 25 へス努力スル ハ之ニ触レサリ 入レシタ ローウォ 1) 人ニシテ本会見ノ速カ カー モ思ハル追テ本件ニ 氏ノ名ヲ云ト

> 150 昭 和 16 年8月 18 日 豊田米国 大村臣大 丘宛(電報)の使より

### 大局的見地 より の 英断を望むとの 意見具

ン 8月 18 日 後

8月 19 Η 前

見へ従ツテ東部一段落ノ上最モ難関トスル英国侵略 違ナキモ可成リ時ヲ要シ今年英国ニ進入ノ公算少キカ 猛心ヲ発揮スヘク一時ノ毀誉褒貶ノ如キハ忍 テ多少懐疑的傾向ヲ生スルニ至リ且占領地人心ノ収纜 本使ノ所見ヲ率直ニ述フレハ今 ハ愈々長期トナルヘク而シテ独逸ニ於テハ赫々 後トナルヘク英国其ノ後更ニ米国アリト云フ風ニテ セサ リ国内多種ノ意見アリ困難重畳シ御苦心ノ程拝 ニモ上層部ニ於テ軍ト党トノ間ニ多少ノ扞格ア モ此ノ際政治ノ局ニ在ル者ハ真ニ国家百年ノ為ニ大勇 ル 戦局ノ終結カ必スシモ総統予告ノ ヘカラス観スル 館長符号 ニ独ハ「ソ」連邦ニ打勝 ヤ和 1 分岐点 如 クナラ ンテ之ヲ ġ ツニ # 1) ル 国民ニ ル 戦 ハ Ξ ヲ以 戦局 来春 ハ相 勝ノ 如 Ŧ ツ П 7 ツ

難物ナ

ル 力 如

キ報道モアリ

今日ノ

情勢ヲ

以テ

九

本日ノ新聞ニ依レハ大統領 ツツアルハ疑ヲ容レス

ハ極東ニ於ケル戦争ニ引

スルノ

ル危険ノ大ナルヲ感シ日本カ新シキ侵略ヲ開始

今度ノ会談提案ニ依り

大イニ米政府ノ意向ヲ緩和ス 五十ト見ツツアル様ナリ

ル

リテ重大ナ

ル関係ヲ

及ボスベシト説キ之ニ対スル日

本ノ

「チャンス」ハ略々五十、

テ懇篤ナリシニ見テ尚若干ノ望ヲ抱キ局

**抱キ局面ノ好転ヲ希望シリト申シ会見ヲ通シ極メ** 

ノ手段ヲ取ラルルハ貴方ノ順番ナリ

シ門戸

大統領ノ「ステーツマンシップ」如何ニ依ルト云ヘル 条件次第ニテ実行ノ意思アリト見ラル而シテ本使カ要ハ貴 統領ノ意向ヲ多分ニ盛リタルモノラシク我方ノ提議ニ応シ

ノ閉鎖ハ決シテ望ム所ニアラサルモ此

プリ門戸

,ヲ開ク

三対

為シタルコト

シク大統領カ本使ニ之ヲ読ミ上クルニハ種々重大ノ注意ヲ 往電第七〇七号ハ国務省ニ於テ前ヨリ準備シアリシモノラ

ハ既ニ報告ノ通リナリ然ルニ第七○八号

六大

152

ヲ充分ニ物語ルモノナリト信ス

何人ヨリモ先ニ本使ヲ引見シタルコト

ハ

日米関係ノ重大性

感ス

日曜日大統領カ帰宅後国務長官ト

数時間会談シタル

後

館長符号)

頁 20日

年二比 国カ欧州戦争ノ圏外ニ立チ国力ヲ充実スル以上交戦国 ナク概ネ自主独往ノ見地ヨリ自強ノ道ヲ取リ世界ニ無比ナ 独逸不利ナル場合ハ其ノ結果想察ニ余リアリ)皇国トシテ 難ク従ツテ今日英独戦ノ将来ニ付テハ遽ニ逆睹シ難シト思 於テモ何レノ陣営カ一層長ク持耐へ得ルヤハ容易ニ判断シ キモノニ帰スルハ前大戦ノ実証スル所ニシテ今後ノ戦争ニ 獲得シ得ヘシ 疲弊スルヲ以テ戦後世界再建ニハ吾国最モ有利ナル立場ヲ へク覇道ハ取ラス王道否皇道コソ我国ノ進ムへキ道ナリ ル二千六百年ノ国家ヲ行々安泰強固ナラシムル ハ余リ一方ニ深入リシ国運ヲ賭スルカ如キ危険ヲ冒スコト シ我方ノ希望スルカ如キ結果ヲ招致スルトハ思ハレ ニ於テハ我単独英米「ソ」支蘭印ト戦フ場合我国力ヲ消耗 ル レス而シテ最後ノ勝利ハ結局経済 ・モ其ノ期待スルカ如キ戦果ヲ得テ平和カ来ルヘシト (又独逸カ赫々タル勝利ヲ継続スルニ於テモ極東方面 スルハ必スシモ当ラサルヘキモ今日ハ愚カ明年ニ於 力、精神力、持久力多 ノ途ヲ進ム ス万一 ハ皆 ハ思 我

米トシテハ「バック・ドア」ニ剣ヲ擬シテ立ツ日本ノ態度 ヲ見定メスシテ其ノ為ス儘ニ傍観スル ハ不可能ト思ハ ル又

> 逸スレハ最悪ノ場合ニ進ムへク事態亦救フへカラサ ルハ火ヲ見ルヨリモ明カナリ ス今ヤ正ニ「ショウダウン」ニ到達セリ今「チャンス」ヲ 孤立ノ地位ヲ守リ難カルヘシ従ツテ日米関係ハ我方ニ於テ 我国トシテモ今日極東以外ノ世界ト経済断交ヲ為シ長ク 「デレーイング・タクチック」ヲ取リ荏苒時ヲ移スヲ許サ ル 二至

> > 236

陸海軍ノ宣伝ニモ大ニ意ヲ用ヒ官民相俟チテ大局ヲ保全ス 存自栄ニ大ナル障害ヲ来ストハ認メラレス何卒此 ル様切望ニ堪へス 二於テ大英断ニ出テラレ同時ニ輿論ノ指導ヲ為ス情報部及 今米国ノ提案ニ協調的ニ出ツル モ東亜共栄圏ノ建設及我自 ノ際政府

刻下未曽有ノ難局ニ シ敢テ卑見具陳 ス 際会シ沈黙ヲ守 ル ハ不忠ノ嫌アリ

昭和16年8月19 H 豊在 田米 外国 務野 大臣宛 (電報

151

日米首脳会談に対する米国大統領の 意向に つ

w て

シント ン 8月19日

果アリ 要シ若シ洩ル ト認メラレ タル 東京ニ於テモ其ノ秘密保持ハ最モ必要ナル ハ明瞭ナルカ本件ニ付テハ極メテ秘密ニ保 レハ四方ヨリ叩キ壊 ハシ運動アル 二相違 ア浦 ナシ ツヲ

考ニ供シ度キ所存ナリ 本件ニ関シ当方ニ於テモ研究シツツアリ 成案ヲ得 ハ

昭和16年8月19 日 在本邦独国大使天羽(英二)外務次官 会 談

極東情勢に関する 天羽外務次官と駐日独国大

使との会談録

八月十九日「オット」 独逸大使次官ヲ来訪挨拶

方ヨリ攻撃スルコトノ利益アル所以ヲ説キ 等ノ石油ハ軈テハ日本攻撃ニモ利用セラルベク日本ニト 米国ハ油槽船ニテ浦潮ニ石油ヲ供給セントシ既 ^船舶ハ出帆シ其ノ後続々出帆セラルベキ報道ア 欧州戦局ヲ述ベタル後此ノ際日本ノ為ニモ蘇 連邦 ル 二先発 処此 ラ東

### 態度ヲ知ラントシ

三、米国船ノ日本寄港問題(「クー 本ノ態度ヲ探ラントシ リッヂ」号問題)ニ付日

ヲ計リ政治的若ハ軍事的進出ヲ考へ居ルヤ其ノ辺ノ情報 ヲ得ント種々ノ質問ヲナセリ 日本ノ泰ニ対スル態度ニ言及シ日本ハ単ニ経済的進展

## 右回答ニ於テ次官ハ

視シ居ルガ日本ノ態度ハ英米ノ態度ヲモ考慮シ決定スベ 会見ニ於テ激シキ問答アリタリト付言セリ)泰ニ付テハ ナキコト、(「オット」大使ハ今日ノ情報局ニ於ケル記者 居ルコト、米船寄港問題ノ如キハ世間ガ騒グ程重大ナル ヲ必要トスルコト、米石油船問題ハ深甚ナル注意ヲ払ヒ キモノナリト答へタリ 英国ハ泰ガ英帝国防衛ノ前哨線ナル事実ニ鑑ミ極メテ重 問題トハ考へザルモ事件ノ真相ニ付テハ未ダ研究スル暇 日本ノ蘇連邦攻撃ノ 如キハ重大問題ニシテ慎重ナル

右間答中ニ於テ「オット」大使ハ独蘇戦争ハ現下南方方面 分九月上旬ニハ陥落スベク但シ其ノ際 二於テ発展シ南蘇ハ間モナク独ノ手ニ落ツベク莫斯科モ多 「スターリン」 政権

善ノ為メ尽瘁セル同大使ノ協力ヲ得タキ旨懇談シ置キタリ

シ本件「ホノルル」会談ノ実現ニ付過去九年ニ亘リ日米親

崩壊スルヤ否ヤハ断言シ得ズト述べ 、居タリ

153 昭 和16年8月21 H 在豊 米田 国外 野村大使宛の務大臣より (電報)

# 日米首脳会談実現に尽力ありたき旨駐日米国

## 大使へ要請について

非サレハ破局防止困難ナルヘキ事態ニ立チ到リタル旨強調 号米側申出(十五日同大使ヨリモ本大臣ニ通報アリ 政治家カ互ニ高度ノ「ステーツマンシップ」ヲ発揮スルニ ヲ約二時間ニ亘リ説明シ且屢次ノ往電ニテ申進ノ通リ両国 厳秘「オフ・ザ・レコード」トシテ往電第四五二号ノ趣旨 側ノ希望ニ副ヒ度キ意向ノ下ニ措置シツツアルヲ以テ最近 ニ付テハ直ニ関係方面ニ対シ調査ヲ命シ且出来得ル限リ米 十八日午後四時「グルー」大使ノ来訪ヲ求メ貴電第六 第四八八号(至急、 ノ時期ニ其ノ結果ヲ回答シ得ヘシト思考スル旨述ヘタル上 外機密、 館長符号) 8 月 21 日 4 時10分 タリ) 八

昭 和16年8 月 20 日 豊在 田 外 務 日 米 国 野 が大臣宛(電報)が村大使より

154

## 日米首脳会談に期待するとの米国閣僚の談話

1)

う T

ワシ 8月20日後発

省 8 月 21 日 1前着

第七二二号(極秘、 館長符号)

ヲ受ケルニ相違ナシ然シ成功ノ上太平洋ノ平和ヲ維持ス 議会ノ空気亦然ル時若シ之カ漏洩スルニ於テハ忽チ大反対 然ルヘシト云フヲ以テ本使ハ日本政府カ此ノ問題ニ対シ此 先例ナキコトナレハ日本政府ニ於テモ「レシプロケー 声明ニ於テモ日本ニ言及スルナク帰華早々日米会談ニ対ス 対シテモ決シテ反日ニアラス従来ノ演説ニ於テモ又今度ノ 処迄進ミタル 閣僚ト会見中同氏曰ク大統領ハ広キ世界観ヲ持チ日本ニ モ亦然リ第一仮令正当ノ理由ナキニセヨ反日空気横溢シ 提議ヲ国務長官ヨリ取リ上ケ直接本使ニ応酬シタルナト ハ大英断ナリ 、ト申セシ処同閣僚ハ大統領ニ於 ŀ 11

日米首脳会談の申入れ

上ノ出方ハ絶対ニ再ヒ期待シ難ク何トカ成功ヲ望ムト言 シト言ヒ将来今度ノ大統領ノ「オープン・ハーテ 問題ニ多少尽力シタルヲ以テ生甲斐アリタリト満足ス ハ国民ハ始メテ其ノ結果ニ満足スヘク自分 ノ如キモ此 ッド」以  $\sim$ 

155 昭和16年8月 20 H 在豊田 米国外 野村大 大臣 使宛り

在満部隊兵力増強問題に関する応答振りに

つ

本 省 20日後8 時

第四八七号(外機密、 館長符号)

貴電第七○五号末段ニ関シ

国ト接続地域タル関係上極東ノ平和維持並ニ帝国ノ国防及 ラレサルニモアラサル処帝国トシテハ同地方カ帝国及満州 安全確保ノ 果「スターリン」政権崩壊スルカ如キコトアラハ極東蘇領 独蘇戦争ノ前途ハ逆睹シ得サルモ若シ蘇連カ敗北シ其ノ結 カ政治的混乱ニ陥リ秩序紊乱スルカ如キ事態ノ発生予見セ 為自衛上機宜ノ措置ヲ講スル必要ニ迫ラ 11  $\sim$ 

ルーステ

---

便ニテ帝国国策トシテ中外ニ宣明

セラ n

ル筋合ノ

Ŧ

スルハ策ヲ得サ

ルモノナル

へク右ハ単ニ日米会談ニ入ル

諸点ニ亘り

É

想像サル勿論此ノ際大統領ノ触レサル他ノ

帥部ヨリ指令アリタル趣ナリ(此ノ点貴大使ノ含ミ迄) ヲ行ヒツツアル処在満部隊ニ対シテモ万事慎重ニ措置方統 方蘇ト当面ノ諸事項ノ友好的解決ノ為既ニ東京ニ於テ折衝 限度ニ於テ在満部隊ヲ増強スルコトトセリ但シ之ト共ニー 要モアリ帝国政府ハ今般右目的ニ対応スルニ必要ナル最小 満両国ノ安全カ脅威セラルルカ如キ事態ノ発生ヲ防止スル 又ハ軍事基地提供等)其ノ他蘇連ノ非友誼的行為ノ結果日 蘇領ニ導入セラレ(例へハ沿海州、「カムチャッカ」ノ売却 自明ノ理ナリ更ニ又独蘇戦ニ関連シ第三国ノ勢力カ極東

約二忠実ナル 本件条約ヲ遵守シ其ノ精神ニ反セサルニ於テハ日蘇中立条 度尚最近在日蘇大使ヨリ質問アリタルニ対シ我方ハ蘇側カ 破壊ヲ防止シ得ヘシト信セラルル旨ヲ印象ツケラル シ質問等アラハ貴大使限リノ御意見トシテ前記趣旨御含ミ 就テハ米国政府ヨリ帝国ノ北方ニ対スル兵力増強問題ニ関 ル予防目的ニ出ツルモノニシテ且之ニ依り却テ極東平和ノ ノ上可然御説明相成り結局万一ノ事態ニ対処スへキ純然タ ・明白トナレリト述へ大ニ之ヲ多トシ居リタリ御含ミ迄 日本近海ヲ経由スル援蘇物資殊ニ飛行機其他兵器ノ へキ旨ヲ本大臣ヨリ説示セルニ右ニテ事態極 ル様致

> 使ノ注意ヲ促シ置ケリ ヲ喚起シ置カレ度シ追テ本件ニ付テハ本大臣ヨリ在京蘇大 度キ我方要望ナルニ付適当ナル機会ヲ執へ可然米側ノ注意 カラサル影響ヲ及ホスコトナキヲ保シ難キニ付自制セラレ 目下機微ナル段階ニ在ル日米国交調整其ノモノニモ好マシ 輸送カ頻々トナル場合ハ日本ノ国民感情ヲ不必要ニ刺 激 シ

昭和16年8月21 豊在 田米 外国 務野 大臣宛

156

H

### 答案申達 野村大使より 日米首脳会談に関する我が 方回

臣宛第七二四号 月二〇日付在米国野村大使より豊田外務大

野村大使の米国側回答に対する我が方回答案

付 記 右別電訳文

ン 月

省 8 月 21 В 後 着

ź1

日

前

第七二三号(極秘、 館長符号)

大統領ハ時宜ニ依リテハ近衛首相ト 会見シテ宜シト考へ

タシ ヲ余スノミ又右会見カ実現スルモノトセハ船ノ用意随員ノ ヲ十月中旬トスルナラハ下交渉ノ完結ニハ今後僅ニーケ月 政府ニ於テ日米国交調整ヲ御決意ナリタル以上此ノ機ヲ逸 選択其他万端ノ スレハ再ヒ機会アリトモ思ハレス大統領ノ言ヘル如ク会見 アラス右ノ諸点御含ノ上本省審議ノ御参考ニ供セラレタシ 御用意モアル ヘク冀クハ急速ニ御回訓アリ

後的政治的手腕ヲ揮フヘク本提案ヲ為セルモノト認メラルニ難カラス反日空気特ニ悪化シ居ル此ノ際大統領トシテ最

ルコト

ナキヲ

帝

カ当

自ラ大局的見地ヨリ迅速解決ヲ為サントスル意向ヲ窺フ

模様ニテ(往電第七二二号)本案件ヲ事務当局ヨリ引取

(別

右ノ見地ヨリ当方作成ノ参考試案一応別電第七二四号ノ通

右ハ匆々ノ際意ヲ尽ササル点モアルヘク気付ノ点追電ス

面ノ急務ナリト信ス

示シ中絶セル今春来ノ非公式会談ヲ直ニ再開スルコト 国政府ノ立場ヲ明カニシテ米側ノ方針ト矛盾スル所 望マシク又具体的事項ノ解決ハ後日ノ交渉ニ委ネ差当リ 従テ日本側ニ於テモ之ニ対シ同様ニ果敢ナル応酬ア

ン 8月20日前

本 8 月 20 H 後

七二四号(極秘、 館長符号)

Strictly Confidential

ヲ基礎ニ帝国不動ノ国策ヲ説キ之ニ関スル誤解ヲ正セルモ

方針ヲ近衛声明始メ平沼、

有田、松岡諸大臣ノ重要声

朔

ニシテ米提案中ニ包含セラルル点ニ対スル限リ大体充分

トメント」トシテ米側ニテ考慮シ得

ヘキモノ

キモ右ハ大体米側ノ意向方針ヲ尊重スルト同時ニ日本側

States. the Secretary on August 17th, 1941, to the Reference is made to the communication conveyed, of State and the President of the Japanese Ambassador by United

The Government of the United States mentions

certain circumstances and measures considered as inimical to a peaceful settlement in the Pacific area. In an atmosphere of world crisis and international confusion, it is difficult to ascertain whether an event is a cause or a consequence.

Japan as indicative of a continuing unfriendly pressure taken certain measures which could be interpreted in deprived of natural resources and opportunity in the specifications have been made by the press to indicate American-British policy forcasted the "encirclement" of Japan as the outcome of news and editorial comment in the United States has variance Accordingly, not unlike the press in Japan, much with the assistance of Russia, Japan would Asia region. Meanwhile, with our then current amicable in the Far the United States East. Elaborate had be

The Government of the United States considers that certain of its actions vis-a-vis Japan have been only

good convincingly eliminated from South America by themselves threatened by the United States. Yet, so long of peaceful procedures, might find it difficult to believe State, in their own unquestioning adherence to the ways President of the United States and the Secretary of words of policy are weighted with the immense power of United States has seemed, frequently, unaware that the admirable modesty of mind, the Government of the conceivable that both Governments are right. national sufficiency and protection of Japan. It is quite hazards, have been dictated by the Government of Japan considers that its own actions to American interests and principles. On the other hand, counter-measures to policies and procedures prejudicial America's natural endowment and potential might. The they lack that assuagement of possible threat other neighbour circumstancial and nationals, policy) considerations responsive anywhere, there political, affecting the will be (so to

geographically less well endowed and, by nature, poor in essential resources who will feel compelled to consider defensively their relations with the United States.

protection of its own equitable and necessary supply of certain measures of precautionary defence of Japan felt compelled by current conditions to take understanding with the United States, the Government such guarantees as are mentioned in the communication materials." Equally, it is not surprising that, lacking procurement by the United States of essential raw living commodities, should be interpreted, though never measures taken by the Government of Japan for the August 17th, and in default of not, therefore, surprising operated, "prejudicial ಬ that temporary consummated to the

Accordingly, the Government of Japan appreciates that, having indicated difficulties, the Government of the United States now encourages an exchange of basic policies and attitudes as the foundation of an

understanding that will condition lasting and extensive peace in the Pacific area.

For such peace, the Government of Japan is ready: for such a united effort toward "a peaceful settlement covering the entire Pacific situation," the Government of Japan would be proud to make sacrifices.

The Government of Japan, with lively appreciation, endorses as its own, without qualification, the cogent "program attainable by peaceful methods" as outlined in the communication of August 17th, 1941. The program is such as has long been desired and sought by Japan.

The Government of Japan desires, for itself and all others, the application in the entire Pacific area of the principle of equality of commercial opportunity and treatment. The Government of Japan desires to make possible for itself and all countries, access to raw materials and to all other essential commodities. The Government of Japan desires cooperation by all nations of the Pacific, on a voluntary and peaceful basis, for the

skill, and progressive economic leadership for the purpose of building up not only their own but also the economy of regions where the productive and distributive capacities can be improved; in such manner that for the nations and peoples concerned, purchasing power will be increased, living standard raised and conditions conducive to peace will be created.

economic one country, of political or military control to attain various nations, would preclude the extension, by with the consideration for the relative conditions of the believes that such a program if faithfully carried any nation so threatened. The Government of Japan cooperate with other nations in extending assistance to were menaced, the Government of thereafter, any of the countries or areas in the Pacific constructive principles, is adopted for the Pacific and if, such right ผ program, based upon of ಶ definitely monopolistic Japan would peaceful and out, any or.

preferential character. In those cases where the production and distribution of essential commodities are vested in monopolies, it is expected that the Government of the United States will use its great influence to see that all countries are given fair and guaranteed share of the distribution of the products of such monopolies; and at a fair price.

Moreover, the Government of Japan rejects any intention of territorial aggrandizement or exploitation of other peoples: it desires the orderly establishment of effective, responsible, independent sovereignty in a United China: it desires the political inviolability of all Pacific nations.

The Government of Japan does not desire, unless forced thereto by political or economic aggression, that the East Asian region should be cut away from a world economy of equitable and peaceful processes, but it does desire that the principle of non-discrimination should be operative and exercised by other nations, no less than by

action or alliance, were interpreted as aggressive. preferred to avoid. Some of these measures, whether take certain counter measures which they would have responsible for the welfare of the Japanese people, indignities and attack, motivated the Governments, discrimination, of boycott and barriers, conferences. But multiple events of world turmoil, of Nations national culture. Japan participated in the League international procedures, the cultural and ethical ideals Government of Japan has sought to express, peace and harmony which are for and both citizenry and cooperated in various part of commerce. disarmament of personal Japanese in its The of of to

The Government of Japan has no intention and no alliance and no policy of aggression. The Government of Japan conceives its people as members of the family of nations, each of whom ought to live, and let live, under the common bond of brotherhood and just tolerance.

We consider that the natural position and

circumstances of Japan and her people is not in comparable to that of Britain; and the deprivation of economic opportunity by boycott and discrimination are measured against which, not less than against military attack, the prescripts of national security and honor require resistance. It is this policy of resistance, extended to armed conflict, that has been interpreted by

that meeting. peace in the Pacific would be instituted with the date of confirm and give such sanction to our purposes responsible heads of our respective Governments would completed, conclusion of our informally negotiated, and almost United States and the Secretary of State by the rapid cordial, penetrating proposals of the President of the cooperation and desires sincerely But, the Government of Japan prefers a policy of understanding. The to respond meeting of the

It is with great good will that the Government of

historic friendship with the United States Japan anticipates the complete resumption of the

#### 厳秘

国大使ニ伝達セラレタル通牒ニ言及ス 一九四一年八月十七日 国務長官及合衆国 |大統領 = 依 ij H 本

認メラルル或種ノ状態及措置ヲ指摘セリ世界的危機及国 合衆国政府ハ太平洋地域ニ於ケル平和 ヤヲ確カムルコト困難ナリ || ノ雰囲気ノ中ニ於テハ或ル事件カ原因ナリヤ又 的解決二有害 チ 1) 25 結 際

従テ日 的圧迫ヲ意味スト日本ニ於テ解セラレ 米間ニ当時行 東亜地方ニ於テ天然資源及機会ヲ奪ハ 囲」ヲ予言シ来タレリ蘇連邦ノ援助ヲモ得テ如何ニ日本カ ニ於ケル英米共同 タリ合衆国政府ハ日本国ニ対スル其ノ行動 明細書カ新聞ニ依り作成セラレタリ其ノ間合衆国ハ日 本ノ新聞同様合衆国ノ新聞記事及 レ居タル友好的会談 ノ政策ノ結果トシテ日 ト抵触シ継続的 得ル或ル種ノ ルルヤヲ示ス為精密 本国 論説 ニニ対ス ノ多 或 2 , 措置ヲ 非友誼 ル ル **/**\ モノ 包包 極東

居ルコトヲ看過シ居ル様ニ思ハル合衆国大統領及国務長官 的障害ニ対応セントスル考慮ニ依り支配セラル メ日本国政府ノ採レ ハ必需資源ニ乏シキ国民中ニハ其ノ合衆国ト ヨリハ全ク何人モ首肯シ得ル程ニ除去セラレタリ)ナキ限 国民カ脅威ノ可能性ヲ緩和スルコト ルカ如キコト ノ文言カ米国ノ自然的条件及潜勢力ニ依り威力ヲ加ヘラレ リ賞讃スへキ謙譲ノ念ヨリ合衆国政府ハ屢々 ト思考ス両政府カ共ニ正当ナルコトモ全ク想像シ得ル 平和的手続ノ方法ニ対スル固キ執着心ヨリシテ世界ノ如 テ日本自身ノ生活必需品ノ公正且必要ナル ニ考慮スヘク余儀ナクセラル 地理的ニハ合衆国ニ比シ不利ナル条件ニ在リ又自然的ニ ナル所ニ於テモ他国民カ合衆国ニ依リ ル対抗措置ニ過キスト思考ス他方日本国政府ハ自己ノ行 米国ノ利益及原則ニ有害ナル カ日本国ノ国家的充足及防護ニ悪影響アル環境的及 ナク又実行セラレ ハ信シ難キモノトスルナルヘシ併シ乍ラ之等 タル ル一時的措置カ仮令意図 コト ナシト ト感シ居ルモ (日本ノ) 政策及手続ニ対 雖モ「合衆国ニ依 (善隣政策ニ依リ南米 脅威 ノ有ル 供給保全ノ **(**其 セラレタル ノ関係ヲ防御 セラルト感ス ル ハノ)政策 モノナリ ヘシ 所ナ ル コ 夕

何

テ日本国政府ハ現状ニ鑑ミ或種ノ予防的防衛措 如キ保障存セス且合衆国トノ完全ナル了解欠如シ居ル 足ラス同様ニ又八月十七日ノ通牒ニ於テ言明セラレ居ル 、余儀ナシト感シタルハ驚クニ足ラサル所ナリ ノ獲得ヲ妨クル モノナリ 」ト解セラル 置ヲ講 ル ハ驚 スルリカニ

ヲ慫慂セラルルコトヲ多トスル次第ナリ 解ノ基礎ト 平洋地域ニ於ケル永続的且広汎ナル平和ヲ条件ツクヘ 従テ日本国政府ハ合衆国政府カ困難ヲ指摘シタル上此度太 シテ基本的政策及態度(ニ関スル 意見) ノ交換 キア

政府ハ犠牲ヲ払フコトヲ誇トスヘシ 局ニ関スル平和的解決」ニ対スル共同ノ努力ノ 斯カル平和ノタメ日本国政府ハ用意アリ 即チ「太平洋 タメ H |本国 シー全

於テ経済的機会及待遇ノ平等ノ 日本国政府ハ強キ謝意ヲ以テ一九四一年八月十七日 1本国政府ハ自国及他ノ一切ノ国ノタメ太平洋ノ ij キニ亘り希望セラレ且追求セラレ来タレルモノ 内二略述セラレタルカ如キ肯綮ニ値スル 成シ得へキ綱領」ヲ何等ノ制限ナク日本国政府自身 シテ稟書スル次第ナリ斯カル綱領 原則ヲ適用ス 25 「平和的手段ニ ル 日本国ニ コトヲ希望 全地域ニ ナリ ラ通 依り 牒

> 為資本、 配能力ニ付改善ノ余地アル地域ノ経済ヲモ建設スル目的 物資へノ均霑ヲ可能ナラシムル キ諸条件カ創造セラルヘシ ノタメ購買力カ増加シ生活標準ハ 於ケル協力ヲ希望スルモノナリ斯クシテ関係各国民及民族 へキ資源活用ノ為之等諸国民ニ依ル自発的且平和的基礎ニ 太平洋ニ在ル一切ノ国民カ自国ノ経済ノミナラス生産及分 ス日本国政府ハ自国及他国ノタメニ原料品及他 技術的才能及進歩的ナル経済的指導力ノ利用シ得 コトヲ希望ス日 向上シ且平和ニ誘導ス 1本国政 ノー切  $\sim$ 1

域ノ何レカカ脅威セラル 平和的且建設的ナル原則ニ基ケル 配カ独占 於テハ何 民ノ相対的条件ヲ考慮ニ入レタル上忠実ニ実行セラル ハ脅威セラルル何レ ノ諸国民ト協力スヘシ日本国政府ハ斯カル綱領ニシテ諸国 性質ノ タメニ採択セラレ且右採択後太平洋内ノ諸国家若ハ諸地 拡張ヲ排除スヘシト信スルモノナリ必需物資ノ 経済的: V (複数) ノ一国ニ依 権利ヲ獲得スル為政治的若ハ軍事 ニ帰属シ居 ノ国民ニ対シテモ援助ヲ及ホ ルヲ問ハス確定的 ルカ如キコトアランカ日 ル カ如キ場合ニ於テ が斯カル 二独占的若 綱領ニシテ太平洋 的支配力 本国 ハ 生産及分 スタメ他 合衆国 25 優先 政府 ルニ

勢力ヲ行使スヘキコトヲ期待ス 政府ハ一切ノ国家カ斯ル独占的生産品ノ公正且保障セラレ ル分前ヲ公正ナル価格ニ於テ分配セラルル様其ノ大ナル

加フルニ日本国政府ハ領土的拡張若ハ他民族ノ搾取ニ対 国民ノ政治的不可侵ヲ希望ス タル支那国ニ於ケル効果的ニシテ責任アリ且独立セル主権 ル如何ナル意図ヲモ排撃スルモノナリ同政府 ノ秩序正シキ樹立ヲ希望ス又同政府ハ太平洋ニ在ル一切ノ ハ統一セラレ ス

日本国民ノ福祉ニ付責任ヲ負ヘル歴代政府ヲシテ之等政府 会議ニ協力シタルコトアリ然レ共世界的混乱、 キコトヲ企図シ来レリ日本国ハ国際連盟ニ加入シ且軍縮諸 為実施セラレ且日本国ハ勿論他ノ諸国民ニ依リ実行セラル 離セラルヘキコト 限リ東亜ノ地域カ公正且平和的手続ニ依ル世界経済ヨリ分 ノ要素ヲ成セル平和及調和ノ文化的倫理的理想ヲ表現スヘ ヘキヲ希望ス日本国政府ハ国際的手続ニ依り其ノ国民文化 日本国政府ハ政治的若ハ経済的侵略ニ依り強要セラレサ ニ於テ寧ロ避クル 「ボイコット」及妨害、 ・ヲ希望セス無差別ノ原則カ人民及通商ノ コトヲ希望セル或種ノ対抗措置ヲ採ラシ 個人的侮辱及侵害ノ巨多ノ事件 差別待遇、 六 ル

> ス侵略的ナリト解セラレタリ メタリ之等措置ノ或ルモノハ行動タル ト同盟タ ĺ トヲ ノヽ

武力的紛争ニ迄拡大セルモノナリ 者ニ依リ侵略的ト解セラレ来タレルモノハ右抵抗ノ政 安全及名誉ノ命スルトコロ抵抗ヲ必要トスル措置ナリ或ル 的機会ノ剝奪ハ軍事的攻撃ニ対抗スル場合ニ劣ラス国家ノ 自然的地位及環境並ニ其ノ国民ハ英国ノ夫レニ比較シ得サ ナル共通ノ連繋ノ下ニ自ラ生キ且他ヲ生カシムヘキ諸国民 ルニ非スト思考ス且「ボイコット」及差別待遇ニ依ル経済 ヨリ成ル一宇ノ構成員ナリト看做シ居レリ吾人ハ日本国ノ ス日本国政府ハ其ノ国民ヲ以テ四海同胞及正義ニ基ク寛容 日本国政府ハ侵略的意図、 侵略的同盟及侵略的 政 策ヲ有 分策力

平和カ開始セラル 国政府間ニ非公式ニ商議セラレ且殆ト完了セント 然シ乍ラ日本国政府ハ協調政策ヲ選フモノニシテ且合衆国 会中ナルモ一応ノ推測トシテ)右会見ノ日ト共ニ太平洋ノ 両国政府 案ノ速カナル妥結ニ依リ誠意ヲ以テ応ヘンコトヲ欲ス日米 大統領及国務長官ノ友好的且洞察力アル提案ニ対シテハ両 ノ責任アル首脳部ノ会見ハ(以下二行電文崩 ヘシトノ吾人ノ意図ヲ確認スル -スル了解 コト レ

期待ス 日本国政府カ合衆国ト ヘシ ル ハ大イニ欣快トスル所ナリ ノ歴史的友好関係ノ完全ナル復活ヲ

昭 和 16 年8月21 日 豊在 苗米国 務野 大臣宛 (電報)

157

### 日米首脳会談 き意見具由 に関する我が方回答案の修正に

ワシン ン 8月21日後発 前 着

8月 22 日

第七二五号(至急、

極秘、

館長符号)

後部第十八章 簡潔ニシテ議論メキタル点ヲ省クコト適当ナルヘク往電第 待シ居ルヤノ話モアリ就テハ日本側回答モ成ルヘク慇懃且 半部ハ大統領自ラ起草セルモノナリトモ言ハレ又之ニ対ス 国交調整交渉再開ニ乗出ス意向ラシク往電第七〇八号ノ後 往電第七二二号筋ノ情報ニ依レハ愈々大統領自身今回日 七二四号中第三章 encirclement 事項ノ如キハ全部省略シ ル日本側回答モ場合ニ依リ本使ヨリ直接手交セラルヘク期 of discrimination of boycott and barriers 米

> ニ於ケル安全保障ノ点ニ付大ナル関心ヲ有スル点指摘シ 所修辞上ノ考慮ヲ払フヘキ必要アルヘク又我方トシテ極 circumstances in the recent pact ニ変更スル等其ノ他諸 ク要アルヤニ認メラル personal integrities and attack 等ノ話ハ単ニ 東

158 昭 和 16 年8月23日 豊田外務: 大臣宛 (電報)

## 日米首脳会談および援ソ物資輸送などに関す 米国国務長官との会談について

ワシント ン 8 月 23 日 前

省 8 月 24 H 前 着

統領ト自分ハ意見一致シ大統領ハ進行ヲ命シアソ シカ之ヲ今日ノ現状ニ適スル様修正ノ要アリ ヲ抑へ得ルヤトノ疑問ヲ洩ラシ且日米非公式会談ニ関シ大 会談ノ為ニ為サレタル尽力ヲ深謝シ東京ヨリハ近日訓令ア 今土曜日午前国務長官往訪去ル日曜日「ホワイ 第七三五号(至急、 ヘク期待スル旨申シタル処日本政府ハ国内ノ膨張主義者 極秘、 館長符号) 申シ内外 ト・ハウス /コ迄来り

#### 日米首脳会談の申入れ

日

科会談ノコトハ返事ナク後者ニ付テハ笑ヒ乍ラ今朝ト同シ 莫斯科会談及援「ソ」物資輸送ノ差控方ニ言及セシ処莫斯 目ニ実現ノ心構ヲ以テ措置中ナルコトヲ申出テ御訓令通リ

「ソ」中立条約ヲ指摘シタリ尚長官ハ御申出ノ件

: : : : : : :

曜週末旅行出発前日本ヨリ

回答着セルヤ否ヤニ付テ尋

ネタ

向ト見ラ

ル

統領ニ報告スヘシト申シタリ情報ニ依レハ大統領ハ去ル木

関シ日本政府ハ出来得ル限リ速ニ回答ヲ又首脳部会見ヲ早今土曜午後五時再度「ハル」長官ト会見貴電第四九五号ニ

土曜午後五時再度「ハル」長官ト会見貴電第四九

第七三九号 (極秘、

館長符号)

本

8 8

月 24 日 月23日後発

後

着

ワシント

ン

ヲシテアノ構想ニ同意セシムル長官ノ苦心ヲ言フヲ以テ本 ハ日本側ニ於テモ同様ナリ責任者カ太平洋平和ノ為ニ健

シタリ 闘スル為ニハ生命ノ犠牲ヲ覚悟スルヲ要スル次第ナリト申

側ニモ注意シアリト申セシ処コレニハ傾聴シ尚本使ヨリ話 スルハ我国民感情ヲ刺激スル旨申セシ処日「ソ」間 次ニ浦潮向飛行機ノ輸送及軍需品用船舶カ日本近海ヲ通渦 ノ間ニ満州増兵ノ意味ヲ説明シオキタリ尚油ノ資金解除ニ ニ言及シ「ノンコミタル」ノ返事ヲ為スヲ以テ此ノ事ハ「ソ」 アノ条約

度ト照応シテ決定セラルル次第ナリトテ日英間ノ話ノ進行 言及シタル処長官ハ之ハ大蔵省ノ管掌ニシテ英国辺リノ態

振ヲ尋ヌル所アリタリ

追テ本使帰還後貴電第四九五号(英米「ソ」会談及援「ソ」 長官ニ会見右申入ノ筈 物資輸送ト日米会談ノ件) 拝受セルニ付午後五時「ハル」

159 和16 年8月 23 H 在豐 任米国野村大使宛豊田外務大臣より (電報)

## 日米首脳会談に関する野村大使による我が方

## 回答案中の語句につき照会

8月23日前11 時20分発

250

第四九一号(大至急、館長符号)

of that meeting 迄御取調ノ上再電アリタシ head of our respective Government 以下 貴電第七二四号ノ七末段 The meeting of the responsible with the date

昭和16年8月23日 在豊 米田 野村大 使宛り

160

### モスコー を米国側へ申入れ方訓令 会談の風評に鑑み日米首脳会談促進

機械、 極秘) 省 23 日 1後7 時

アリ右会談後日米首脳者会見ヲ行フトキハ恰モ対日包囲ノ 国内ニ於ケル米ヲ指導者トスル対日包囲説ヲ愈々煽リツツ 新聞報ニヨレハ九月上旬「モスコー」ニ於テ英米蘇会談行 リ就テハ十七日米通報ニハ出来得ル限リ速カニ回答ヲ又首 既成事実ノ前ニ屈シテノ結果ナリトノ印象ヲ与フルノ惧ア 第四九五号(館長符号、 ハルル由ナルカ右記事ハ援蘇物資輸送ノ報道ト相俟ツテ我

右我方ノ懸念ニ付至急米側ノ考慮ヲ促スト共ニ往電第四八服剖会長モ巪目ニ実現ノ心構ヘヲ以テ折角措置中ナルニ付 ケラル ル趣ニシテ本件ニ関シテハ大統領カー番熱意ヲ持ツ様見受

161

和16年8月23日

豊田外務

7大臣宛(電報)1対大使より

日米首脳会談お

よびモスコー

会談などに関す

米国国務長官との会談について

七号末段ノ趣旨ニ付テモ米側ノ注意ヲ喚起シ置カレ

度シ

162

昭

和16年8月25日

豊在 田米国

務大臣宛

(電報)

日米関係に関する い τ 英国首相のラジオ放送に

ワシン ン 8月25日後

8月26日前 着

英国首相ノ「ラヂオ」放送ニ依リ日米関係ニ対スル各方面 第七四〇号 ノ注意一層高マリ今後両国国交調整妨害ノ各種策動米国ニ (至急、 極秘、 館長符号)

動モアル趣ナリ 大統領ハ英ハ極東ノ紛糾ヲ望マスト云フモ既電ノ通英国人 於テハ素ヨリ第三国ヨリモ盛ニ起ルヘク我方トシテモ最大 中二ハ米ヲシテ日本 ノ注意ヲ要シ国交調整ハ迅速ナルヲ必要ト感ス 又英米ハ飽ク迄独逸トノ講和ヲ排撃スル 卜戦 ハシメ欧州戦ニ惹キ入ル ル 意 策

251

## 昭和16年8月26日 産米国野村大使宛

(電報)

163

## 我が方回答米国側へ提示方訓令近衛メッセージおよび武力進出警告に対する

近衛メッセージ

大使宛第五〇三号 八月二六日付豊田外務大臣より在米国野村

武力進出警告に対する我が方回答

て見る言う日子八月二六日付豊田外務大臣より在米国野村

=

我が方回答提出に際しての心構えについて大使宛第五〇四号

本 省 8月26日後9時発

第五〇一号(館長符号)

貴電第七○七号及第七○八号ニ関シ

ジ」ト共ニ別電第五〇三号帝国政府回答(右ニ関シテハ別ヨリ特ニ別電第五〇二号ノ総理ヨリ大統領へノ「メッセー今回ハ事柄ノ重大ナルニ鑑ミ又本会談ニ対スル総理ノ熱意情質等(()号:『『

長官ニ夫々申入レラレ度シ電第五〇四号参照ノコト)ヲ電報ス速カニ米大統領及国務

### (別 電一)

本 省 8月26日後9時8

第五〇二号(館長符号)

別に同感ノ意ヲ表セラレタルハ本大臣ノ深ク多トスル所ナゼ日野村大使ニ手交セラレタル文書ニ依り貴大統領カ右着貴大統領ト本大臣トノ会見ニ関スル当方提案ニ対シ八月十

・スルニ外ナラス・スルニ外ナラス之ヲ契機トシテ世界平和ノ招来ニ資センキリ我方カ太平洋ノ平和維持ヲ顧念スルハ単ニ日米国交改幸ナルコトタルノミナラス世界文明ノ没落ヲ意味スルモノサリ我方カ太平洋ノ平和維持ヲ顧念スルハ単ニ日米国交改・リスルニ外ナラス

ネタルト第三国ノ謀略策動ニ由ルモノト考へラル先ツ斯ルトシテ両国政府間ニ意思ノ疎通ヲ欠キ相互ニ疑惑誤解ヲ重惟フニ日米両国間ノ関係カ今日ノ如ク悪化シタル原因ハ主

披瀝セントスル所以ナリ是レ本大臣カ直接貴大統領ト会見シテ率直ニ双方ノ見解ヲ原因ヲ除去スルニ非サレハ両国国交ノ調整ハ到底期シ難シ

トカ喫緊ノ必要事ニシテ細目ノ如キハ首脳者会談後必要ニの大所高所ヨリ日米両国間ニ存在スル太平洋全般ニ亘ルエク大所高所ヨリ日米両国間ニ存在スル太平洋全般ニ亘ル重会見シテ(必スシモ)従来ノ事務的商議ニ拘泥スルコトナ会見シテ(必スシモ)従来ノ事務的商議ニ拘泥スルコトナ会見シテ(必スシモ)従来ノ事務的商議ニ拘泥スルコトナ会見シテ(必スシモ)従来ノ事務的商議ニ拘泥スルコトナ会別が高所ヨリ日米両国間ニ存在スル太平洋全般ニョル重要問題ヲ討議シ時局救済ノ可能性アリヤ否ヤヲ検討スルコトナ会別を対している。

ヲ希望シ会見ノ場所トシテハ諸般ノ考慮上布哇付近ヲ適当叙上ノ次第ナルヲ以テ当方ハ会見ノ期一日モ速カナルコトヲ切望ス

ト思考スル次第ナリ

本大臣カ今次提議ヲナセル趣旨爰ニ存ス貴大統領ニ於テモ

応シ事務当局ニ交渉セシメテ可ナリ

り野村大使宛電報第五〇六号(省略)で挿入編 注 ( )部分は、後に八月二七日付豊田外務大臣よ

### (別電二

本 省 8月26日後10時30分発

第五〇三号(館長符号)

タル通報ヲ受領シ右ニ対シ其ノ見解ヲ陣述スルコト左ノ如帝国政府ハ一九四一年八月十七日在米日本国大使ニ為サレ

提示セラレタルヨリモ更ニ明瞭ナル「ステー ルト共ニ此ノ際日本国政府現在ノ態度及計画ニ関シ従来 洋ニ関スル平和的「プログラム」ニ乗出スコトヲ期待ス 合衆国カ遵奉シ居ル「プログラム」及原則ニ従ヒテ太平 政府カ其ノ膨張主義的活動ヲ停止シ其ノ立場ヲ調整シ且 ヲ此ノ上続行スル基礎ヲ失ヒタルモノナリト断シ日 置ニ関シ太平洋地域ニ於ケル平和的解決ニ関連スル 武力的威嚇ニ依ル軍事的支配ノ政策又 ノ提示ヲ希望シ同時ニ日本国政府カ隣接諸国ヲ武力又ハ 合衆国政府ハ日本国ノ仏領印度支那ニ対スル行動 25 「プログラム」 トメント」 本国 会談 及
措

遂行ノ為メ更ニ何等カノ措置ヲ執ルニ於テハ直ニ合衆国 行動及措置ニ関シ屢次ノ説明ニモ拘ラス今尚誤解ト危惧 政府ノ必要ト認ムル一切ノ手段ヲ執ルヘキ旨ヲ確言セ 於テ或ル事件カ原因ナリヤ又ハ結果ナリヤヲ確カムルコ 府ハ現在ノ如ク世界的危機及国際的混乱 ナリト認メラルル或種ノ状態及措置ヲ指摘セル処帝国政 サル次第ナリ抑モ合衆国政府ハ自己ノ誓約セル原則信念 平和ニ害アルヘキカヲ指摘セサルヲ得ス ニノミヨリ之ヲ決スルコトカ危険ニシテ且如何ニ恒久的 ノ念ヲ懐キ居ラルルコトニ付深ク遺憾ノ念ヲ禁ス ノミヲ基調トシテ太平洋地域ニ於ケル平和的解決ニ有害 帝国政府ハ合衆国政府カ日本国従来ノ誓約並ニ対外 ハ極メテ困難ニシテ而モ之カ判断ニ付一方的既 ノ雰囲気 成事実 ペノ中ニ ル 能 的 ij 1

ヲ批判スル前ニ先ツ其ノ原因ヲ究明是正スルコトコソ恒リト謂ハサルヲ得ス従テ右対応的措置及防衛的手段ノミ得サルコトナルノミナラス平和維持上正ニ当然ノコトナか他ヨリ脅威ヲ与ヘラルルカ如キ場合ニ其ノ国カ之ニ対カ他ヨリ自然的平和的発展カ阻害セラレ又ハ其ノ生存条件一国ノ自然的平和的発展カ阻害セラレ又ハ其ノ生存条件

遠キ過去ノコトハ暫ク之ヲ措テ論セス之ヲ最近ノ事例 思考ス 徴スルモ合衆国ノ新聞記事及論説ノ多クハ極東ニ於 則ニ有害ナル日本ノ政策及手続ニ対スル対抗措置ニ過キ テタリ合衆国政府ハ右行動ノ或ルモノハ米国ノ利益及原 然資源ノ獲得及機会ヲ奪ハルルヤヲ示ス幾多ノ措置ニ出 的非友誼的圧迫ヲ意味シ且日本カ東亜ニ於テ必要ナル天 衆国ハ日米間ニ当時行ハレタル友好的会談ト抵触シ継続 シ更ニ英米蘭蔣ノ対日圧迫陣ノ形成ヲ暗示セリ其ノ 英米共同ノ政策ノ結果トシテ日本国ニ対スル脅威ヲ予言 ニ対応セントスル 国家的必要ノ充足及防護ニ悪影響アル環境的政治的障害 スト思考スルモ他方日本国政府ハ自己ノ行動カ日本国 考慮ニ依り支配セラレ タル モノ 間合 ケ 1 ル =

ノ中ニモ合衆国ノ既成ノ事実、自然的条件及潜勢力ニ依ニ合衆国政府カ自ラ以テ平和的手段ナリト思考セルモノトナルモノナルコトヲ忘ルヘカラス従来ノ事例ニ徴スル見ルトキハ全ク反対ノ感ヲ懐クノ結果トナリ又紛乱ノ因如此或ル一国政府カ正当ナリト信スルコトモ相手方ヨリ如此或ル一国政府カ正当ナリト信スルコトモ相手方ヨリ

ルニ非スヤト思考セラルリ相手国ニ威力ヲ加ヘラレ居ルコトヲ合衆国ハ看過シ居

ニ在ル 衆国ニ依り脅威セラルト感スルカ如キコトハ信シ難キコ キ執着心ヨリシテ世界ノ如何ナル所ニ於テモ他国民 合衆国大統領及国務長官ハ平和的手続ノ方法ニ対 トヲ深ク念記スヘキナリ 防御的ニ考慮スルコトヲ余儀ナクセラルル サル限り各種ノ条件ニ於テ合衆国ニ比シ不利ナル地位 トスルモノナルヘキモ之等無言ノ脅威ノ調整緩和 (特ニ資源ニ乏シキ) 国民ハ其ノ合衆国ト Ŧ シナ ノ関係 ス ルコ セラ カ合 ル

ト幸福ヲ獲得シ得ルモノナリト信スナルヘキ立場及条件ヲ真ニ理解スルコトニノミヨリ平和何事モ相手方ノ個々ノ行動ヲ批判スルヨリモ其ノ原因ト

コトヲ多トスルモノナリ基本的政策及態度ニ関スル意見ノ交換ヲ慫慂セラレタルル永続的広汎ナル平和ヲ条件付クヘキ了解ノ基礎トシテ従テ日本国政府ハ合衆国政府カ此ノ度太平洋地域ニ於ケ

ノ生存条件脅威ニ端ヲ発シタル支那事変解決促進ノ為メニ、帝国政府ノ仏印共同防衛措置ハ屢次闡明セル通リ帝国

出ノ予備的行為タラシムルモノニ非ストノ屢次声明ヲ玆 次ノ仏印共同防衛措置ニ依り近接地域ニ対スル り尚帝国政府ハ可能ナル一切ノ疑惑ヲ除去スル 仏領印度支那ヨリ撤収スル用意アルコト御承知 ルカ又ハ公正ナル極東平和ノ確立スルニ於テハ直ニ兵ヲ 性質ノモノニ非ス故ニ帝国政府ハ支那事変ニシテ解決ス サルニ出テタル措置ニシテ之ニ依り他ニ脅威ヲ与フヘキ シ我必需物質ノ公平ナル獲得ノ為メ自衛上真ニ已ムヲ得 又太平洋平和攪乱ノ因タル諸脅威ニ対応シテ平和ヲ維持 「タイ」国ニ対スル意向モ自ラ明カナルヲ信 二改メテ確言スルト共ニ前記ノ所言ニ依リ帝国 武力的進 カ為メ今 ノ通り 政 ナ

避ケラルル様要望二堪へス選守シ且日満二対シ脅威ヲ与フル等同条約ノ精神ニ反スルカ如キ行動無キ限リ進ンテ武力的行動ニ出ツルコトナートリを関ニがテ荀モ米蘇共同シテ我国ニ脅威ヲ加フルモノートリトノ危惧ノ念ヲ抱カシムルカ如キコトハ絶対ニ之ヲを国側ニ於テ荀モ米蘇共同シテ我国ニ脅威ヲ加フルモノールの対象を受ける。

254

久平和確立ノ最大要因ナリト認

意向無シ

要之帝国政府ハ隣接諸国ニ対シ進テ武力行使ノ

四 何等カノ提案若クハ合衆国カ従来遵奉シ来レル原則ニ適 会商ノ基礎発見ヲ目的トスル日本国政府及合衆国政府間 合スルモノヲ除キ考量セラレサルコトヲ明白ニセル処右 カ右ニ付テハ日本国政府モ亦見解ヲ一ニス又合衆国政府 ログラム」ノ立案ヲ予見スルモノナル旨ヲ述ヘラレタル ハ日本国政府ノ抱懐スル根本的国是ニ付テモ同様タル ハ合衆国若クハ日本国ノ何レカノ権利及特権ニ関連セル ノ非公式討議ハ当然平和的手段ニ依り達成シ得へキ 合衆国政府ハ太平洋全局ニ付テノ平和的解決ニ関スル デ Ŧ

ノトス

実施ノ為ニハ地理的ニモ資源的ニモ其ノ他軍事的、 カ之カ配分及協力ニ付極メテ衡平ナル態度ニ出 的、経済的ニ他国ヨリ優レ若クハ有利ナル条件ニ在ル国 タル太平洋地域ニモ適用セラルヘキモノナルコト並ニ右 シ右ハ全世界ニ適用セラルヘキモノニシテ従テ其 係ニ於テ相互ニ充足調整セラルル 帝国政府ハ合衆国政府カ非公式討議ニ於テ予見セラル 及一国ノ存立上必須ノ要求ハ先ツ其ノ隣接地域トノ関 「プログラム」トシテ縷述セラレタル原則及希望ニ関 コト必然的且当然 Hツヘキコ アノ一部 政治 ノコ

> スルモノナリ トニシテ且平和確立促進上緊要ノコトナリトノ見解ヲ有

カニ行ハ ラル 府カ衡平ノ立場ニ於テ建設的ニ将来ノ問題ヲ協議 プロケート」セラレ国際関係ノ現状ニ鑑ミ本件会見ノ速 カ世界平和建設ノ大局的見地ヨリ右日本側要望ニ「レシ ツアリトノ印象ヲ与フルカ如キ措置ハ速カニ之ヲ緩和セ モ時宜ニ適スト確信ス而シテ右会見カ極メテ有効的 ト最モ緊要ナリ此ノ見地ヨリ両国首脳者ノ直接会見ヲ最 スル処太平洋地域ニ於ケル平和維持ノ為ニハ日米両国政 前記所述ニ依り帝国政府ノ意向明ラカトナ ル ルコト最モ望マシト思考ス日本国政府ハ合衆国政府 ルカ為ニハ日本政府カ合衆国政府ヨリ圧迫ヲ受ケツ ハルヘキコト ニ賛同セラルル コトヲ確信スル次第 i 1) スル ト思考 二行 コ

#### 別 電三

省 8月 26日後7時 30 分発

往電第五〇三号ニ関シ

第五〇四号 (館長符号)

セラレ 説得セラル ミヲ嘱シ得ル状況ニ達セリ右趣旨ニテ大統領及国務長官ヲ 国内情勢共ニ極度ニ緊迫シ総理ト大統領ノ会見ニ最後ノ望 得ルヤ否ヤハ自ラ別個ノ問題タリ得へキモ今ヤ国際情勢 ル最大限度ヲ示セルモノナルモ之ニヨリ米側ヲ納得セシ ハ七月二十四日米大統領提案ニ対シ我方国内情勢上達シ ストノ当方見解ヲ含ミ置カレ度シ ルト共ニ右会談ハ必スシモ厳格ニ冒頭電ニ拘束

#### 米国国務長官へ近衛 豊在 |田外務大臣宛(電報) |米国野村大使より メ 'n セー ジおよび我が方

165

昭和16年8月28

H

在米国野村大使宛豊田外務大臣より

(電報

164

和16

年8月27日

### 回答提示につい τ

ワ シ ン ン 8月27日後発

省 8月28日前着

七四八号(極秘、 館長符号)

貴電第五〇一号ニ関シ

答)要点ヲ 今二十 「メッセージ」写ヲ手交シ貴電第五○三号(帝国政府回 七日水曜正午国務長官ヲ往訪御訓令ノ 口述(英文未夕完成シアラサルヲ以テ) 趣旨ヲ体シ首 上本

---

キタリ 又東京ニ於ケル新聞論評等ニ徴シ積極膨張論者カ勝ヲ制ス 会談ノ間「チァーチル」演説カ有害ナリシ旨申セシ処長官 シタル処今日ハ難カシク明朝返事スへキ旨答へタリ 会見ノ重要意義ヲ強ク申述へ本使大統領ニ直接会見方依頼 ル」ノ雄弁ヲ云々シ記者ノ詳細ナル質問ニ応セサリシコト) ハ自分ノ新聞記者ニ対スルノ応酬ニ言及シタリ(「チァ ルカ如キ懸念ヲ云々シタルヲ以テ適当ニ応酬啓蒙ニ努メ置 チ

## 我が方回答中注意を要する点につき説明

8月28日後8 時

第五〇九号(外機密、 館長符号)

往電第五〇三号ニ関シ

メ冒頭往電内容順ニ左ノ通り番号ヲ記入セラレ 今後本件ニ関スル電信往復等ノ場合ニ於ケ IV 、便宜ノ為 タシ

 $(\Box)$ (-)(合衆国政府以下先方文書ノ内容ヲ繰返シタル項) (帝国政府ハ合衆国政府カ日本国従来ノ誓約以下)

166

## (三) (帝国政府ノ仏印共同防衛措置以下)

- ル会商ノ基礎以下) (合衆国政府ハ太平洋全局ニ付テノ平和的解決ニ関ス
- 田(帝国政府ハ合衆国政府カ非公式討議ニ於テ予見セラ ル「プログラム」以下)
- (対 (前記所述ニ依ル以下)
- 左ノ通り 冒頭往電ニ関シ特ニ注意ヲ要スル点ノ説明貴官御含迄
- ○一本電当方ノ見解ハ米側カ極メテ率直ニ其ノ意見ヲ開陳 ラ妥協点ヲ見出スコト必要ニシテ之カ為ニハ両首脳者 其ノ所見ヲ明カニシタル上互譲ノ精神ニ依り其ノ間自 端的ニ所見ヲ披瀝セルモノナルカ我方トシテハ相互ニ シテ我方カ之ニ対応センコトヲ希望セルニ依り極メテ ノ会見ヲ最モ効果的ナリト思考シ居レリ

援蔣「ルート」ノ閉鎖等ニ依り蔣政権カ完全ニ地方政「公正ナル極東平和ノ確立スルニ於テハ」トハ例へハ 権ニ墜シ日支関係カ大体ニ於テ事実上平常化シ其ノ他 ノ物資獲得カ公平且円滑ニ行ハルルカ如キ事

> 要スルニ先方トノ開談ノ間ロヲ出来ル丈ケ裕リアル(マトン) ノトセントノ趣旨ニ出テタルモノナリ ヲ見サル場合ニ於テモ撤兵ヲ考慮シ得ヘシトノ意ニテ 態ニ立到レル場合ニハ必スシモ支那事変ノ全面的解決 モ

### 三五号ニ付

- (イ) 「右ハ全世界ニ適用セラルヘキモノニシテ云 ラシメントノ考慮二出テタルモノナリ ナル惧アルヲ以テ広ク全世界ニ適用セラルル原則タ ヲ受ケス結局日本ニトリテハ極メテ偏務的ノモノト モ拘ハラス米国ハ其ノ隣接地域等ニ於テ何等ノ制約 適用セラルルコトトモナラハ我方ハ新秩序ヲ建設セ ントスル東亜共栄圏内ニ於テハ種々拘束ヲ受クルニ ハ先方提示 ノ原則及希望カ単ニ太平洋地域内ノミニ
- 回「他国ヨリ優レ若クハ有利ナル条件ニ在ル国カ之カ 待遇ノ平等原則ニ関シ有利ナル地位ニ在ル国ノ他国 配分及協力ニ付云々」トハ先方提示ノ経済的機会及 並ニ指導力ヲ利用スル協力ヲ為スコト 以即チ我方カ東亜共栄圏内ニ於テ平和裡ニ経済的指 ニ対スル物資配分ニ付衡平ナル措置ニ出ツヘキコト ノ当然ナル所

モノナリ 導ノ地位ニ立ツコトノ自然ノ理ナルコトヲ暗示 セ

立上ノ要求ヲ充足スル」ノ点ハ先方ノ所謂脅威防衛 「其ノ隣接地域トノ関係ニ於テ相互ニ云々」ト ル次第ナリ ヲ取入レ支那ニ於ケル共同防衛ノ点モ考慮ニ入レタ モ相通スルモノナルコトヲ意味スルモノナリ尚「存 ノニ非サルコトヲ示シ且米国ノ「モンロー 尊重スルコトハ米国ノ所謂優越的地位ヲ獲得スルモ ヲ明カニスルト共ニ隣接地域互ニ其ノ固有ノ特質ヲ ル平和招来ニ乗出シ居ルコトノ必然的且当然ナル旨 方カ共栄圏建設ニ付満支中核主義即チ善隣主義ニ依 -」主義ト ・ハ我

ナラサル為ノ用意ニ出テタルモノナリ 建設ノ方法手段ニ付将来話合ニ於テ動キノトレヌ様ニ 要スルニイイ印イソ共我方ノ従来誓約シ来レル東亜共栄圏

和 16 年8月 28 日 豊田外務 大臣宛 (電報)

近衛メッセ ジ手交の際の大統領談話について

> ワシントン 8月28日後

8月29日前

往電第七四八号ニ関シ 第七五二号(大至急、 極秘、 館長符号)

ヲ手交シタル処大統領ハ「メッセージ」ヲ読ミ非常ニ立派 令ノ趣旨ヲ述ヘテ「メッセージ」及貴電第五〇三号ノ英文 今二十八日午前十一時大統領卜会見 (国務長官同席)

様ニ見エタリ 第五〇三号中原因結果ノ差別困難ナル点ヲ読ミツ ナルモノナリト大ニ賞賛シタリ キコトナキヤト極メテ軽ク皮肉ヲ言ヒタルモ先ツ満足ノ模 ト大使ト会談中仏印進駐アリシカ如ク泰国進駐ヲ見ルカ如 ルカ如ク笑ヒ仏印ニ対シテハ近衛公ト会談中恰モ「ハル」 ,ツ首肯ス

ヨリ時艱ヲ救ハントスルニ共鳴シアリタリ 会談ニ付テハ近衛公ト三日間位ノ会談ヲ希望シ我方カ之ニ

ヲ憲法上十一日以内ニ裁可スルヲ要シ而シテ副大統領モ之ーハワイ」ニ関シテハ大統領ハ続々議会ヲ通過スル諸法案 ヲ代摂スルヲ得ス

点日本政府カ臨時首相代理ヲ置キ得ルト異ル旨ヲモ指

#### 三 日米首脳会談の申入れ

模様ニ付善後策ハ目下考究中ナルモ不取敢

本

1

ッセー

ジ

)

内容漏洩

ハ厳ニ防

止

セラ

L

度

ル旨語レ 摘シテ「ジュノウ」ナラハ「シアトル 談ハ今年二月頃申出アリタルモ「バルカン」戦争ノ為メ延 会ヲ希望セル処大統領ハ早クスルコトニハ異存ナキ様子ナ 十日従テ十四日ヲ以テ目的ヲ達シ得ヘク「ハワイ」トナラ リシモ期日ニ付テハ即答ヲ与ヘス尚 進スへキ旨約セリ又時期ニ付テハ本使ヨリ成ルヘク早キ機 ハ会合ニ在り場所ハ第二次的ナルヲ以テ事情詳細東京ニ申 ハ三週間ナルヲ以テ不可能ナル様申スヲ以テ本使ヨリ目的 ジタリト云ヒ矢張り議会ノ同意ヲ得テ実行シタル 「チャーチル」ト 」迄三日後二日往復 モ ノ会

以上ノ 如ク此ノ 話 25 尚 院行ス ル 筈ナリ

和16年8 月 28 Н 豊田外務 大臣宛 (電報)

167

近衛メ 官との申合せにつ ッ セ ージの発表方法につき米国国務長 て

ワシン ン 8 月 28 日 29 日 1前着 後発

七五三号(大至急、 極秘、 館長符号) 8 并

> 発表シ内容ニハ触レサル 相ノ大統領宛「メッセー 発表セル関係モアリ会談後「ハル」長官ト協議 本会見ニ付テハ其ノ予定時間ヲ ジ」ヲ伝達セルモ コトニ申合セタリ 「ホワイト ナル旨簡単 ハウス」ニテ 上近衛首

往電第七五二号ニ関シ

昭 和16年8月28日 豊在 田米 外国 務野 大臣宛

168

近衛メ ッ セ ジに関する米国紙記者の談話

省 ン 8 月 29 月 28 日後 日 後 着

8

つい τ

第七五四号(極秘、 館長符号)

往電第七五三号ニ関シ

聞キタルヲ以テ内容ニハ絶対ニ触レ得サル旨回答セル処其 紐育「ヘラルド・トリビュン」紙 午後寺崎ヲ来訪シ首相ノ大統領宛「メッセージ」 ノ際「フ」ハ近衛首相ハ「ハワイ」ニ於テ「ルーズベルト」 会見シ度キ意向ヲ有スル旨二、 「フライシァ」二十八 三日前大統領ト ノ内容ヲ H

際大統領ノ口裏 ヨリ 読ミ取り タリ 述 へ居タル

当野村大使な

169

昭

和16年8

Ă

29 日

在豐 米田

宛り

(電報)

セ ジの取扱い 振りにつき注意喚起

8 月 29 日 後6 時 45 分発

第五一〇号(大至急、 館長符号)

セージ」ニ言及セラレタル趣ナルカ今後ハ当方ト連絡ナク セリ)貴大使ハ新聞記者トノ会見ニ於テ近衛総理ノ「メッ 貴地発同盟其他各社電ニ依レハ(当方ニテハ之ヲ不発表ト 至ルハ貴大使ニ於テモ充分御推知ノ筈ナルヘキ処二十八日 絶対之ヲ避クル要アリ然ラスムハ出来ル 窺知セシムルカ如キコトハ極メテ機微ナ 屢次ノ電報ニテ申進ノ通リ両首脳者会談 「ニュ カルコト絶対ニナキ様注意アリタシ尚不発表ト ス」ノ経路ニ鑑ミ既ニ相当範囲ニ亘リ コトモ出来サ ル国内情勢ニ鑑ミ ノ件ハ確定前 知 -ハ致セル レ ルニ 之ヲ

(欄外記入)

170 昭和16年8月29日 豊田外務大臣宛(電報)在米国野村大使より

#### 日米首脳会談 との会談につ の議 い て 題等に関する米国国務長官

ン 8 月29日後

省 8 月 30 H 前 着

第七五六号(極秘、 館長符号)

往電第七五二号ニ関シ

要点左ノ通りナリ 昨二十八日夜「ハル」ト議題其他ニ付テ会談 タル 処其

а アラハ真ニ最モ憂慮スヘキ結果ヲ来スヲ以テ予メ 願ヒ度シ) スル形式ト致シ度シ(此ノ点往電第七〇三号後段御参照 決定(「ハル」 ヲ纏メ置キタル上愈々両者ノ会見トナラハ之ヲ最後的ニ 両国首脳会見ノ上一方カ或点ヲ踏張リ談纏マラサ ハ「ラチヒケイション」 ノ語ヲ用ヒタリ) 大体話 iv コト

b 大体従来ノ話合ヲ テ之ヲ離レテ日米国交調整ハ困難ナリ ルカ米側ニ於テハ支那問題ハ主要ナル 「アップ . ツ デ 問題 繰り 1 \_\_ 返シ申シタ 一ナル + ス ヲ以 、要ア

日本 ヲ来スヲ欲セス米国政府ノ行為ニ依リ支那カ爆発 シ申セシ通リ日米間ヲ改善スルト共ニ米支関係ニ悪影響 1) ハ単二日支間橋渡シト云フモ米側トシテハ繰リ返

申シタリ)之二英モ「ソ」連モ和蘭モ同調セシム ナリ結局此ノ問題ハ日支間ニ和平ヲ来タシ (placate ト 支交渉ノ原則ハ知悉シ支那ヲ納得セシムルヲ要スル次第 スル次第ニテ米国政府トシテ困難ナル大仕事ナリト申シ (explode ト申シタリ) スルカ如キコトヲ望マス従テ日 ルヲ要

タリ

d支那撤兵ニ関シテハ本使ハ従来申セシ以外何等新シキ 確タル御意向承知致シ度シト述へタリ シ「ハル」ハ従来ノ話合丈ニテハ駄目ナレハ帝国政府ノ 付話合ヲ纏ムル成算アルモノト思フトノ本使ノ説明ニ対 シタル後但近衛公ニ於テ出馬ヲ決心セル以上此等ノ点ニ トナシト答へ自衛権問題ニ付テモ従来ノ応酬ヲ繰リ返へ

依テ撤兵問題自衛権問題等ニ付往電第五四〇号御参照ノ 上政府ノ御決定御回訓ヲ請フ

二付テハ事情詳細帰朝ノ岩畔大佐ヨリ御聴取相成

タシ

е

次二首脳者会見ノ話纏リタル場合ニ於ケル事務方面 トニ付本使限リニテハ 7 コ

⑴日本政府ハ「ハワイ」付近ヲ希望スルモ大統領カ地理 的ニ又憲法運用上之ヲ困難トセラレ東京・華府 「ジュノウ」ヲ云ハルル以上東京モ同意スルコト ノ中間 ト思

(2)時ハ九月二十一日乃至二十五日トシテハ如 何

4)近衛公ハ軍艦ニテ来ラルルト思フ (3)人数ハ外陸海大使館ヨリニテ計約二十名内外 ショリ少数ナルコトアルヘシ 約十 日ヲ要 ト考フ但

⑸発表ハ相互打合ヲ要シ本使限リニテハ近衛公出発以 位カ適当カト思フ 後

国務長官ハ夫等ノ点大統領ト話スヘシト申セリ 見略々一致セサ リ考慮ヲ廻ラシツツアル様見受ケラレ大綱ニ付双方ノ意 長官ハ極メテ慎重注意深ク本問題ヲ取扱ヒ各種ノ方面ヨ ル限リ首脳者会見ノ運ニ到ラサ ル 大体国務 ヘシト

d) c) b) a) eight points ニ対スル批評

仏印進駐次第会談ノ要アリ

根本調整ニ非ズシテ appeasement

野村ハ fool セラレ居レ

支那ヨリノ撤兵、 通商無差別ノ三点

和16年8月29日 豊田外務大臣宛(電報)在米国野村大使より

171

フライシャ Ó 新聞記事につい

ワシント シ

8 月 29 1後発

省 8 月 30 日 1後着

第七五七号(極秘、 館長符号)

往電第七五四号ニ関シ「フライシァ ビューン」ニ長文ノ記事ヲ掲載シオル処所謂 <u>\_\_\_</u> ハニナ 九日 「ホ 1 1 ル トリ ル

ナル モノニハ全然触レオラス

172 和 16 年 月 29 日 在豐 1米国野 対大使宛然大臣より (電報)

近衛メッセー ジの公表および今後の日米首脳

時機ヲ逸スル

コトアリト

モ目下ノ事態上已ムヲ得サ

会談の取扱い振りにつき訓

八月二九日付豊田外務大臣より在米国野村

使宛第五一二号

ッ セージに関する公表文

8 月 29 日 後9

往電第五一〇号ニ関シ

至記事差止メ等ノ手続ヲ採ルモ結局誤解ニ誤解ヲ重ヌル惧 当方トシテハ国内及国際情勢ニ鑑ミ最後迄極秘 リ)且今後ニ於ケル公表ハ予メ当方ト打合セラレ度此ノ為 ラレ(二十八日ノ会談ヲ予メ公表スルカ如キハ 事情モアリ之カ決定前ニ外部ニ洩ルル時ハ成立ヲ妨ケラル 会談ハ我方ニ於テハ独伊トノ関係モアリ又国内ノ複雑ナル 認メ二十九日午後二時半発表セリ申ス迄モナキ儀乍ラ本件 レ多キヲ以テ寧ロ此際別電第五一二号ノ公表ヲナスヲ可ト キ希望ナリシ処貴方ニ於テ既ニ発表ヲ見タル上ハ不発表乃 ル虞アルニ就テハ右御含ミノ上篤ト戒意アルト共ニ貴大使 ノ会談ハ非公式会談当時ノ如ク極メテ目立タサ 、考へモノ 二保持 様措置セ シタ

提案シタル次第ナルカ止ムヲ得サレハ必スシモ之ヲ固執ス 於テ会合スルコトニ致度ク右可然御談合相成度シ ルモノニ非ス但シ此ノ場合ハ日米両国ノ領土ヲ避ケ公海 哇ヲ提議シ来タリタル経緯モアリ当方トシテハ布哇付近ヲ ト承知アリ度追テ会見場所ニ就テハ我方ノ体面及之ニ対ス 興論ノ反響ニ鑑ミ又日米交渉ノ当初ニ於テ米国側ヨリ布 Ξ

言シ置カレ度シ り且前記我方公表ニ関シテハ事態急ヲ要シ米側ト予メ連絡 此点ニ於テ我方ノ立場ニ少カラサル困惑ヲ来シ居ル次第ナ 独伊間離間ヲ意中ニ置キタルモノトモ邪推シ得可ク少ク共 承知ノ通リナルヲ以テ右米国側ヨリ発表ヲ言ヒ出セシハ日 リテ日本ト独伊トノ関係ニ面白カラサル影響ヲ与フル ニテモ充分協力スル様御申入アリ度貴地ニ於ケル発表ニョ尚本件秘密保持ニ付テハ貴電第七五四号ノ次第モアリ米側 余裕ナカリシカ在京米大使ニ発表直後ニ通シ置ケル旨付 ハ御

本 省 8 月 29日後9 時

> アリ殊ニ次回ノ会見ニ付テハ大統領自ラ記者会見ニ於テ其 慣ナル為大統領ニ極秘裡ニ会見スルコトニハナカナカ困難 論謁見者ノ氏名及ヒ時間ハ通例毎日予メ新聞ニ発表スル

趣(特情参照)ナルヲ以テ之ヲ秘密ニスルコト至難ト思考

ルモ御来訓ノ次第ニ基キ早速「ハル」長官宛本件交渉内

ノ内本使ニ首相宛回答ヲ手交スルコトトナル

ヘキ旨語

レル

第五一二号

保持方申入レオケリ 八勿論今後出来得 V ハ 大統領ト ノ会見時間ニ付テモ機密

米国大統領に近衛メッセージ提示につき通報 在独国大島大使宛豊田外務大臣より (電報)

174

和16年8月30日

記一 八月二九日天羽外務次官とヤーネリイ 伊国参事官との会談要旨 駐日

八月二九日天羽外務次官と駐日独国大使と

の会談要旨

\_

= 八月三〇日豊田外務大臣と駐日独国大使

の会談要旨

省 月30日後6 時 30 分発

第七七六号 (館長符号)

ヲ帝国ニ適用シ爾来日米間ノ経済的連絡ハ殆ト杜絶シ両国 ル」長官トノ間ニ意見交換行ハレ居タル次第ハ御承知ノ通 日米関係打開ニ関シ前内閣当時華府ニ於テ野村大使及 ル処七月下旬日本軍ノ仏印進駐ノ結果米国ハ資産凍結令 関係ハ緊迫ノ状ヲ呈スルニ至レリ帝国トシテハ諸般ノ ヘーハ

> 十八日華府ニ於テ野村大使ヨリ「ル」ニ伝達セリ尚右伝達 ノ次第ハ華府及東京ニ於テ公表済ナリ 「ルーズベルト」大統領ニ「メッセーヂ」ヲ送ルニ決シニ 勢ヨリ日米間 ノ緊迫関係ヲ緩和スル為近衛総理ヨリ

大臣ヨリ右ノ次第説明シ置ケ リ又三十日在京独逸大使他用ヲ以テ来訪質問 尚当方ニ於テハ二十九日在京独伊大使ノ要求ニ応シ次官 セ ル 、二対シ本 3

伊ニ転電アリタシ 第五一七号米ニ転電セリ

### 付 記一

天羽次官ヲ来訪ス 八月二十九日午後六時四十五分伊太利参事官「ヤ ・ネリイ」

参事官 只今大使ハ不在ナルカ故ニ不敢取御伺ヒ 第ナルカ本日午後日本当局ニ於テ近衛総理カ「ル 次第ヲ発表シタルコトニ付本国政府ニ報告ノ必要上出来 ヴェルト」大統領ニ対シ「メッセーヂ」ヲ送リ ルタケ詳細ニ御内報ヲ得ル為ニ参上セリ タリ シタル次 トノ ーズ

次官 開始セラレ居タルカ日本軍ノ仏印進駐ノ為メ中止 御承知ノ通り日米間ニハ予テ諸種ノ問題ニ付交渉カ ス ル

ヲ近衛総理大臣ノ 勢ニ鑑ミ日米両国ノ懸案テアル太平洋問題ニ付帝国ノ所信 本月二十八日野村大使ハ米国大統領ヲ訪問シ現下ノ国際情 「メッセージ」トシテ手交セリ

昭 和16年8月29 日 豊在 田外務: 大臣宛

173

大統領との会見不公表につき米国国務長官 申入れについ て

8 月 30

第七五九号(極秘、館長符号)

御承知ノ通当国ニ於テハ大統領ノ其ノ日

|其ノ日

ラ行

**/**\

貴電第五一一号ニ関シ

日後

ワシント ン 8月29日後

264

次官

大臣差支ノ為御目ニカカレヌコト

ハ残念ナルカ本官

於ケル空気ヲ明朗ナラシメンカ為ニ「ル 交通モ杜絶シ甚タ悪化シ居ルカ故ニ双方ニ於テ此ノ状態 米国及日本ニ於テ諸種ノ事件発生シ只今日米間ノ関係ハ 大統領ニ対シ「メッセーヂ」ヲ送リタル次第ナリ ヲ打開シ度キ気運ヲ生シタリ仍ツテ近衛総理ハ太平洋ニ 余儀ナキニ至リタル次第ナル処其ノ後日米間ニハ支那、 ーズヴェルト」

参事官 リヤ ル交渉ノ再開ナリヤ或ハ新シキ問題ニモ関連スル 1 日米間 ミナリヤ或ハ新シキ問題ニモ関連スルモノナミニ行ハルヘキ交渉ハ今迄行ヒ来リ中絶シ居

次官 参事官 見テ差支ナキヤ 送リタルモノニテ果シテ交渉カ行ハルルヤ否ヤハ未タ確」官 先程申セシ如ク交渉ノ再開ノ為ニ総理カ words ヲ 交渉ノ議題ノ如キモ何等定マリ居ル次第ニ非ス 定シ居ル次第ニ非ス実ハ「ルーズヴェルト」大統領ヨリ ハ未夕回答ニ接シ居ラサル次第ナリ従テ今後行ハル 然ラハ本問題ハ今後モ尚予備交渉継続スル モノト  $\sim$ +

次官

参事官 クルコト出来サル 就テハ交渉ノ発展ニ応シ御差支ナキ限リ内報ヲ受

> 次官 右大臣ニ御伝へスヘキカ大臣ハ貴国政府 係ニ鑑ミ成ルヘク貴意ニ添ハルルコトト考フ 特殊関

参事官 米国ノ対蘇援助問題ニ付テハ先日日本ハ チ米蘇両国ニ対シ注意ヲ喚起シ居ルトノ御話ナリ ノ後ノ発展ハ如何 関係国即 〜シヵ其

次官 米蘇両国ヨリハ一応不満足ナル回答ニ接シタル 更ニ注意ヲ喚起シ置ケリ

参事官 米蘇両国ノ主張ハ如何ナル 次官 通商ノ自由ト日蘇中立条約ヲ楯 モ = 1 取りり レ

参事官 日本ハ如何ニ主張スルヤ 1)

次官 ス又其ノ品物ハ蔣政権ノ手ニ入リ或ハ又之カ日本攻撃ノ、官 通商自由モ時ト場所ト品物ニヨリー概ニ論スルヲ得 国交関係ノ大局ヨリ注意ヲ促シ居ル次第ナリ 家ノ体面ノ問題カ重キヲ置カレ理屈ヲ離レ日本ト米蘇ノ 濫用スルコトヲ反駁シ居ルカ実ハ本問題ハ理屈ヨリモ国 材料トナルヘキ事実ヲ指摘シ更ニ日蘇中立条約ヲ其処迄 通商自由モ時ト場所ト品物ニヨリ

参事官 口ハ国際法ノ理論ヲ離レ居ルモノ多シ 米国ノ最近ノ「パナマ」及太平洋方面 三於 ケ ĺ

参事官 「イラン」ノ最近ノ情勢ニ鑑ミ先日欧亜局長ニ

次官 ニ於テ其ノ通り処置セラレ居ルトノ報告ニ接シタリ ニ在ル我官憲モ既ニ承知シ居レ 官憲引揚ノ利害関係ヲ日本ニ御頼ミセシカ「テヘラン」 右ノ次第ハ欧亜局長ヨリモ聞キタルカ「テヘラン」

大使 本日午後日本政府ニ於テ発表セラレタル「コムミュ 大使 本日午後日本政府ニ於テ発表セラレタル「コムミュニ八月二十九日午後六時「オット」大使来省天羽次官面会ス モノト了解シ差支ナキヤ此ノ点ニ付現内閣ニ於テ何等ノ受ケタル処今日ノ「メッセーヂ」ハ右ノ方針ヲ離レサル 明ヲ受クルコトカ本使ノ義務ト思考シタルニ付推参変更ヲ考へ居ラルルコトナキヤ等ノ諸点ニ付詳細ノ 定セラレタル際枢軸ニ関スル日本政府ノ方針ニ付内報ヲ 総理大臣ノ「メッセーヂ」ヲ手交セラレタリトノコトナ ケ」ニヨリ野村大使ハ「ローズヴェルト」大統領ニ近衛 タル次第ナルカ七月二日御前会議ノ結果日本ノ方針 ルカ右ハ事実ナリヤ実ハ其ノ問題ニテ大臣ニ会見ヲ求メ セ御説 カ決

> 野村大使カ近衛総理ノ 知ル限リニ於テ御答へスへシ 「メッセーヂ」ヲ「ロ ーズヴェ

経緯ニ付テハ当時貴国政府ニ内報セラレタリ然ルニ日本 日米間ニ於テ種々ノ問題ニ付交渉ヲ始メラレ 変更ヲ受クルモノニ非ス御承知ノ通松岡前外務大臣ノ時 変更ヲ意味スルモノニ非ス枢軸トノ関係ニ於テ ト」大統領ニ伝ヘタル ハ事実ナリ然シ右ハ日 タルカ右ノ ハ何等ノ

平洋ノ空気ヲ明朗ニセンカ為ニ今回「メッ ル意向アルモノノ如ク又日本ニ於テモ然リトス是即 発生シ日米間 トナレリ斯ノ如キ状態ハ何国ニ於テモ長ク放棄スル ノ後支那ニ於テ又日本及米国ニ於テ日米間ニ種々ノ サルハ自然ノ理ニシテ米国ニ於テモ此ノ状態ヲ打開ス 事実上交通モナク経済関係モ杜絶スト云フカ如キ状態 ノ仏印進駐ニヨリ右交渉ハ一時中止ヲ見タリ而 ノ関係ハ益々緊張ヲ来シ現在日米間 セーチ」 二於テ シテ其 カ発 チ太 ヲ好 問題

大使 日米間ニ予テ交渉アリシコト及 ルコト並ニ其ノ後種々ノ事件発生シ居ルコト ルモ今回ノ 日米ノ交渉ハ中絶セラレタル 此 ノ交渉カ中絶シ居 問題ニ関係スル ・ハ了解 たシ居

セラレタル所以ト了解ス

モノナリヤ将又全然新シキモノナリ 7

次官 話ヲ始メントスル趣意ニテ別ニ如何ナル問題ニ付話スル 統領ニ与ヘラレタル「メッセーヂ」ニシテ唯双方ノ間 カト云フカ如キ具体的問題ニ触レ居ラス而モ右 先程申セシ如ク近衛総理ヨリ「ローズヴェル 1 「メッ 上大 \_

米国側ニ於テ交渉ニ応スル用意アリトハ米国側 3 1)

セーヂ」ニ対シ大統領ヨリハ未夕回答ニ接シ居ラス

通告アリタル次第ナリヤ

次官 シ通米国側ニ於テモ此ノ局面ヲ打開センカ為交渉ヲナス.官 米国側ヨリハ別ニ通告アリタル次第ニ非ス先程申セ

用意アリトノ印象ヲ受ケタル次第ナリ

大使 米国ハ例ノ通リ日本ト交渉ヲ開始スルコトニヨリ 間ヲ得其ノ間ニ米国ノ目的遂行ノ為ニ一層ノ努力ヲナス個 米匡ハ例ノ通リ日本ト交渉ヲ開始スルコトニヨリ時 有利ニ利用セントスル魂胆アルハ警戒ヲ要スト考フ ヘシ従ツテ米国ハ日本トノ交渉ヲ特ニ遷延シ之ヲ米国ノ

次官 スルコトニヨリ独伊ニ不利ナル影響ヲ与ヘ 其等ノ点ハ十分ニ考慮シ居レリ又日本カ米国ト交渉 、サル様十分ニ

元来三国同盟ノ目的 渦乱 ノ戡定ト平和ノ 克服ニアル コ

> 目標トスルモノニシテ我枢軸外交ノ本旨ト反セサル ナルカ若シ日米間ニ交渉開始トナルモ常ニ平和ノ維持ヲ ハ当時御詔勅其ノ他政府当局ノ発表ニヨリ御承知 モノ (ブ)通

戦セシメサルコトヲ目的トシ之カ為ニ米国ニ対シ強硬ナ ナル態度ニ出テラレタリ日本ハ現在ニ於テモ米国 ヲ凍結シ独逸領事館閉鎖スラナシタルニ独逸ハ甚タ穏便 ケ「アイスランド」ニ進駐シ他方米国ニ於テ独逸ノ資金 米国ハ凡有方法ニヨリ英国ヲ援助シ更ニ哨戒ノ制度ヲ設 間独逸ハ米国ニ対シ極メテ穏当ナル態度ニ出テタリ即チ 軍事的準備ヲ促進スル意味アリタルハ否ムヘカラス此ノ 結果ハ反対ノ現象ヲ示シ米国ノ輿論ハ益々硬化シ米国ノ 勢ヨリ判断スレハ決シテ誤リタルモノニ非ス然シナカラ ヲ取ルコトカ適当ナリトノ考ヲ起シタルコトハ当時ノ情 反省セシムルノ必要アリト認メ米国ニ対シ強硬ナル ル態度ヲ示シタリ当時米国ノ参戦ヲ防止スルカ為米国ヲ 尚此ノ序ニ私見ヲ申サハ松岡大臣ノ当時 、防止スル方策ハ以前ト変ラス我目的ハ米国ヲシテ米国 参戦ヲ防止スルニ在リ其ノ目的ニ於テハ今ニ於テモ何 ハ米国ヲシテ参 態度

激シテ国民ヲ一致団結セシメルヨリモ之ヲ宥メテ内部ノ国民ノ敵愾心カ激烈ニナラントスル矢先ニ於テハ之ヲ刺 米国ノ如キ領土広大資源豊富ナル国柄ニシテ時局ニ対シナル政策ヲ考慮スルヲ必要トスヘシ現在ノ状態ニ於テハ等変ル所ナシ唯右目的ヲ達スルニハ時ト場合ニヨリ適切 崩壊ヲ計ル方適切ナリトノ見方モアリ得ヘシ

府ノ訓令ヲ受ケタル訳ニ非ルモ政府ニ報告スル必要アル容ハ独逸ニ於テモ非常ニ重要視シ居ルモノナルカ故ニ政ナルモノアルヤニモ認メラル兎ニ角「メッセーヂ」ノ内へク其ノ他諸般ノ問題ニ付テモ妥結スルコトハ甚タ困難 ヲ以テ右内容ノ内示ヲ受クルコト出来サルヤ 府ノ訓令ヲ受ケタル訳ニ非ルモ政府ニ報告スル必要ア 那ノ問題ニ付考フルニ米国ノ蔣介石ニ対スル援助 其ノ根本政策ナルヲ以テ容易ニ之ヲ断ツコトハセサル 日米間ノ交渉モ仲々面倒ナルモノアルヘク例 ジー如  $\sim$ ハ 支 7

次官 米大統領ニ伝へシモノニテ未夕大統領ノ回答ニモ接セサ 先程申セシ如ク「メッセーヂ」ハ近衛総理ノ言葉ヲ カ御希望ノ次第ハ大臣ニ御取次キ致 シ置 クヘ

然ラハ差当ツテ政府 ヘノ報告トシテハ右 <u>,</u> セー

> 次官 先程申セシ如ク日米間ニ談合ヲ始メントスル目的 大使 然ラハ右交渉ノ為ニ特別ノ「ミッション」ヲ派遣ス セーヂ」ニ書キ居ルモノト測定セサルヲ至当トスヘシ 条約ヲ結フトカ何トカ「コンクリート」ナ問題ヲ 持ノ為」ト申シテモ差支ナキモ之ニョリテ例へハ不侵略 太平洋ノ空気ヲ明朗ニセシメントスルニアリ 二日米間ニ交渉スルトノ意味ト了解シ差支ナキヤ ヂ」ノ内容ハ三国同盟ヲ基礎トシ太平洋ノ平和維持 ル計画ナキヤ 「平和ノ維 · 「メッ

次官 先程申上ケタル通り未夕交渉カ始ルヤ始マラヌヤモ 居ラサルモノト了解ス 確定セス又具体的問題ニ付テモ打合セヲ了シタル次第ニ 非ルヲ以テ「ミッション」派遣ノ如キ問題ハ未タ確定シ

大使 此ノ問題ハ「グル 大使ヲ通シテ行 !ヒ居

次官

大使 野村大使ニ於テナリ

次官 (首肯ス)

度キコトヲ伝ヘラレ度キ処実ハ先日独蘇戦争ニ付テ本国 更二大臣ニ対シ右「メッセーヂ」ノ内容ノ内報ヲ得

方御取計と願と度シ政府ヨリ訓令ニ接シ居ル関係モアリ明日是非大臣ト会見

次官 大臣ニ御伝へスヘシ

### (代 証三)

大臣ノ意味ナリ)ノ通リ会談行ハル(以下「オ」ハ「オット」大使「豊」ハ「オット」大使ヨリ独蘇戦戦況ニ関スル説明アリタル後左

参加スル可能性アリヤモ日本政府ノ意図ニハ変リナキカ独蘇戦争ニ対シ日本カ係ニ於テ凡ユル場合ニ対シテ準備中トアル処今日ニ於テオ」 七月二日ノ対独政府通告ニハ日本ハ対「ソ」対米関

度シ

「豊」 日本ノ準備ハ目下進行中ニシテ完成迄ハ尚時日ヲ要

ハ変更ナシ「豊」 今後ノ状勢発展ニ備フル為ノ準備ト云フ我方意図ニ「ま」 全後ノ状勢発展ニ備フル為ノ準備ト云フ我方意図ニアルヤ

大統領「メッセージ」ノコトヲ承知シタルカ其ノ後同盟「オ」 新聞ニ依り始メテ近衛首相ノ対「ルーズヴェルト」

タルトコロ以上ニ何カ御伺ヒスルコトアラハ御説明願ヒージ」は際にいる。 場ケ独「ソ」戦争ノ結果トシテ日米関係カ「デリケート」 場ケ独「ソ」戦争ノ結果トシテ日米関係カ「デリケート」 セージ」問題ハ独逸トシテハ三国条約ノ見地ヨリ重大関 セージ」問題ハ独逸トシテハ三国条約ノ見地ヨリ重大関 セージ」問題ハ独逸トシテハ三国条約ノ見地ヨリ重大関 セージ」のおこシテ本国政府へ詳細報告ノ必要アルヲ レラ有スル事柄ニシテ本国政府へ詳細報告ノ必要アルヲ はアルトコロ以上ニ何カ御何ヒスルコトアラハ御説明願ヒールカロ リテ非礼ヲ顧ミス繰返シ御尋ネヲスル次第ナルカ右 リテ非礼ヲ顧ミス繰返シ御尋ネヲスル次第ナルカ右 リテ非礼ヲ顧ミス繰返シ御尋ネヲスル次第ナルカ右 リテ非礼ヲ顧ミス繰返シ御尋ネヲスル次第ナルカ右 リテ非礼ヲ顧ミス繰返シ御尋ネヲスル次第ナルカ右 リテ非礼ヲ顧ミス繰返シ御尋ネヲスル次第ナルカ右 リテ非礼ヲ顧ミス繰返シ御尋ネヲスル次第ナルカ右 リテ非礼ヲ顧ミス繰返シ御尋ネヲスル次第ナリー」シ居ル ナカ日とのといった。

ヨリ説明ノ通リナリ ハ全ク事実ニ非ス「メッセージ」ニ関シテハ天羽次官リ明白ニ申上ケタキハ只今初メテキク同盟ノ報道ナルモー 出際ナルカ故ニ各種ノ推測モ行ハルヘキモ本大臣ヨ

サルモノナリヤ「オ」 然ラハ右「メッセージ」ハ具体的事柄ニハ触レ居る

「豊」 天羽次官ヨリ説明シタル通りナリ

ケラレタルカ或ハ先方ノ態度カ拒否的ナリシヤ伺ヒタシカ其印象ヲ承リタシ具体的ノコトニ非ストモ友好的ニ受「オ」 本「メッセージ」カ先方ニ於テ如何ニ受ケラレタル

「オ」 松岡外相当時日本政府当局ハ米ノ企図スルトコロカ「豊」 未夕何等ノ報告ニ接シ居ラサルニ付申上ケカヌ

見解ヲ承リタシ見解ヲ承リタシ見無のでは、これので

ニシテ右見解ハ従来ト変リナク又将来モ変ラヌモノナリ「豊」 要スルニ米ノ参戦ヲ防止スルコトカ三国条約ノ目的

175 昭和16年8月3日 豊田外務大臣宛(電報)

近衛メッセージ等に関するコロナ駐米伊国大

使との会談について

ワシントン 8月30日後発

本 省 8月31日後着

思ハルト話シオケリ 為ナルヘシ太平洋戦争トナラハ戦争ハ必然長期トナル 実ナルハ申ス迄モナク米ノ参戦ニ慎重ナル ナルカ日本ハ米ノ参戦ヲ欲セス而シテ日本カ三国同盟ニ忠 速カニ終結スルヲ望ム(コレニハ強ク同感ヲ表セリ)モノ リ葉堀り尋ヌルヲ以テ本使ハ人道ノ上ヨリ見テ欧州戦争カ 勢緩和ノ為「メッセージ」ヲ出シタルコトヲ説明シ尚根掘 表ノ範囲内ニテ最近極度ニ緊迫シ上院ノ最モ有力ナル 号(日米交渉ニ関スル在独大使宛電報ノ転電ナリ)及御発 三十日伊国大使来訪日米関係ヲ尋ヌルヲ以テ貴電第五一七 第七六一号(極秘、館長符号) ニシテ戦争ノ公算五割ト公言スルカ如キ有様ナルヲ以テ形 ノモ之ヲ知 議員 ル 力

同感ニシテ御趣旨ヲ守リ充分善処スヘキモ何分難カシキコ本件ニ付秘密ヲ保ツコト段々ノ御電訓モアリ本使モ亦全然難カシキモ社会的ニハ何等別状ナク親切ナリト答ヘタリ数百万ノ伊系米人アルカ故ナランカト申セシ処政治的ニハ尚米ハ伊国ニ反感無キノミカ寧ロ同情的ナル如ク思ハル之

ニ依レハ(大臣ノ質問ニ対シ「オット」ハ右同盟トハニ

カ ル ニシテ我方ノ行動ニ依リ或程度ノ揣摩臆測 ヘシ但「メッ トモ申シ難キモ セー 一時形勢緩和 ジ」一件ニシテ当国ノ関スル限リ ノ徴ヲ認ム ハマヌ 力

176 和16 年9 月 1 日 在豐 米国外 野務 対大使宛り

### 米国大統領 O 回答に関 L 機密厳守について

第五一八号(至急、 館長符号、 外機密) 9月1日 1後0時

40

分

貴電第七五九号ニ関シ

二十九 ニ因ル 対シ至急御手配アリ度又其概要ヲ米側トシテ公表ノ要アリ 大統領ノ首相宛回答ノ内容カ絶対外部ニ漏 ・セハ其ノ内容ヲ予メ我方ト打合ハセシメラレ度シ 日公表ハ貴方公表アリタル モノニシテ今後我方ニ於テモ相互的ニ事前打合 カ為急遽ナスヲ要シタル V + ル 様米側 (我方

コト勿論ナリ)

177 昭 和16 年9月2 H 豊在 田米 外国 務大臣宛

レ

将

### 日米首脳会談等に関する米国国務長官との

談につ L١ τ

シント シ 9月2日後

9月 3 日前

第七六二号(極秘、 館長符号)

責上且性格上用心深キ様見受ケラル 件申込ミ置キタリ会見ノコト 帰華長官ト ク然ルニ大統領ハ金曜ヨリ「ハイド・パーク」ニ行キ明 日 ト思ハル会見ニ付テハ二人共乗気ラシク唯長官ハ 1夜国務長官往訪貴電第五一八号機密保持及公表打 -午餐ヲ共ニスル趣ニシテ軈テ我方へ回答ア ハ大統領自ラ主宰シ居 其ノ ル ラシ iv コ H

長官ハ太平洋平和維持ハ結構ナルカ近衛内閣 会見ヲ断行セ 治的地位ヲ以テ且首相ト ヲ内外人ヨリ注進セラル 却ヲ余儀ナクサルル惧モアリト認メ居ルラシク此等ノ懸念 リ一転シテ平和政策ニ復帰スルニ於テ ント スルニ在ル以上斯ル懸念ノ絶対ニ無用ナ ル趣ナルヲ以テ本使ハ近衛公ノ政 シテ此度日本トシテ未タ曾テナ *>*\ 輿論 ノ反対 カ武断政策 ノ為退 3

ヲ避クル心組ト四 ラルル イセリン) ヒ有力政治家軍人等ヲ指導セラレ平和政策ニ共鳴 セラレ居ルカ如 ヲ説明シタリ コト マシキコ -思ハレ 尚日本 2 (日本政府ニ於テ其ノ創意ニ依 ・斯クス トヲ申シ居リタリ ノ新聞論説ハ レハ 米国側カ遣り易クナ グ ル 《内政干涉 一ヨリ ヤシメ い興論 総テ報 批評 ル 1

係ヲ 国其ノ他ノ国ヲ納得セシムル 支那ハ米国ノ駄々ツ子トナリ勝手ヲ云フ次第ナリト応酬シ ニ武断内閣出現スルモノト 次ニ支那側ハ平和ヲ欲 題中自衛権ハ六ケ敷キ問題ニ非ス無差別主義ハ今回貴 「ステートメント」ニモ一応容認シ又近衛声明ニモア iv 三非ス其ノ時ノ状況ニ依リ解決セラル ニテ解決ノ方法アリ北支内蒙ノ駐兵モ本来無期限 理由ナク 府ニ於テ何等カノ案アリ ,回復スルコトハ仲々骨折レ カ長官ハ何時モノ 日本モ亦極東ノ 見 V ハ米国ト雖モニ正面ニ 如ク支那ヲ怒ラシメス日支カ友好関 セス且支那人 平和維持ヲ念ト ト認ムル旨挨拶シ要スル -認メ居ルト云フヲ以テ本使 ノ必要ヲ述ヘタリ懸案ノ三問 ル事業ナリト申シ又之ニ英 ハ 日本二 「トラブル」ヲ ル ス モノニシテ日本 N 心ス其 7 アルコ = 一政治 欲ス Ξ ラ 電 1)

> テモ気候良シキ由ナリ発表ノ際ハ太平洋 百 洋ノ平和確保ハ喜フヘキコトナル旨ヲ述ヘタリ ク主張シ会合ノ速ナル実現ヲ勧告シ置キタル処長官モ太平 会見ノ地点ニ迄話ハ進マサリシカ 聖勅ヲ拜シテモ明カニシテ此 「マイル」「ジュノウ」ハ三千八百「マイル ノ点何等ノ疑ナキコト 「ホノルル」 上ノ一地 二十月 ハ三千 点 三入り · ヲ 強 東 京 )T

華府ノ中央)ト為シ然ルヘシト

考フ

的ニ資材ノ供給(英国側不平ノ声ハ新聞等ノ関係ア 途ノ光明ヲ認メ米国自身ハ国防ノ充実味方ニ対シー 枢軸側ハ従来ノ頽勢ヲ挽回シ五分五分ノ所迄進ミー 序ヲ以テ当国ノ近状ヲ一言スレハ欧州戦争第三年ニ入 ニ相違ナキモ「スターリン」ハ政治的立場上単独講 認ムルモ東部ニ於ケル人及物ノ消耗夥シク戦争 シー面国民ノ油断ヲ戒メツツアリ独逸ノ戦力依然雄 戦意ヲ失ヒ寧ロ ス(紐育 夕 1 ムズ」 独逸ノ厄介ノ 如 可能性ヲ認 ク見ラレ " と 'n P 而 1 八越年スル シテ ij 大ヲ *・* ヲ 二前 1) 25 反

注 部分は 後に17文書で挿入

昭和16年9月3日 豊田外務大臣宛 (電報)在米国野村大使より

178

## 日米首脳会談に関する米国紙記者の問合せに

つい

ン 9月3日前発

**4**日

前着

第七六五号(大至急、極秘、 館長符号) 9 月

往電第七五四号ニ関シ

二日夜半紐育「タイムス」「ヒューワン」ヨリ寺崎ニ対シ紐 ン」ハ未夕入手セサルモ右不取敢 等承知セサル旨回答シタル趣ナリ「ヘラルド・トリビュ 載セル処右ハ事実ナリヤト問合セ来リタルヲ以テ寺崎ハ何 大統領ニ会見方申込タリトノ「フライシァー」ノ記事ヲ掲 育「ヘラルド・トリビューン」ハ近衛公ハ「ル ーズベルト」

尚本件機密取扱方ニ付テハ客月二十八日並昨一日本使ヨリ 二重ネテ申入ルル所存ナリ 「ハル」長官ニ対シ強ク念ヲ押シ置キタル次第ハアルモ更

179 昭和16年9月3日 豊田外務大臣宛 (電報)在米国野村大使より

# 米国国務長官との会談報告の不明点につき報告

ワシント シ 9月3日後発

9月4日前着

第七六六号(極秘、 館長符号)

貴電第五二二号(在米大使来電第七六二号(九月三日着電)

不明個所照会ノ件)ニ関シ再電左ノ通

テ其ノ創意ニ依リ輿論及有力政治家軍人ヲ指導セラレ平和 政策ニ共鳴セシメラルルコト望マシキコトヲ申シ居リタリ 「『グルー』ヨリ総テ報告セラレ居ルカ如ク『日本政府ニ於 (内政干渉ノ批評ヲ避クル心組ト思ハレ斯クスレハ米国側

カ遣リ易クナルト申セリ)』」

180 昭和16年9月3日 豊田外務大臣宛(電報)在米国野村大使より

### 米国大統領との会見予定について

ワシントン 9月3日後発

本 省 9月4日前着

午後五時求メニ依り本使大統領ト秘密裡ニ会見ノ予定 第七六八号 (外機密、至急)

昭和16年9月 3日 豊田外務大臣宛(電報)在米国野村大使より

181

### および我が方回答について 修正のうえ米国側へ提出した近衛メッ セ 37

九月三日付在米国野村大使より豊田外務大 臣宛第七七二号

修正のうえ米国側へ提出した近衛メッ セ

九月三日付在米国野村大使より豊田外務大

修正のうえ米国側へ提出 臣宛第七七三号 した武力進出警告

ワシント ン 9月3日後発 に対する我が方回答

省 9月4日後着

第七七一号(至急、極秘、 館長符号)

往電第七四八号ニ関シ

夫々別電第七七二号及第七七三号トシタルニ付御了承ヲ請 本使ニ於テ若干改変ヲ加フルコトヲ適当ト認メ其ノ英文ヲ 入ナル点ヲ考慮スルト共ニ本件会談ヲ実現セシムル目的上 国政府回答)ヲ手交スルニ当リ右ハ一国ノ元首ニ対スル申 貴電第五○二号(総理「メッセージ」)及貴電第五○三号(帝 フ遅延乍ラ為念

別

ント シ 9月3日後発

省 9 月 4 日後着

第七七二号(外機密、 館長符号)

Your Excellency and myself: of the Japanese Government regarding meeting between reply of the United States Government to the proposal delivering personally to Ambassador Nomura the I deeply appreciate the courtesy of Your Excellency

the United States are the last two major Powers who In the face of universal war like turmoil Japan and

That the two nations should fall in the worst of relations at this time would mean not only a disaster in itself, but also the collapse of world civilization.

Japan is solicitous for the maintenance of the peace of the Pacific and the peace of the world and she desires therefore to improve Japanese-American relations.

The present deterioration of the Japanese-American relations is largely due, I feel, to a lack of understanding which has led to mutual suspicions and misapprehensions, and also encouraged the machinations and maneuvers of third Powers.

Without first eliminating such causes, it is impossible to except adjustment of Japanese-American relations. This is why I wish to meet Your Excellency personally for a frank exchange of views.

The preliminary informal conversations, disrupted July last, were quite appropriate both in spirit and content. But the idea of continuing those conversations

and to have their conclusion confirmed by the responsible heads of the two Governments does not meet the need of the present situation which is developed swiftly and may produce unforeseen contingencies.

I consider it, therefore, of urgent necessity that the two heads of the Governments should meet first to discuss from a broad standpoint all important problems between Japan and America covering the entire Pacific area, and to explore the possibility of saving situation.

Adjustment of minor details may, if necessary, be left to negotiations between competent officials of the two countries, following the meeting. Such is my aim in making the present proposal. I sincerely hope my views in this regard are fully understood and reciprocated by your Excellency.

Because of the nature of the meeting as stated above, I would prefer that it will take place as soon as possible.

第七七三号(外機密、館長符号) 本 省 9月4日後着 ワシントン 9月3日後発

The Japanese Government has received the communication conveyed by the Secretary of State and the President of the United States to the Japanese Ambassador on August 17, 1941. The Japanese Government desire to state its views as follows:

The Japanese Government profoundly regrets that despite the pledge it has given heretofore as well as its repeated explanations concerning Japan's actions and measures in the French Indo-China, the United States Gvernment continues to entertain misgiving.

日米首脳会談の申入れ

The United States Government mentions certain situations and measures which it regards as inimical to a peaceful settlement in the Pacific Area. In an

---

motivating policy of the Japanese Government. do so for the maintenance of a just peace. would take defensive measures, but it is also required to threatened, not only is it imperative that the nations development or when the means of its existence is obstructed cause and when it is a consequence. atmosphere of world crisis and international confusion, is sometimes difficult to ascertain when an event is Ħ. the case of natural and When a nation is This was the peaceful

Meanwhile, the United States had taken certain measures which would be interpreted in Japan as indicative of a continuing unfriendly pressure at variance with the current amicable conversations.

Government principles. considered as conflicting with American interests and some of those against Japan's The United States Government certainly regards On the they actions as merely policy were otherhand, and procedures measures to counter-measures determined the which were Japanese υ

considerations of self-protection for meeting national requirements or removing environmental and political obstacles against national security.

With admirable modesty of mind, the Government of the United States has seemed freqently unaware that its words and policies are automatically weighted with the immense power of America's accomplished facts, natural endowment and potential might. The President of the United States, and the Secretary of State, in their own unquestioning adherence to the ways of peaceful procedures, might find it difficult to believe that other nations, anywhere, would consider themselves threatened by the United States.

Yet, as long as there is lacking the assuagement of that possible threat, there will be some less favorably endowed (especially in essential resources) who will feel compelled to consider defensively their relations with the United States.

In consequence, the Japanese Government

of the United States would be proud to make sacrifices. situation the Government of Japan like the Government toward a peaceful settlement covering the entire Pacific Government of Japan is ready: for such a united effort understanding that will condition lasting and extensive policies United States to an exchange of views in regard to basic welcomes the invitation by the Government of the Ħ. and the attitudes Pacific area. as the For foundation such of the

Japan's measure in Indo-China was intended to accelerate the settlement of the China Incident; and at the same time it was calculated to remove all menaces to the peace of the Pacific and to secure to Japan an equitable supply of essential materials. It was a measure of self-defense the Japanese Government felt obliged to take. But the Japanese Government has no intention of threatening thereby other countries.

Therefore, the Japanese Government is prepared to withdraw its troops from Indo-China as soon as the

China Incident is settled or a just peace is established in East Asia.

Furthermore, in order to remove all possible doubt in this regard, the Japanese Government reaffirms herewith its repeated declaration that its present action in Indo-China is not a preparatory step for military advance into neighboring territories. The Japanese Government believes the above pledge will suffice to clarify also Japan's intention toward Thailand.

As regards Soviet-Japanese relations, the Japanese Government declares likewise that Japan will take no military action as long as the Soviet Union remains faithful to the Soviet-Japanese Neutrality Treaty and does not menace Japan or Manchoukuo or take any action contrary to the spirit of the said treaty. On the other hand, the Japanese Government sincerely hopes that the United States Government will avoid any action that might give rise to a fear or menace to Japan through collaboration with the Soviet Union.

日米首脳会談の申入れ

In a word, the Japanese Government has no intention of using, without provocation, military force against any neighboring nation.

Quite properly discussions between the Japanese Government and the Government of the United States directed toward ascertaining if there existed a basis for negotiation for a peaceful settlement covering the entire situation, —such discussions would naturally envisage the working out of a progressive program, obtainable by peaceful methods. The Japanese Government shares fully that view with the Government of the United States.

It is also stated by the United States government that no proposals or suggestions affecting the rights and privileges of either the United States or Japan would be considered except as these might be in conformity with the basic principles to which the United States has long been committed.

The fundamental national policy long cherished by

Regarding the principles and directives set forth in detail by the American Government and envisaged in the informal conversations as constituting a program for the Pacific area, the Japanese Government wishes to state that it considers these principles and the practical application thereof in the friendliest manner possible, are the prime requisites of a true peace and should be applied not only in the Pacific area, but throughout the entire world. Such a program has long been desired and sought by Japan itself.

The Japanese Government now confidently hopes that from the larger view-point of a constructive world peace, and in the light of the current international situation, past differences may be merged in an agreement of principles and a cooperative effort based on order and justice. The meeting of the responsible heads of our respective governments would confirm and

give such sanction to our purposes that peace in the Pacific would be instituted by that meeting.

### 昭和16年9月3日 豊田外務大臣宛(電報)

182

# びオーラル・ステートメントの受領について近衛メッセージに対する米国大統領の回答およ

米国大統領メッセージ

臣宛第七七七号 九月三日付在米国野村大使より豊田外務大

オーラル・ステートメント

付 記一 右別電一訳文

一 右別電二訳文

ワシントン 9月3日後発

本 省 9月4日後着

第七七五号 (極秘、館長符号)

三日午後五時先方ノ求ニ依り極秘裡ニ大統領ト会見セル

会談追電ス(午後七時三十分)及先方回答文夫レ夫レ別電第七七六号及七七七号ノ通リ(「ハル」同席)大統領ノ署名セル近衛総理宛「メッセージ」

(別 電一)

本 省 9月4日後着ワシントン 9月3日後発

第七七六号 (極秘、館長符号)

I have read with satisfaction Your Excellency's message of August 27, which was delivered to me by Admiral Nomura.

I have noted with satisfaction the sentiment expressed by you in regard to the solicitude of Japan for the maintenance of the peace of the Pacific and Japan's desire to improve Japanese-American relations.

日米首脳会談の申入れ

I fully share the desire expressed by you in these regards, and wish to assure you that the Government of the United States, recognizing the swiftly-moving

~

character of world events, is prepared to proceed as rapidly as possible toward the consummation of arrangement for a meeting at which you and I can exchange views and endeavour to bring about an adjustment in the relations between our two countries.

been desired and sought by Japan itself." the entire world" and that "such a program has long should be applied not only in the Pacific but throughout possible, are the practical application thereof, in the friendliest manner Government "considers these committed and it was declared that Government me reference was made to the principles to which the In the statement which accompanied your letter to of the prime requisite of a true United States principles has long peace and Japanese and the

I am very desirous of collaborating with you in efforts to make these principles effective in practice. Because of my deep interest in this matter I find it necessary that I constantly observe and take account of

\_\_\_

constrained to suggest, in the belief that you will share if widely entertained, would seem capable of raising existence in some quarters in Japan of concepts which, I can not avoid taking cognizance of indications of the between our two countries. At this particular moment which have a bearing upon problems of relations developments both in my own country and in Japan achievement and maintenance application agreement. The questions which I have in mind for fundamental and essential questions on which we seek immediately meeting shall prove a success, by endeavouring to enter take precaution, toward ensuring that our proposed me along the line which I am sure we both earnestly obstacles to successful collaboration between you and view, that it would seem highly desirable that we preliminary to follow. of the upon preliminary discussion of the Under these principles discussions circumstances, of peace fundamental to involve which practical , I feel are the

mentioned with more of specification in the statement accompanying your letter. I hope that you will look favorable upon this suggestion.

(別電二)

本 省 9月4日後着ワシントン 9月3日後発

第七七七号(極秘、館長符号)

### ORAL STATEMENT

Strictly Confidential

Reference is made to the proposal of the Japanese Government communicated on August 28, 1941, by the Japanese Ambassador to the President of the United States that there be held as soon as possible a meeting between the responsible heads of the Government of Japan and of the Government of the United States to discuss important problems between Japan and the United States covering the entire Pacific area in an

endeavour to save the situation and to the reply of the President of the United States, in which the President assured the Prime Minister of the readiness of the Government of the United States to move as rapidly as possible toward the consummation of arrangement for such a meeting and suggested that there be held preliminary discussion of important question that would come up for consideration in the meeting.

In further explanation of the views of the Government of the United States in regard to the suggestion and reference observations are offered, as follows:

On April 16, at the outset of the informal and exploration conversations which were entered into by the Secretary of State with the Japanese Ambassador, the Secretary of State referred to four fundamental principles which this Government regards as the foundation upon which all relations between nations should properly rest. These four fundamental

principles are as follows:

- 1. Respect for the territorial integrity and the sovereignty of each and all nations,
- Support of the principle of non-interference in the internal affairs of other countries,
- Support of the principle of equality, including equality of commercial opportunity,
- 4. Non-disturbance of the "status quo" in the Pacific except as the "status quo" may be altered by peaceful means.

In the subsequent conversations the Secretary of State endeavoured to make it clear that in the opinion of the Government of the United States Japan stood to gain more from adherence to courses in harmony with these principles than from any other course, as Japan would thus best assured access to the raw materials and markets which Japan needs and ways would be opened for mutually beneficial cooperation with the United States and other countries, and that only upon the basis

of these principles could an agreement be reached which would be effective in establishing stability and peace in the Pacific area.

284

of the United States has long been committed and which desires and seeks a program for the Pacific area satisfaction that in the statement marked "strictly already referred to. consistent with the principles to which the Government confidential" which was communicated by the Japanese advantges or preferences by force expansions or August 28 there were given specific assurances of Ambassador to the President of the United States The Government of the United States notes with set forth in detail in the informal conversations understands that the any peaceful intentions and assurances that Japan Government has given in policy the acquisition of economic The Government of the United which would assurances seek that statement which political rights, the on

marked "oral-unofficial and without commitment" Governments, and which remained unreconciled at the which there were divergences of view between the two there were certain fundamental question with respect to that in oral discussion of this draft it was found that proposal of May 12, 1941. which contained the draft of the Japanese Government's 1941, handed the Japanese Ambassador a document already been made, the Secretary of State on June 21, course of the conversation to which reference has peaceful settlement. United States might make to collaborate toward a of any efforts which the Government of Japan and of the preliminary precautions be taken to insure the success the United States believes that it is all-important that Government has made reference. practice desirous of collaboration in efforts to make effective in The Government of the United States is the principles It will be to which It will be recalled further recalled that in the The Government of the very

time the conversations were interrupted in July.

Government of the United States would be glad to have saying that each Government in reaching decisions on its to the satisfactory settlement of Pacific questions. methods in harmony with the principles in which the American would not enter into any agreement which would not be recognize that the Government of the United States in its own country and the attitude of public own policy must take into account the internal situation fundamental questions under reference. It goes without therefore, seeks an indication of the present attitude of agreement upon the points abovementioned are essential but believes that a community of view and a facilitate progress towards conclusions of discussion The Government of the United States desires to in fact all nations methods Government Government with of forceof Japan will that prefer peaceful regard -believe. surely opinion clear The the It, to

the reply of the Japanese Government on the matters above set forth.

### (付 記一)

下ノ「メッセーヂ」ヲ有難ク閲読セリ余ハ野村提督ニ依リ余ニ伝達セラレタル八月二十七日付閣

然了承セリ 係改善方ニ関スル希望ニ付閣下ノ表明セラレタル所思ヲ欣 余ハ太平洋ノ平和維持ニ関スル日本ノ熱意及日本ノ日米関

用意アル旨ヲ閣下ニ確言スヒ以テ意見ノ交換ヲ行ヒ貴我両国間ノ関係調整ニ努力スルナルヲ以テ出来得ル限リ速カニ閣下ト余トノ会合方ヲ取計テ合衆国政府トシテ国際事態推移ノ急速ナルヲ認ムルモノ余ハ右諸点ニ付閣下ノ表明セラレタル希望ニ全ク同感ニシ

二於テノミナラス全世界ヲ通シテ適用セラルヘキモノト思之等諸原則ノ適用ハ真ノ平和ノ主要条件ニシテ単ニ太平洋国政府ハ「右諸原則及出来得ル限リ友好的ナル方法ニヨル国政府カ従来長キニ亘リ遵奉シ来レル諸原則ニ言及シ日本余宛閣下書簡ニ添付セラレタル「ステートメント」中合衆

本国自身カ希求セシモノナル」旨ヲ説明セラレタリ考ス」ル旨及「右ノ如キ『プログラム』ハ久シキニ亘リ日

下ト協力セムコトヲ切望ス余ハ之等諸原則ヲ実際上効果的ナラシメムトスルコトニ閣

ムヲ得スト感スル次第ナリ ニ努メ以テ慎重ヲ期スルコト緊要ナルヲ示唆スルハ蓋シ已 基本的且枢要ナル諸問題ニ付速カナル予備的討議 我等ノ企図スル会合ノ成功保障ノ為我々ノ合意ノ目的タル ニ存在スルコトノ表示ヲ認メサルヲ得ス斯カル事態ノ下ニ 成功ヲ阻碍スルニ足ルト認メラルル観念カ日本ノ或ル方面 ルモノナルヲ確信スル 抱懐セラルルニ至ラハ閣下ト余カ均ク誠心誠意従ハムトス 国間ノ関係ノ諸問題ニ関連アル合衆国内及日 本問題ニ関シ余ハ深キ関心ヲ有スルモノナル ・ルカ故ニ(余ハ閣下カ余ト見解ヲ共ニセラルヘキヲ信シ) ト認ムルモノナリ是レ此ノ秋ニ当リ余ハ若シ広キニ亘リ 事態ノ推移ヲ絶エス観察シ且之ヲ看過セサルコト必要ナ 「ライン」ニ依ル我等両人ノ協力ノ 本国内 カ故ニ余 が開始 ご二於ケ 25

簡ニ添付セラレタル「ステートメント」中ニ一層詳細ニ述右ノ如キ予備的討議ニ付余ノ想起シ居ル諸問題ハ閣下ノ書

ヘラレンコトヲ希望スー際的適用ヲ包含ス余ハ閣下カ右示唆ニ対シ好意的考慮ヲ加ヘラレ居ル所ノ平和ノ達成及維持ニ根本的ナル諸原則ノ実

### (付 記二)

言シ且右会談ニ於テ考究セラル 千九百四十一年八月二十八日日本国大使ヨリ合衆国大統領 責任首脳者間ノ会合ヲ出来得ル限リ速カニ開催スヘキ旨ノ ノ予備的討議ヲ開クヘキ旨ヲ示唆セリ メ出来得ル限リ迅速ニ行動スル用意アル旨ヲ総理大臣ニ確 二言及ス右回答ニ於テ大統領ハ斯カル会談ノ準備完了ノタ ニ伝達セラレタル日本国政府ノ提案及合衆国大統領ノ回答 ニ存スル重要問題(複数)討議 時局ヲ救済セムト ・スル 努力ヨリ太平洋全地域ニ及 ルコト ノ為日本国及合衆国政府ノ トナル ヘキ 重要問 日日

為メ次ノ如キ所見ヲ開陳ス右示唆及言及ニ関スル合衆国政府ノ見解ヲ更ニ説明センカ

間ノ一切ノ関係カ当然拠ルヘキ基礎ト目スル四大基本的原談ノ頭初タル四月十六日国務長官ハ合衆国政府ニ於テ国家国務長官カ日本国大使トノ間ニ開始セル非公式且試案的会

一、一切ノ国家ノ領土保全及主権ノ尊重則ニ言及セリ右四基本原則トハ次ノ如シ

二、商業上ノ機会均等ヲ含ム均等ノ原則支持一、他国ノ国内問題ニ対スル不関与原則ノ支持

太平洋ニ於ケル「現状」ノ不攪乱四、平和的手段ニ依り「現状」カ変更セラルル場合ヲ除キ

キコトヲ明瞭ナラシムルニ努メタリ日本ハ之等諸原則ニ合致セル方策ヲ採ルコトニ依リ其ノ必因及其他ノ国家トノ間ニ相互ニ有益ナル協力ノ途開カルへク又之等諸原則ヲ基礎トスルコトニ於テノミ太平洋地域ニ国及其他ノ国家トノ間ニ相互ニ有益ナル協力ノ途開カルへク又之等諸原則ニ合致セル方策ヲ採ルコトニ依リ其ノ必其ノ後ノ会談ニ於テ国務長官ハ合衆国政府ノ見解ニ依レハ其ノ後ノ会談ニ於テ国務長官ハ合衆国政府ノ見解ニ依レハ

ノ日本国ノ平和的意図及保障ニ関シ確然保障ノ与ヘラレタル太平洋地域ニ関スルーノ「プログラム」ヲ希求セラルト前記非公式会談中詳細ニ陳述セラレタル諸原則ニ矛盾セサット」ニ於テ日本国ハ合衆国政府カ久シク遵奉シ来タリ且ヨリ伝達セラレタル「厳秘」ト記セラレタル「ステートメヨリ伝達セラレタル「厳秘」ト記セラレタル「ステートメヨリ伝達を国政府ハ八月二十八日合衆国大統領ニ対シ日本国大使

ルコトヲ欣然了承ス

五月十二日ノ日本国政府ノ提議案ヲ包含セル「ロ 六月二十一日国務長官ハ日本国大使ニ対シ千九百四十一年 ラサルヲ信スルモノナリ前記会談中ニ於テ千九百四十一年 力ニ関スル努力ノ成功確保ノ為予備的配意ノ緊要欠クヘカ 合衆国政府ハ日本国政府及合衆国政府カ平和的解決ノ為協 効果的タラシムル為努力ヲ共ニセンコトヲ要求シテ已マス 合衆国政府ハ日本国政府カ言及セラレタル諸原則ヲ実際 合衆国政府ハ日本国政府カ該「ステー 及去ル七月右会談カ中絶セル際ニ於テモ妥結ニ達セ 国政府間ニ特定ノ根本的問題ニ付意見ノ相違存在セル 式ニシテ拘束力ナキ」旨記載アル文書ヲ手交セル ノ点意義不明確電照中)及右提案ニ関スルロ頭ノ討 タル保障ハ政治的膨張又ハ武力ニ依ル経済的権利利益若 特典ノ獲得ヲ企画スル一切ノ政策ヲ含ムモノト了解 コトニ言及ス メント コト 頭 H コト 野中両 非公 · 此

平洋諸問題ノ満足ナル解決ニトリ肝要ナルヲ信ス因テ同政ス然レ共前記諸点ニ関スル意見ノ一致及明確ナル了解ハ太合衆国政府ハ討議ノ終結促進ヲ容易ナラシメムコトヲ希望

回答ヲ得レハ幸甚ナリ回答ヲ得レハ幸甚ナリの答ヲ得レハ幸甚ナリ各政府カ自国ノ政策決定ノ為自国ノ国派ヲ求ムル次第ナリ各政府カ自国ノ政策決定ノ為自国ノ国派ヲ求ムル次第ナリ各政府カ自国ノ政策決定ノ為自国ノ国府ハ右根本問題ニ対スル日本国政府ノ現在ノ態度ニ関シ表の公司を表している。

往電第七七七号懸案ノ三問題ニ付テ本使ヨリ二件ハヲ以テ総理ハ断乎トシテ進ムへキ旨ヲ答へ置キタリ

原

則

的

ニー致シアリ

リ)ヲ有スル旨語リ又長官モ傍ヨリ日本ノ現状ヲ尋ネタルニ対シテハ最モ同情(very sincerely sympatheticト申セ政策ノ変更ナキコトヲ要求スル電報アリ従テ自分ハ近衛公

昭和16年9月3日 豊田外務大臣宛(電報)

183

## 近衛メッセージに関する米国大統領との会談

について

ワシントン 9月3日後発

本 省 9月4日後着

七六号、第七七七号ノ通読上ケタル上自分モ近衛公モ貴大九月三日午後五時大統領ト内密ニ会見大統領ハ先往電第七第七七八号(極秘、館長符号)

使モ国務長官モ太平洋平和ノ為ニ努力スルカ日米トモニ国

其ノ閣僚ハ議会ニ披露シ秘密ヲ保チ難⑵ 支那ヲシテ納得セシムルノ必要ヲ繰返ヘシタリ 二、三字句ノ点アルヲ云ヒ尚話題纏リタル以上英、 算アルカ故ナリト説明シ置キタルカ国務長官ハ其ノ他ニ尚 撤兵ニ関シテハ日本ノ総理カ出馬スル 会見日取ニ付テ大統領ハ九月下旬ニー約束アル 大統領ハ「チァーチル」ト会談ノ際毫モ日米国交調整会談 ノ内容ニ触レサリシカ右ハ英側ニテハ総テ閣僚ニ話 発放ナ パコトハ日 1) 米一 モ其ノ他ニ 申 蘭印、 致 ・セリ ス慣習 グノ成 又

ン・シップ」ニ俟ツコト多大ナル旨述へタル処大統領ハ首別レノ際太平洋平和ノ維持ハ大統領ノ「ハイ・ステーツマ

今ノ所約東ナキ様子ナリ

見スルニ付尚確カメ報告ス大統領ハ異存ナク長官ハ何トモ答へサリシカ明朝長官ト会責電第五二四号末段我方ノ立場声明ノ点ニ関シ話シタル処肯シ長官ハ日本新聞ノ論調ヲ気ニシ尚二三ノ質問アリタリ

昭和16年9月3日 在米国野村大使宛 (電報)

184

### 口米首脳会談を九月中に開きたい旨米国側に

申入れ方訓令

本 省 9月3日後8時35分発

第五二四号(大至急、館長符号、機械)

185 昭和16年9月4日 豊田外務大臣宛 (電報

点につき意見具申米国側オーラル・ステートメントが意図する

ن

ントン

4日前発

9 月 月

4

Ē

後

第七七九号(極秘、館長符号)

往電第七七五号ニ関シ

キ書キ出シニテ長々ト記述シアルモ要スルニ米国ノ求ムル往電第七七七号「オーラル・ステートメント」ハ理屈ッポ

種機微ナル外交案件ニハ付キモノニシテ本場合ニ限

ル

内ノ興論アリ自分ニ対シテハ頻々ト日本ト妥協スル為其ノ

ルモノニハアラスト認メラル此ノ点明四日「ハル」ト会見 得ントスコトニ基クモノニシテ抽象的且長文ノ回答ヲ求ム 和平条件中ノ難点タル撤兵問題ニ付日本側ノ明確ナル答ヲ ヘタル自衛権ノ問題、商業上ノ機会均等主義ノ問題及日支 会談ニ於テ最モ問題トナリ且「ハル」長官モ繰り返ヘシ述 所ハ両国首脳会談ノ成功ヲ予メ確保センカ為従来ノ非公式 ノ上確カムへキモ帝国政府ノ回答ヲ準備セラル 此ノ点充分ノ御用意ヲ仰キ度キ次第ナリ ルニ当リテ

在豐 米田 野務 対大使宛が大臣より

186

和16年9月

**4**日

(電報)

日米首脳会談に関する米国側の回答督促方訓

9月4日前11時45分発

省

第五二五号(大至急、 館長符号、

往電第五二四号二関

夜冒頭電ノ趣旨ニヨリ可然米局長ヲシテ在京米大使ニ申入問題ノ性質上至急処理方必要トスルニ付当方ニ於テモ三日 シメ至急米政府ノ回答取付ケ方要請セシメ置キタル ハ右御含ミノ上此上トモ至急御手配相成度シ 二就

> 187 昭 和 16 年 ·9 月 Ħ 豊在 田 州 国 務村臣大 宛使 (電報)

米国側オー ・ラル ステー トメントの四原 然則に

関する米国国務長官との会談について

ワシントン 9 月 9月5日 4 · 日後

第七八二号(極秘、 館長符号)

コハ 未解決ノ問題ヲ先ツ片付ケルコトト致度シト述ヘタルカ 明ニシ居ル次第モアリ従来ノ非公式会談ニ於テ引懸り居ル 上ケ就中機会均等ノ原則ニ関シ同長官年来ノ主張ヲ繰リ返 四日午前「 支那和蘭等ノ第三国ヲ trade off スルニアラスヤト モ見ユル通り帝国政府トシテハ原則トシテ異存ナキコトヲ ヘシ述へタリ依テ本使ヨリ此ノ問題ハ二十八日我方回 トメント」冒頭ノ四原則(往電第二七七号末段参照)ヲ取 ルコト肝要ニシテ米国トシテハ日本トノ会談ニ依り英国 意向ヲ探リタル処「ハル」ハ三日付「オーラル ル」ハ根本原則(即チ前記四原則)ノ問題ヲ先ツ処理 .ハル」長官往訪大統領ノ所謂予備会談ニ付先方 ステー 答二

~ ] 方直チニ先方へ申入レラレ度ク当方ニ於テモ手配ス セテハ当方ノ期待ト全ク相反スル次第ナルニ付右ノ 項 撤回

ヲ与フ

コト

ヲ欲セス日本モ此等ノ原則ニ立ツモノナ

上右第三国ヲ納得セシムル要アリ

述 ル

ラ

カニシタル

近衛メッセ ジに関する 駐日独国大使との

談につ C

日

往電第七七六号末段ニ関シ

之ヲ要スルニ本日

会談ニ於テ先方ノ態度仲々硬化シ

9

iv

第八〇〇号 (館長符号)

有様ヲ認メ

様察セラレ

タリ

防共駐兵ニモ反対ニシテ日本ノ完全ナル撤兵ヲ希望シ居ル

文案ヲ取除キテハ如何ト申シタル処「ハ

ル」ハ難色アリ

尚

ニ対スル両国ノ

態度ノ問題ニ付テハ同提案ニ見ユル交換公

本使ヨリ更ニ六月二十一日付米国側提案ニ言及シ欧

州戦争

189

昭和16年9

Ă

10

日

在豊 独苗国外

大島大使宛が務大臣より

シ要旨左ノ通リ説明シ置キタル趣ナリ タルモ差支ノ為次官代リテ会ヒタル 八月二十九日「オット」大使ヨリ本大臣ニ会見方申越アリ カ其際次官 八質問 三応

一、本件 ス又右 現状ヲ打開シ太平洋ノ空気ヲ明朗ニセンカ為ニ日米双方 合ヲナスカト云フカ如キ具体的問題ニ触レ居ルモノニ非 ノ間ニ話ヲ始メントスル趣旨ニシテ如何ナル ヹ 「メッセージ」ハ要スルニ緊迫化セル 17 セージ」ニ対シ大統領ヨリ 来夕回答ニ接シ 日 問題二付話 米関係ノ

188 和16年9月 4 日 在米国野村大使宛豊田外務大臣より

合せ方申入れについて

日米首脳会談に関する我が

方の一方的発表見

第五二六号(大至急、 館長符号、

月 4

日

後3時40

分発

往電第五二四号末項ニ関シ

我方ノ真意ニ付誤解ヲ招キ延イテ本件会談ヲ不成立ニ終ラ

二、三国同盟ノ目的ハ禍乱ノ戡定ト平和ノ克服ニ在 適切ナリトノ見方モ有リ得へキ旨述へタリ) ヲ一致団結セシムルヨリモ之ヲ宥メ内部ノ崩壊ヲ計ル方 テ穏健ナル態度ニ出テタリ日本ノ目標ハ現在ニ於テモ米 事毎ニ対独強硬措置ニ出テタルニ拘ハラス米ニ対シ極メ 其ノ軍事的準備ヲ促進スル気味アリタリ此間独逸ハ米カ 誤ニ非サリシモ結果ハ却ツテ米ノ輿論ヲ益々硬化セシメ セシムルノ必要アリト認メ之ニ対シ強硬ナル態度ヲ取ル シテ我枢軸外交ノ本質ニ反スルモノニ非ス(私見トシテ コト適当ナリトノ考慮アリタルハ当時ノ情勢ヨリ判断シ 次官ヨリ前大臣当時ハ米ノ参戦防止ノ目的ノ為米ヲ反省 二交渉開始トナルモ常ニ平和ノ維持ヲ目標トスルモノニ ハ当時ノ御詔勅其他政府当局ノ発表ノ通リニシテ日米間 参戦ヲ防止スルコトニ在リ只此際米ヲ刺激シテ同国民 ル コト

ルモ次官ノ説明ノ程度ニ止メ置ケリニ、三十日本大臣トノ会談ノ際同大使ヨリ更ニ質問アリタ

四「九月二五日日本案」の提示

昭和16年9月3日 連絡会議決定

190

# 連絡会議において決定された日米共同声明骨子

記一 日米交渉方針案

二 日米国交調整協定総理大臣案

日米交渉ニ関スル件

共同声明)ニ移行セムトスが、七月二十四日米大統領ノ提案、八月十七日米申入レニー、七月二十四日米大統領ノ提案、八月十七日米申入レニー、七月二十四日米大統領ノ提案、八月十七日米申入レニー、七月二十四日米大統領ノ

||日本ハ左ノ諸項ヲ約諾ス

事項ニ付テハ日本トシテ同意ナリ。(1日米予備的非公式会談中既ニ一応日米合意ヲ見タル

方ニ対シテモ同様故ナク武力的進出ヲナサズ。四仏印ヲ基地トシテ近接地域ニ武力的進出ヲナサズ北

条約ニ対スル日本ノ解釈及之ニ伴フ実行ハ専ラ自主セラルベク、又米ノ欧州戦参入ノ場合ニ於ケル三国ハ日米ノ対欧州戦争態度ハ防護ト自衛ノ観念ニ依リ律

速カニ撤兵スル用意アリ。現ノ上ハ日支間ノ協定ニ遵ヒ支那ヨリ出来得ル限リ現ノ上ハ日支間ノ協定ニ遵ヒ支那ヨリ出来得ル限リニ日本国ハ日支間ノ全面的正常関係ノ回復ニ努メ右実

的ニ行ハルベシ。

於テ行ハルル限り制限セラレザルベシ。(お支那ニ於ケル合衆国ノ経済的活動ハ公正ナル基礎ニ

然資源ノ生産獲得ニ協力ス。と行ハルベク合衆国が必要トスル同方面ニ於ケル天と行ハルベク合衆国が必要トスル同方面ニ於ケル天体り且国際通商関係ニ於ケル無差別待遇ノ原則ニ遵(ハ南西太平洋地域ニ於ケル日本ノ活動ハ平和的手段ニ

日本国政府ハ日米間ニ正常ナル通商関係ヲ回復セシ